

和歌山県立近代美術館年報

二〇一七(平成29)年度



目次

刊行にあたって	1
和歌山県立近代美術館の使命	2
沿革	3
展覧会事業	7
普及事業	41
作品貸付	48
調査・研究・発表活動および対外協力活動	50
収集事業	53
図書資料収集	66
保存事業	69
管理運営	70
関係法規・規則・規定等	73
建築概要	80
案内	82

刊行にあたって

2017(平成29)年度の年報を刊行いたします。

和歌山県立近代美術館は、1963(昭和38)年に和歌山城二の丸跡に開館した和歌山県立美術館を前身とし、1970(昭和45)年、近代美術を標榜するわが国5番目の美術館として県民文化会館1階に開館しました。そこで23年間の活動を続けたあと、1994(平成6)年7月、現在の場所に新築移転しました。

開館以来、当館は和歌山県にゆかりのある作家について調査と紹介を続ける一方、「和歌山版画ビエンナーレ」や「関西の美術家シリーズ」など独自の展覧会を通じて、日本国内はもとより海外に向けても、個性的な文化の発信地としての役割を果たしてまいりました。これらは、近代美術の展示・収集活動にとどまらず、今日の多様化する表現に対応し、幅広い美術を紹介する礎となっています。

本年の特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」と「明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」は、それぞれ福武コレクションと岡山県立美術館、そして島根県立石見美術館の協力を得て開催できました。当館の限られた展覧会事業予算ではありましたが、「国吉と石垣」展では、アメリカに残されていた石垣の新たな作品を発掘・収集し得たこと、「大下藤次郎展」では、閉幕後展覧会交換事業として、当館のコレクション展を借用先の石見美術館でも開催できたこと(和歌山県立近代美術館名品展「モダン・アートに出会う5つの扉」、2018年4月～6月)は、今後の地方公立館とのコレクションの交流事業を考える意味でも貴重な成果でした。

収蔵作品については、これも限られた予算の枠内で、先の石垣作品をはじめ、洋画や日本画作品に秀作を購入することができました。また、夏休み恒例の「なつやすみの美術館」展でも、多くの来館者を集め、会場内でのワークショップの常時開催という当館ならではの企画も合わせ、こどもと大人が出会う活気ある場となりました。

展覧会企画の裏付けとなる調査・研究活動は、一方で作品・資料収集の契機ともなり、その充実がまた新しい企画を生み出す好循環が、基本的に保たれてきています。教育普及活動においても、教育現場や大学との連携を密に保つことによって、多彩な美術館教育を日常的に提供しました。

作品・資料の保存・管理、施設の維持・修繕なども概ね行いましたが、現在の新館開館からすでに25年近くが経過し、建物の機械設備の刷新も急務であり、まず空調、そして照明の工事に着手する予定です。大規模改修をにらんでのロードマップ作成も引き続きの課題です。

当館の活動は、ご来館くださる方々をはじめ、多くの皆様のご支援とご協力によって成り立っています。ここに心から感謝申し上げるとともに、その成果をご報告し、さらに充実した美術館活動を進める基礎とするため、本年報を刊行いたします。

2019(平成31)年3月

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館の使命

芸術は、私たちに楽しさや深い感動、精神的な安らぎをもたらします。芸術作品に触れることで、人は豊かな人間性を涵養し、未来への創造力を自らのうちに育むことができます。

和歌山県立近代美術館は、展覧会等を通じて人々に国内外の優れた美術文化に接する機会を提供し、地域や学校と連携しながら各種事業を通じて学校教育や生涯学習を支援することをめざします。そうした活動を通じて文化による地域作りを活性化し、文化資源の保全と活用を図り、文化芸術を担う人作りの推進に努めます。

このような目的を実現するため、以下の基本方針をもって臨みます。

1 魅力ある展覧会を開催します。

県民に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、魅力的な特別企画展・企画展を開催するとともに、充実した館蔵品コレクションを活用して常設展を開催します。展覧会は次の4つの方針によって開催します。

- ①国内の近現代美術を紹介
- ②海外の多様な美術を紹介
- ③和歌山ゆかりの優れた作家を紹介
- ④現在活躍している若手作家を紹介

2 調査・研究の充実を図り成果の公表と反映に努めます。

美術史等の研究に寄与するため、充実した調査・研究を行い、その成果を展覧会や教育普及活動等に反映させ、印刷物、インターネット等を通して公開します。

3 作品・資料の収集を行います。

美術作品収集方針に沿って作品・資料の収集を行い、県民の文化遺産のさらなる形成に努めます。

4 所蔵作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備を行います。

収集した作品・資料を文化財として活用し、文化遺産として未来に伝えるため、状態調査及び保存修復、保存環境の整備に努めます。

5 地域と連携し学校教育や生涯学習を支援します。

地域の学校と連携して、子どもたちが団体鑑賞、体験的プログラムに参加できる環境を整備することによって、また鑑賞教材の作成等を通じて、幅広い学習支援を行います。多様化する県民の関心に応えるため、ワークショップや解説会への参加等を通して生涯学習の支援を行います。またボランティアや友の会との協働を図り、他の県立博物館施設をはじめとする生涯学習施設・関係機関・団体等と連携します。

6 国内外の美術館や関連組織等と連携し、多様な活動を展開します。

これまで深めてきたわが国の美術館や関連組織等との信頼関係を基に、さらなる学術交流を行い、より質の高い、幅広い事業を展開するように努めます。国内外の美術館に所蔵作品・資料を貸し出すことにより、当館の優れたコレクションの魅力を発信します。本県の美術文化の発展並びに博物館活動を通じて広く知的資源の蓄積に寄与できるよう努めます。

7 利用者が安全で快適に利用できるよう美術館運営を行います。

すべての利用者が安全で快適に利用できるよう、施設・設備の維持管理を行うとともに、危機管理、安全、アメニティーに対する職員の意識向上に努めます。また施設の美観の保持と衛生管理に努めます。

沿革

■和歌山県立美術館

- 1963(昭和38)年
3月17日 旧和歌山城二の丸跡に開館
7月 川口軌外展
10月 第1回明治・大正・昭和名作美術展
11月 第17回和歌山県美術展(1969年第23回展まで開催)
- 1964(昭和39)年
4月 紀州陶磁器展
10月 第2回明治・大正・昭和名作美術展
- 1965(昭和40)年
3月 祇園南海展
5月 長沢蘆雪名作展
7月 日高昌克展
10月 近代洋画名作展 特設・原勝四郎遺作展
- 1966(昭和41)年
3月 ダリ・シャガール・ピュッフェ版画展
6月 石垣栄太郎遺作展
6月 日本伝統工芸秀作展
7月 川端龍子展
10月 松方コレクション展
- 1967(昭和42)年
4月 国際青年美術家展・日本／アメリカ展
8月 和歌山アンデパンダン展
10月 富岡鉄斎展
- 1968(昭和43)年
3月 桑山玉洲展
4月 浮世絵総合展(吉川観方コレクション)
7月 1968和歌山アンデパンダン展
9月 扇絵展
10月 明治100年記念郷土作家回顧展
- 1969(昭和44)年
4月 保田龍門展
10月 明治大正昭和名作美術展
- 1970(昭和45)年
3月 京都の近代日本画展
4月 日本女装展(吉川観方コレクション)
11月2日 廃館

■和歌山県立近代美術館

- 1970(昭和45)年
11月2日 和歌山県民文化会館内に開館
第24回和歌山県美術展(1993年第47回展まで開催)
- 1971(昭和46)年
3月 大夢・晩花展
4月 竹久夢二展
8月 紀州の風景画展
- 1972(昭和47)年
1月 浜口陽三版画展
3月 原勝四郎展
4月 現代日本絵画秀作展
10月 アメリカにおける日本人作家回顧展
—石垣栄太郎・国吉康雄・ヘンリー杉本
- 1973(昭和48)年
3月 地中海の古代美術展
4月 日本伝統工芸秀作展
10月 川口軌外展
- 1974(昭和49)年
4月 吉田政次遺作展
10月 碓伊之助展

- 1975(昭和50)年
10月 木下孝則回顧展
- 1976(昭和51)年
2月 1910年代における京都日本画の新動向
10月 木下義謙作品展
- 1977(昭和52)年
2月 田中恭吉展
10月 川端龍子展 龍子 そのすべて
- 1978(昭和53)年
10月 日高昌克展
- 1979(昭和54)年
2月 神中糸子と工部美術学校展
5月 村井正誠展
10月 高井貞二展
- 1980(昭和55)年
3月 川口軌外とその周辺
—和歌山の初期独立展系作家たち—
10月 開館10周年記念 1930年協会の作家たち展
- 1981(昭和56)年
3月 恩地孝四郎・田中恭吉・逸見享版画展
10月 下村観山—その人と芸術—
- 1982(昭和57)年
2月 建畠覚造展
7月 イタリア美術の一世紀展《1880-1990》
10月 稗田一穂展
- 1983(昭和58)年
7月 関西の美術家シリーズ1
—津高和一・泉茂・吉原英雄展
10月 日本の洋画秀作展
- 1984(昭和59)年
2月 和歌山の作家と県内洋画壇展
7月 関西の美術家シリーズ2 元永定正・白髪一雄展
10月 紀州の風景を描いた作家たち展
- 1985(昭和60)年
3月 第1回和歌山版画ビエンナーレ展
7月 関西の美術家シリーズ3 彫刻の4人
—清水九兵衛・山口牧生・森口宏一・福岡道雄展
10月 開館15周年記念 近代洋画の展開
—初期独立美術協会の作家たち展
- 1986(昭和61)年
7月 独創傑出の画家 朝井閑右衛門の世界
10月 瑛九とその周辺
- 1987(昭和62)年
3月 第2回和歌山版画ビエンナーレ展
7月 関西の美術家シリーズ4 日本画の4人
—大野倣高・下村良之介・星野真吾・三上誠展
9月 太平洋を越えた日本の画家たち アメリカに学んだ18人
- 1988(昭和63)年
3月 描かれた動物たち
7月 関西の美術家シリーズ5 版画の4人
—井田照一・木村光佑・黒崎彰・船井裕展
10月 竹久夢二とその周辺
- 1989(昭和64・平成元)年
3月 第3回和歌山版画ビエンナーレ展
7月 関西の美術家シリーズ6 現代の造形
—土と布と糸 荒木高子・前川強・濱谷明夫展
10月 親と子で見る世界の名画展
- 1990(平成2)年
7月 関西の美術家シリーズ7 美術の現在
—4つの試み 宮崎豊治・北山善夫・木村秀樹・野田裕示展

- 10月 現代の陶芸 1980-1990 関西の作家を中心として
- 1991(平成3)年
- 3月 第4回和歌山版画ビエンナーレ展
- 7月 関西の美術家シリーズ 8 美術の現在
—彫刻の変容 小清水漸・北辻良央・川島慶樹展
- 9月 ポスター芸術100年展 サントリー美術館所蔵グランヴィルコレクション
- 1992(平成3)年
- 10月 版画芸術の饗宴—ケネス・タイラーと巨匠たち:1963-1992
- 1993(平成4)年
- 3月 第5回和歌山版画ビエンナーレ展

■新館計画

- 1988(昭和63)年
- 2月 政策調整会議において、美術館及び博物館2館の建設を決定
- 3月 新美術館の建設計画に係る基本的事項についての指導、助言を得るため「新美術館建設懇談会」を設置
- 9月 新美術館に係る基本構想策定のため、「新美術館建設検討委員会」を設置
- 1989(昭和64・平成元)年
- 4月 「和歌山県美術品取得基金条例」を設置
新美術館建設検討委員会より「和歌山県立新美術館の建設基本構想について」答申
- 8月 美術館の美術作品収集基本方針及び開館展等の開催に関する事項を検討、協議するため、「新美術館専門会議」を設置
美術館において収集する美術作品の選定に関し、審議するため「和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会」を設置
- 9月 新美術館専門会議において「新美術館の美術作品収集方針について」承認
- 1990(平成2)年
- 3月 新美術館の設計を「黒川紀章建築都市設計事務所」に委託
- 1991(平成3)年
- 7月 和歌山県美術品取得基金によりジョージ・シーガル《煉瓦の壁ぞいに歩く男》(1988)を購入
- 10月 施設着工式を挙げる
- 11月 和歌山県美術品取得基金によりマーク・ロスコ《赤の上の黄褐色と黒》(1957)を購入
- 1992(平成4)年
- 8月 和歌山県美術品取得基金によりフランク・ステラ《ラッカIII》(1968)を購入
- 1993(平成5)年
- 9月 和歌山県美術品取得基金によりパブロ・ピカソ《ミノートルマシー》(1935)、《泣く女》(1937)を購入
- 1994(平成6)年
- 2月 定礎式を挙げる
- 3月 工事完了
- 4月 新美術館へ移転

■和歌山県立近代美術館 新館

- 7月8日 新近代美術館開館
開館記念展 1 美術館へ行こう
- 10月 開館記念展 2 大正のまなざし
—若き保田龍門とその時代—
- 11月 小企画展 ルオーの「ミゼレーレ」
- 1995(平成7)年
- 1月 恩地孝四郎—色と形の詩人—

- 2月 小企画展 和歌山ゆかりの作家たち
- 4月 1994 年度新収蔵作品展
- 4月 ヴィクトリア&アルバート美術館展
—イギリス絵画の350年
- 7月 村井正誠展 色と形と心—人間の詩
- 8月 小企画展 美術館に行ったらよ!—風景ってなあに—
- 8月 小企画展 日本の近代版画
- 9月 保田春彦展
- 10月 野田裕示近作展
- 1996(平成8)年
- 1月 線画の世界—かたりの表現—
- 2月 ひかる・うごく・おとがする 20世紀の静かならざる作品たち
- 4月 美術館へ行ったら!?「絵画」というしくみ
- 6月 紀伊半島を歩いて
—ロジャー・アックリング&ハミッシュ・フルトン
- 8月 モスクワ、プーシキン美術館名作展—室内への視線—
- 9月 ホックニーのグリム童話
- 11月 日本のグラフィックデザイン
- 1997(平成9)年
- 1月 和歌山の版画家10人
- 3月 新しい関西の美術家たち ものとあらわれ
- 4月 美術館へ行ったらよ! コレクションに見る東京
- 5月 美術館へ行ったらよ! コレクションに見るパリ
- 7月 アルザスとフランス近代美術の歩み
—ストラスブル近代美術館展
- 8月 版画の技法・表現の手法
- 10月 マリノ・マリニ展
- 11月 アメリカの中の日本 石垣栄太郎と戦前の渡米画家たち
- 1998(平成10)年
- 1月 心のかたち
- 2月 泉茂 初期版画作品を中心に
- 4月 世紀末芸術の華 オープリー・ピアズリー展
- 5月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト1
- 6月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト2
- 8月 静けさの中から 星の贈りもの
- 9月 和歌山の日本画 コレクション・ダイジェスト3
- 10月 意味とイメージ —あらわれる浪漫主義の明治
- 12月 フランス現代美術展 眼と精神
- 1999(平成11)年
- 2月 関西の戦後美術 1950's-1990's
- 4月 めいさく根掘葉掘 アートと知り合い!
- 6月 デモクラート 1951-1957 開放された戦後美術
- 7月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト4
- 8月 熊野の音+熊野の色 増田感・北堅吉彦展
- 9月 サンフランシスコ近代美術館展
—カリフォルニア・アートシーン 1920's-1930's
- 11月 川口軌外展 ある洋画家の軌跡
- 12月 越境する想像力 素材との出会い
- 2000(平成12)年
- 2月 コレクションにみる 芸術と社会
- 4月 田中恭吉展
- 5月 定規とコンパス?幾何学図形と美術の表現
- 7月 印象派の巨匠 シスレー展
—イル・ド・フランスの光を愛して
- 9月 東欧絵本の世界展 国境を越える 子どものためのアート
- 11月 現代版画の軌跡 ゆめとめざめ
- 12月 日本の近代版画4 コレクション・ダイジェスト
- 2001(平成13)年
- 2月 版画今昔

4月 夢の世界のおくりもの アンデルセン童話・絵本原画展
 5月 うごけば、かわる。
 8月 宇佐美圭司・絵画宇宙
 9月 浜口陽三へのオマージュ
 10月 マックス・エルンスト展
 12月 一期一会であう めでる つたえる
 —コレクションによる全館展示

2002(平成14)年

4月 あたらしい画面をもとめて 関西の半世紀
 5月 「生活」を「芸術」として 西村伊作の世界
 7月 アンジェ美術館展
 9月 山本容子の美術遊園地
 11月 美術百科「この人のこの一点」の巻
 —コレクションによる全館展示

2003(平成15)年

4月 はじめての美術 絵本原画の世界展
 6月 チャベック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド
 7月 近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展
 9月 たがやのように 熟す画面の4つのかたち
 11月 和歌山県特別事業 創設40周年記念 文化表彰の歩み展
 12月 美術百科「七つの鍵」の巻
 —コレクションによる全館展示

2004(平成16)年

4月 和歌山県特別事業「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパン トゥデイ vol.6」
 4月 和歌山県特別事業 atW vol.1「永坂嘉光・鈴木理策 高野_熊野_聖地」
 6月 小野竹喬展
 7月 ピノッキオ その誕生から現代まで展
 11月 チャールズ&レイ・イームズ 創造の遺産展

2005(平成17)年

1月 開館10周年記念 美術百科「版画」の巻
 —コレクションによる全館展示
 4月 没後10年 遺業・泉茂
 6月 世界の版画名品選
 7月 夏休み わかやま美術探偵団
 関連企画 鈴木昭男「点音 in 和歌山」
 9月 版画家たちの表情
 11月 佐伯祐三—芸術家への道—

2006(平成18)年

1月 美術百科「世界一周」の巻
 —コレクションによる全館展示
 4月 ベトナム近代絵画展 花と銃
 —インドシナ・モダンの半世紀
 4月 小特集 追悼・建畠覚造+新収蔵作品
 6月 現代「日本画」の展望 —内と外のあいだで—
 8月 和歌山県特別事業 和歌山県美術展覧会第60回記念 和歌山の美術を担う作家たち展
 7月 小特集 野田裕示+鈴木理策
 9月 森鷗外と美術
 11月 小特集 没後20年高井貞二
 —ニューヨークのタカイ
 11月 科学の感情—あたらしい時代の感覚と表現—

2007(平成19)年

1月 美術百科「前衛の関西」の巻
 —コレクションによる全館展示
 4月 教育普及課を設置
 4月 竹久夢二展—描くことが生きること—
 4月 特集展示 大正デカダンス

「夢二学校」+「テレヲ・バンカ」
 6月 ふだん美術 —日常に向けた目と心—
 6月 特集展示 うるわしき技の世界 近現代美術の達人たち
 7月 relations 関係 —藤本由紀夫 /FUJIMOTO and
 7月 relations 関係 —藤本由紀夫 /happy conceptual
 —杉山知子+藤本由紀夫
 10月 森のなかで
 12月 美術百科「色・いろいろ」の巻
 —コレクションによる全館展示

2008(平成20)年

4月 抒情の様式
 6月 共作×共鳴×共感—ともに作られた作品たち
 7月 ルオーの〈ミセレーレ〉 人間へのまなざし
 9月 点と面の詩情—上前智祐・山中嘉一・坪田政彦
 11月 彼岸の美術
 12月 美術百科「この人はだれ」の巻
 —コレクションによる全館展示

2009(平成21)年

4月 原勝四郎展
 4月 アメリカをめぐる
 6月 油絵の理由—「あぶらえ」は好きですか?
 7月 生誕100年記念 浜口陽三展
 7月 サマー・ミュージアム—わかやま発見—
 9月 自宅から美術館へ 田中恒子コレクション展
 9月 コレクション名品展
 11月 世界遺産登録50周年記念
 描かれた紀伊山地の霊場と参詣道
 11月 和歌山県特別事業 第63回和歌山県美術展覧会(以降継続)
 12月 美術百科「ここはどこ」の巻
 —コレクションによる全館展示

2010(平成22)年

4月 開館40周年記念展I ようこそ彫刻の森へ
 4月 特集展示 宇佐美圭司 —絵画の歩み—
 7月 特集展示 大亦新治郎のスケッチから
 —明治・大正の和歌山のまち
 9月 開館40周年記念展II 日本近代の青春
 創作版画の名品
 10月 特集展示 保田春彦 近作デッサンを中心に
 11月 和歌山県特別事業 平山郁夫追悼展示、小沢道治展

2011(平成23)年

1月 開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて
 3月 版画の「アナ」 ガリ版がつなぐ孔版画の歴史
 3月 特集展示 吉田政次の世界
 4月 ポップ?ポップ!ポップ♡
 コレクションに見るポップなアートの50年
 6月 特集展示 生誕120年記念 恩地孝四郎・藤森静雄
 7月 なつやすみの美術館「みること」「うつすこと」
 9月 生誕100年 高井貞二展 —「昭和」を描いた人—
 9月 特集展示 生誕120年 保田龍門
 11月 吉原英雄展 画家のドラマ
 12月 特集展示 生誕130年 日高昌克
 12月 特集展示 吉原英雄を囲む作家たち

2012(平成24)年

2月 ホックニーのグリム童話
 3月 特集展示 井田照一
 4月 人間と自然の美術
 6月 なつやすみの美術館2:かたちと色のABC
 6月 特集展示 なつやすみ特集 野田哲也
 9月 生誕120年記念 田中恭吉展

- 9月 特集展示 幻想の美術
 11月 生誕 120 年記念 川口軌外の歩み展
 12月 特集展示 没後 70 年 建昌大夢
 2013 (平成 25) 年
 2月 謄写版の冒険 卓上印刷器からはじまったアート
 3月 特集展示 版画・図案・オブジェ
 4月 日本の絵画の五十年
 6月 特集展示 瑛九：紙の上の仕事
 7月 なつやすみの美術館 3 『美術の時間』
 9月 生誕 120 年記念 石垣栄太郎展
 9月 特集展示 没後 100 年 香山小鳥 ゆめの日のかけ
 12月 特集展示 人間と宇宙のドラマ：
 吹田文明・堀井英男・長岡國人
 12月 物質(モノ)と美術
 2014 (平成 26) 年
 2月 版画について考える ―101 年目の宿題―
 3月 特集展示 モノクロームの世界
 4月 美術館の運営状況等を評価することを目的として「和歌山県立近代美術館評価部会」を設置
 4月 建昌覚造と戦後の彫刻 かたちをさぐる
 6月 特集展示 生誕 120 年 大亦観風
 7月 なつやすみの美術館 4 生きている！
 9月 特集展示 没後 50 年 野長瀬晩花
 11月 観光する美術 和歌山から始まる旅
 12月 特集展示 コレクション/ドネーション
 2015 (平成 27) 年
 1月 『月映』展 田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎
 一木版にいのちを刻んだ青春
 3月 和歌山と関西の美術家たち リアルのリアルのリアルの
 3月 特集展示 『版画』の明治―印刷と美術のはざままで
 3月 「和歌山県立近代美術館の使命」を公開
 5月 保田龍門・保田春彦展
 6月 特集展示 くりかえしの美
 7月 なつやすみの美術館 5 つぶやき おはなしものがたり
 9月 ここだけの日本画
 9月 特集展示 アメリカ移民の歴史と芸術家たち
 9月 特集展示 生誕 120 年 逸見享
 12月 生誕 110 年 村井正誠展 ひとの居る場所
 12月 特集展示 光について
 2016 (平成 28) 年
 3月 宇佐美圭司回顧展 絵画のロゴス
 3月 特集展示 謄写印刷工房から―印刷と美術のはざままで
 4月 恩地孝四郎展 抒情とモダン
 関連企画 本の美術：ルリユールへの誘い
 6月 特集展示 ドローイング―水彩・パステル・紙の世界
 7月 なつやすみの美術館 6 きろくときおく
 9月 特集展示 薔薇色の鏡 銅版画の技と表現
 10月 和歌山県特別事業 第 1 回和歌山県ジュニア美術展覧会 (以降継続)
 11月 動き出す！絵画 ペール北山の夢
 ーモネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち
 11月 大正の異色画家たち(特別展「動き出す！絵画」第二部)
 2017 (平成 29) 年
 1月 泉茂 ハンサムな絵のつくりかた
 1月 特集展示 群像―交錯する声
 4月 現代版画の展開
 5月 特集 おはなしのなかへ
 6月 鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展
 7月 なつやすみの美術館 7 すききらい、すき？ きらい？
 9月 特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ

- 10月 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎
 2018 (平成 30) 年
 1月 特集 はじまりの景色
 2月 明治 150 年記念 水彩画家・大下藤次郎展

2017 (平成 29) 年度展覧会一覧

1. 特別展

- 1. アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎 8
10月7日(土)～12月24日(日)
- 2. 明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展 13
2018(平成30)年2月10日(土)～3月25日(日)

2. 企画展

- 1. 現代版画の展開 18
4月8日(土)～6月25日(日)
- 2. なつやすみの美術館7 すききらい、すき? きらい? 21
7月8日(土)～9月18日(月・祝)

3. 常設展

- 0. コレクション展 2017-春 前年度より継続
1月27日(金)～5月7日(日)
- 0. 特集 群像—交錯する声 前年度より継続
1月27日(金)～5月7日(日)
- 1. コレクション展 2017-夏 26
5月30日(火)～9月10日(日)
- 2. 特集 おはなしのなかへ 28
5月30日(火)～9月10日(日)
- 3. 鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展 30
6月14日(水)～9月10日(日)
- 4. コレクション展 2017-秋 32
9月20日(水)～12月17日(日)
- 5. 特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ 34
9月20日(水)～12月17日(日)
- 6. コレクション展 2018-冬春 36
2018(平成30)年1月4日(木)～4月15日(日)
- 7. 特集 はじまりの景色 38
2018(平成30)年1月4日(木)～4月15日(日)

1-1. 特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」

- 会 期： 2017 (平成 29) 年 10 月 7 日 (土) ～12 月 24 日 (日)
- 会 場： 展示室 C (2 階)
- 主 催： 和歌山県立近代美術館
- 共 催： 公益財団法人 福武財団
- 協 力： 岡山県立美術館、太地町立石垣記念館
- 企 画 協 力： 岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究講座
- 内 容： 戦前のアメリカへ移民として渡り、太平洋戦争という困難な時期をくぐりながら、画家として活躍し、親交のあった国吉康雄 (岡山市出身 1889～1953) と石垣栄太郎 (和歌山県太地町出身 1893～1958) の足跡を福武コレクション、そして当館コレクションを中心に辿った。
- 展 示 点 数： 作家 121 点、資料 35 点
- 担当学芸員： 奥村一郎
- 関 連 事 業：
- ・講演会「包囲された人々：石垣栄太郎と国吉康雄の身体表現」
日時：10月14日(土) 30名 14:00～16:00
講師：王士圃(シープ・ワン/ShiPu Wang) カリフォルニア大学マーセド校准教授
通訳：櫻井敬人(太地町歴史資料室学芸員)
 - ・国吉康雄検証ドキュメンタリー「国吉を誤解している日本・忘れたアメリカ」上映会
監督：才士真司(岡山大学准教授/本展共同企画/映像作家)
日時：11月19日(日) 5名、14:00～15:30 12月3日(日) 35名 ※才士真司氏のアフタートークあり 14:00～16:00
 - ・フロアレクチャー
日時：10月9日(月・祝) 12名、10月29日(日) 6名 いずれも14:00～15:00 奥村一郎
 - ・ギャラリートツアー
日時：12月24日(日) 40名 14:00～15:30 才士真司+奥村一郎
 - ・こども美術館部「ひとりとふたり」
日時：12月9日(土) 5名 14:00～14:45 青木加苗
 - ・ワークショップ「見て、描いて、国吉康雄」
日時：12月10日(日) 10名 13:00～16:30
ナビゲーション：岡山大学大学院教育学研究科美術教育コース
共催：岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究講座、和歌山県立近代美術館
- 制 作 物：
- ・ポスター (B2 判、オフセット印刷)
 - ・チラシ (A4 判、オフセット印刷)
 - ・リーフレット (A4 判 8 頁、オフセット印刷)
 - ・出品目録 (A4 判 5 頁)
 - ・プレスリリース (A4 判 4 頁)
 - ・英語版概要 (A4 判 1 頁)
- 入 場 料 金： 一般 700 円 (560 円)、大学生 400 円 (320 円) () 内は 20 名以上の団体料金 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。
- 工 夫： 移民として明治期に渡米し、20 世紀前半のアメリカで、親しい友人として過ごした二人が、対照的な作風を展開しながら困難な時代と向き合ったその軌跡を、二人とともにあった石垣の妻・綾子の回想を交えつつ辿った。二人の作品を個別に展示するのではなく、お互いの作品が向き合い対話するような展示構成とした。アメリカの研究者を招聘した講演会など多彩な関連事業も開催した。
- 自己評価・課題・改善案： 福武財団をはじめ、岡山県立美術館、太地町立石垣記念館など関係機関の協力を得ることで、国吉康雄と石垣栄太郎の初めての二人展を開催することができた。また国吉研究の講座を持つ岡山大学とも協働したワークショップなど各事業を展開することができた。予算の問題からリーフレットのみ制作したが、図録を求める声が多く、今後の課題である。
- 関 連 記 事：
- ・岡田智美「国吉康雄と石垣栄太郎 和歌山で渡米 2 人展 戦時の葛藤 照らし合わせ 暗喩に満ちた国吉ストレートな石垣 画風に違い」『山陽新聞』2017 年 11 月 2 日、19 面
 - ・「米国で活躍した画家 2 人を紹介する特別展 県立近代美術館で来月 24 日まで」『産経新聞』2017 年 11 月 11 日、24 面 (和歌山)
 - ・矢倉健次「職場体験 新聞作りや配達学ぶ 和歌山信愛中生、毎日新聞和歌山支局で」『和歌山』『毎日新聞』2017 年 11 月 11 日 (和歌山)
 - ・T 生「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎 和歌山県立近代美術館 切なく迫り来る動と静」(美と遊ぶ)『産経新聞』2017 年 11 月 24 日夕刊、5 面
 - ・「和歌山県立近代美術館 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『わかやま探検ミュージアム』12・1 月号 vol.44、2017 年 12 月 1 日発行、p.4
 - ・清水有香「米に移民 国吉康雄と石垣栄太郎展 和歌山 戦争に翻弄 表裏のような画」『毎日新聞』2017 年 12 月 6 日大阪夕刊、3 面
 - ・「揺れる思い対照的に 24 日まで 近代美術館で特別展 移民画家 国吉と石垣」『わかやま新報』2017 年 12 月 13 日、3 面
 - ・矢倉健次「石垣栄太郎 移民画家が描いた米社会 不明壁画の習作?公開「奴隷解放」近代美術館で国内初」『毎日新聞』2017 年 12 月 15 日、26 面 (和歌山)
 - ・「国吉康雄に近づこう カゼイン絵の具ワークショップ」『わかやま新報』2017 年 12 月 17 日、7 面
 - ・山野英嗣「時代は確実に変わりつつある。」(ブロック報告 近畿)『ZENBI 全国美術館会議機関誌』Vol. 13、2018 年 1 月 31 日、pp.14-15
 - ・教育ラジオ放送「定期便 教育の窓」特別展「アメリカへ渡った二人・国吉康雄と石垣栄太郎」『和歌山放送』2017 年 10 月 14 日放送
 - ・小吹隆文「和歌山で、日系移民画家の 2 人展」(lmaga.jp)2017 年 10 月 16 日 <https://www.lmaga.jp/news/2017/10/29979/>
 - ・小吹隆文「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」(artscape レビュー) 2017 年 11 月 1 日号 http://artscape.jp/report/review/10140644_1735.html
- 情 報 掲 載：
- ・「日本の文化と歴史を見に行く 関西・秋の芸術散歩 和歌山県立近代美術館 「国吉康雄と石垣栄太郎 アメリカへ渡った二人」展」『Honda

Cars 大阪コミュニケーションマガジン コミュマガ』No.21、3面

- ・「和歌山県立近代美術館便り ◎特別展 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『ワカビー』9・10月号 vol.75、2017年9月発行、p.7
- ・「和歌山県立近代美術館 この秋、特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」展開催」福武教育振興財団機関誌『FUEKI』vol.64、2017年9月25日発行
- ・「展示1 特別展 アメリカへ渡った画家」『ニュース和歌山』2017年10月7日、10面
- ・「和歌山県立近代美術館 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『美連協ニュース』No.136、2017年11月号、pp.27-28
- ・「和歌山県立近代美術館便り ◎特別展 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『ワカビー』11・12月号 vol.76、2017年11月発行、p.7
- ・「information 5 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『建築と社会』2017.11 vol.98 No.1148、p.39
- ・「ギャラリー 和歌山◇特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」」『読売新聞』2017年11月24日、24面
- ・「art 和歌山県立近代美術館 特別展 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『NATTS』2017年12月号、p.16
- ・「和歌山県立近代美術館 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」『つくりびと』2017.12 No.65、p.15
- ・「BT RECOMMENDS!【今月のイチ押し展覧会】 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎 和歌山県立近代美術館／和歌山」美術手帖 2017年12月号『ART NAVI』2017年12月1日発行、p.11
- ・テレビ和歌山、14時50分からのニュース、午後6時からの番組「5チャンネルDO!」にて展覧会紹介。2017年10月12日放送
- ・NHK和歌山、番組「あすのWA!」にて展覧会紹介。2017年10月13日、20日放送
- ・J:COMチャンネル地デジ11ch デイリーニュース～和歌山～にて展覧会紹介。2017年11月放送
- ・和歌山放送、番組「ホンダ・ドリーム・ナビ」全5回にて展覧会紹介。2017年11月13日～17日放送

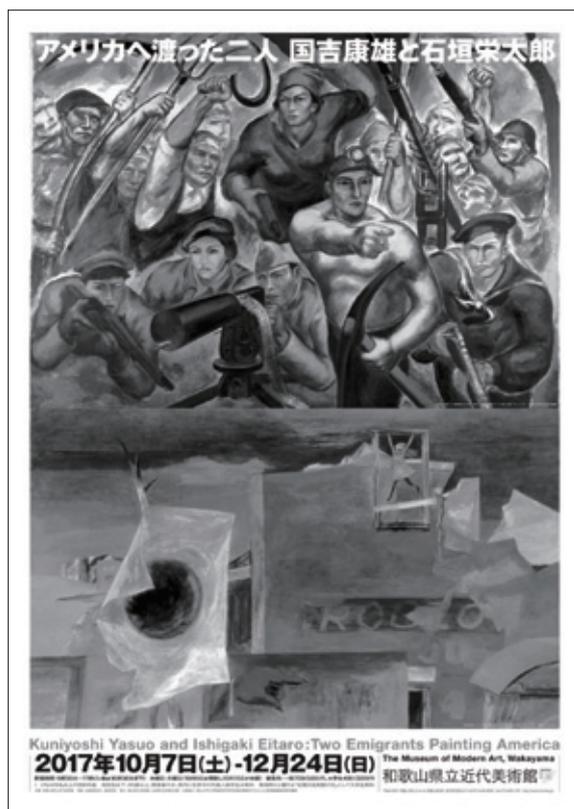
「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
0 はじめに						
1	国吉 康雄	ミスターエース	1952 (昭和 27)	油彩、キャンバス	117.0 × 67.0	福武コレクション
2	石垣 栄太郎	ボーナス・マーチ	1932 (昭和 7)	油彩、キャンバス	145.4 × 107.0	石垣綾子氏寄贈
1 日本からアメリカへ ―旅立ちと出会い						
3	国吉 康雄	自画像	1918 (大正 7)	油彩、キャンバス	51.0 × 41.0	福武コレクション
4	国吉 康雄	テーブルの回りの人々	1916～1918 (大正 5～7)	エッチング、紙	12.5 × 10.2	福武コレクション
5	国吉 康雄	女、リンゴ、そして男	1916～1918 (大正 5～7)	ドライポイント、紙	9.8 × 12.4	福武コレクション
6	国吉 康雄	座る裸婦	1918 (大正 7)	油彩、キャンバス	41.0 × 46.0	福武コレクション
7	国吉 康雄	ピクニック	1919 (大正 8)	油彩、キャンバス	76.5 × 91.5	福武コレクション
8	国吉 康雄	果物のある静物	1920 (大正 9)	油彩、キャンバス	51.0 × 61.3	福武コレクション
9	国吉 康雄	漁村の風景	1920 (大正 9)	油彩、キャンバス	41.0 × 31.5	福武コレクション
10	国吉 康雄	家と湖のある風景	1917 (大正 6)	油彩、板	20.3 × 25.3	福武コレクション
11	国吉 康雄	メインの家	1918 (大正 7)	油彩、キャンバス	40.5 × 51.0	福武コレクション
12	石垣 栄太郎	自画像	1917 (大正 6)	油彩、キャンバス	46.0 × 37.3	石垣綾子氏寄贈
13	石垣 栄太郎	新宮中学時代スケッチ 1	1908 (明治 41)	鉛筆、紙	28.3 × 16.7	太地町立石垣記念館
14	石垣 栄太郎	新宮中学時代スケッチ 2	1908 (明治 41) 頃	鉛筆、紙	19.0 × 26.5	太地町立石垣記念館
15	石垣 栄太郎	新宮中学時代スケッチ 3	1908 (明治 41) 年 12 月 10 日	鉛筆、紙	19.4 × 30.0	太地町立石垣記念館
16	石垣 栄太郎	女の顔	1916 (大正 5)	油彩、ボード	27.4 × 21.0	石垣綾子氏寄贈
資料 1		『共存』	1917 (大正 6)	冊子		太地町立石垣記念館
資料 2		『桑港美以教会』	1913 (大正 2)	冊子		太地町立石垣記念館
資料 3		『画影会第一回作品展覧会後援者名簿』	1922 (大正 11)	冊子		太地町立石垣記念館
資料 4		『ニューヨーク市日本人美術家協会絵画彫刻展』出品目録	1922 (大正 11)	印刷、紙		太地町立石垣記念館
資料 5		『紐育新報社主催 邦人美術展覧会』出品目録	1927 (昭和 2)	印刷、紙		太地町立石垣記念館
資料 6		『独立美術家協会第 9 回展』カタログ	1925 (大正 14)	冊子		太地町立石垣記念館
資料 7		片山潜のポストカード	1920 年代 (制作年不詳)	印刷、紙		太地町立石垣記念館
資料 8		石垣栄太郎「片山潜の思い出」『明治文化全集合報』より	1955 (昭和 30) 年 10 月 25 日付			太地町立石垣記念館
17	菅野 衣川 (猛)	詩集『Creation Dawn』	1928 (昭和 3)	冊子		太地町立石垣記念館
18	ボイル、ガートルド	アグネス・スモデレーの顔	制作年不詳	レリーフ	18.0 × 18.8 × 2.3	太地町立石垣記念館
19	ボイル、ガートルド	「アダムとイブ」	制作年不詳	塑像	28.8 × 13.3 × 12.5	太地町立石垣記念館
20	ボイル、ガートルド	燭台	制作年不詳	塑像	26.8 × 9.0 × 8.7	太地町立石垣記念館
21	ボイル、ガートルド	「抱擁」	制作年不詳	塑像	14.8 × 5.5 × 4.8	太地町立石垣記念館
22	ボイル、ガートルド	石垣栄太郎像	1924 (大正 13)	石膏	38.5 × 23.5 × 23.5	太地町立石垣記念館
23	清水 登之	ヨコハマ・ナイト	1921 (大正 10)	油彩、キャンバス	76.2 × 96.5	
24	浜地 清松	暖炉	1911 (明治 44)	油彩、キャンバス	102.2 × 82.1	古座町立津荷小学校寄贈
25	浜地 清松	「風景」(浜地清松旧蔵画帖より)	1912 (大正元)	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
26	澤部 清五郎	「水車のある風景」(浜地清松旧蔵画帖より)	1912 (大正元)	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
27	澤部 清五郎	紐育の花売り(浜地清松旧蔵画帖より)	1912 (大正元)	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
28	作者不詳	「黄葉した木」(浜地清松旧蔵画帖より)	1912 (大正元)	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
29	作者不詳	サンクスギビングデイ(浜地清松旧蔵画帖より)	1912 (大正元)	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
30	作者不詳	サンクスギビングの夜(浜地清松旧蔵画帖より)	1912 (大正元) 頃	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
31	作者不詳	「地下鉄車両の中」(浜地清松旧蔵画帖より)	1918 (大正 7)	水彩、紙	22.8 × 33.3	浜地洋二郎氏寄贈
32	北川 民次	タスコの裸婦	1941 (昭和 16)	木版・染料、紙	24.0 × 41.8	小野忠重氏寄贈
33	野田 英夫	少女	1932 (昭和 7)	リトグラフ、紙	32.0 × 21.8	
資料 9-14		角南社一撮影石垣栄太郎作品写真5点、角南ポートレート1点(すべて石垣栄太郎旧蔵)				太地町立石垣記念館

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
2 1920年代 ニューヨークの国吉と石垣						
34	石垣 栄太郎	拳闘	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	75.4 × 91.2	
35	石垣 栄太郎	街	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	126.0 × 91.0	
36	国吉 康雄	野生の馬	1921 (大正 10)	油彩、キャンバス	51.0 × 76.3	福武コレクション
37	国吉 康雄	鶏小屋	1921 (大正 10)	油彩、キャンバス	51.0 × 41.0	福武コレクション
38	国吉 康雄	乳しぼり	1921 (大正 10)	油彩、キャンバス	61.0 × 50.5	
39	国吉 康雄	リトル・ジョー (農家の少年)	1924 (大正 13)	リトグラフ、紙	17.8 × 13.0	福武コレクション
40	国吉 康雄	カーテンを引く子供	1922 (大正 11)	油彩、キャンバス	56.5 × 38.5	岡山県立美術館
41	国吉 康雄	二人の赤ん坊	1923 (大正 12)	油彩、キャンバス	76.2 × 61.0	福武コレクション
42	国吉 康雄	水難救助員	1924 (大正 13)	油彩、キャンバス	76.5 × 63.5	福武コレクション
43	国吉 康雄	アクロバット	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	76.2 × 61.0	個人蔵
44	国吉 康雄	ロバのいる風景	1928 (昭和 3)	油彩、キャンバス	75.5 × 105.6	岡山県立美術館
45	国吉 康雄	藤椅子の女	1927 (昭和 2)	リトグラフ、紙	46.6 × 30.6	
46	国吉 康雄	アクロバット	1928 (昭和 3)	リトグラフ、紙	30.9 × 22.8	
47	国吉 康雄	海岸の板敷歩道にて	1936 (昭和 11)	リトグラフ、紙	25.5 × 35.6	
48	国吉 康雄	サウスパーウィック、メイン州	1934 (昭和 9)	リトグラフ、紙	22.8 × 31.7	
資料 15-18		石垣栄太郎旧蔵国吉関連資料 4点				
3 1930年代 一恐慌とファシズムの時代に						
49	国吉 康雄	化粧	1927 (昭和 2)	油彩、キャンバス	91.5 × 76.5	福武コレクション
50	国吉 康雄	休んでいるサーカスの女	1931 (昭和 6)	油彩、キャンバス	101.5 × 165.5	福武コレクション
51	国吉 康雄	バナナをつけた女	1936 (昭和 11)	油彩、キャンバス	86.8 × 64.3	福武コレクション
52	国吉 康雄	花瓶の花	1930 (昭和 5)	油彩、キャンバス	97.3 × 63.7	福武コレクション
53	国吉 康雄	椅子の上のロールパン	1930 (昭和 5)	油彩、キャンバス	76.7 × 61.4	福武コレクション
54	国吉 康雄	日本の張子の虎とがらくた	1932 (昭和 7)	油彩、キャンバス	85.3 × 125.7	福武コレクション
55	国吉 康雄	テーブルの上のがらくた	1935 (昭和 10)	油彩、キャンバス	76.2 × 101.6	福武コレクション
56	国吉 康雄	西瓜	1938 (昭和 13)	油彩、キャンバス	101.6 × 142.2	福武コレクション
57	国吉 康雄	洋梨	1931 (昭和 6)	墨、紙	27.3 × 24.2	個人蔵
58	石垣 栄太郎	キューバ島の反乱	1933 (昭和 8)	油彩、キャンバス	181.5 × 139.0	石垣綾子氏寄贈
59	石垣 栄太郎	[リンチ] 1	1933 (昭和 8)	鉛筆、紙	42.5 × 35.0	太地町立石垣記念館
60	石垣 栄太郎	[リンチ] 2	1933 (昭和 8)	鉛筆、紙	42.5 × 35.0	太地町立石垣記念館
61	石垣 栄太郎	K. K. K.	1936 (昭和 11)	油彩、キャンバス	76.8 × 91.6	石垣綾子氏寄贈
62	石垣 栄太郎	群像	1935 (昭和 10)	油彩、キャンバス	117.2 × 143.4	太地町立石垣記念館
63	石垣 栄太郎	ハーレム裁判所の壁画 (奴隷解放の部分)	1938 (昭和 13) 頃	油彩、キャンバス	112 × 109	個人蔵
64	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」画稿 (アメリカ独立革命)	1935-37 (昭和 10-12) 頃	木炭、紙	233.0 × 275.0	石垣綾子氏寄贈
65	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」画稿 (アメリカ独立革命の部分)	1935-37 (昭和 10-12) 頃	木炭、紙	127.6 × 127.8	石垣綾子氏寄贈
66	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」画稿 (アメリカの独立)	1935-37 (昭和 10-12) 頃	鉛筆、ボード	29.5 × 38.3	太地町立石垣記念館
67	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」画稿 (アメリカ独立革命)	1935-37 (昭和 10-12) 頃	鉛筆、ボード	29.2 × 33.0	太地町立石垣記念館
68	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」画稿 (アフリカにおける奴隷狩り) 1	1935-37 (昭和 10-12) 頃	鉛筆、ボード	29.2 × 30.5	太地町立石垣記念館
69	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」画稿 (アフリカにおける奴隷狩り) 2	1935-37 (昭和 10-12) 頃	鉛筆、ボード	29.2 × 33.2	太地町立石垣記念館
70	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」習作か 1	1935-37 (昭和 10-12) 年頃	鉛筆、紙	28.9 × 34.1	太地町立石垣記念館
71	石垣 栄太郎	「ハーレム裁判所の壁画」習作か 2	1935-37 (昭和 10-12) 年頃	鉛筆、紙	23.6 × 20.3	太地町立石垣記念館
資料 19-20		壁画の写真 2点		写真、紙		太地町立石垣記念館
資料 21		『LIFE』(ライフ) 誌 1944 (昭和 19) 年 4 月 14 日号		冊子		個人蔵
72	石垣 栄太郎	人民戦線の人々	1936-37 (昭和 11-12) 頃	油彩、キャンバス	148.5 × 207.0	石垣綾子氏寄贈
73	石垣 栄太郎	抵抗	1937 (昭和 12)	油彩、キャンバス	61.0 × 73.4	石垣綾子氏寄贈
74	石垣 栄太郎	[セメント・ミキサー]	1939 (昭和 14)	鉛筆、紙	35.1 × 42.5	太地町立石垣記念館
75	石垣 栄太郎	[中国における毒ガスと戦争]	1930年代	インク・鉛筆、紙	38.0 × 45.6	太地町立石垣記念館
76	石垣 栄太郎	『中国代表団、世界青年会議へようこそ』ポスター	制作年不詳	印刷、紙	56.0 × 35.5	太地町立石垣記念館
77	石垣 栄太郎	少年と牛	1939 (昭和 14)	油彩、キャンバス	40.9 × 51.2	太地町立石垣記念館
78	石垣 栄太郎	[綾子像]	制作年不詳	油彩、キャンバス	53.2 × 45.4	太地町立石垣記念館
79	マツイ・ハル (石垣綾子)	『憩なき波』(Restless Wave: An Autobiography)	1940 (昭和 15)	本		太地町立石垣記念館
資料 22		『戦争とファシズムに反対するアメリカン・リーグ』1937年度カレンダー	1936 (昭和 11)	印刷、紙		太地町立石垣記念館
資料 23		石垣栄太郎第 2 回個展カタログ	1940 (昭和 15)	印刷、紙		太地町立石垣記念館
資料 24		アメリカ美術家会議冊子	1936 (昭和 11)	冊子		太地町立石垣記念館
資料 25-28		アメリカ美術家会議展覧会カタログ (1-4)	1937-40 (昭和 12-15)	冊子		太地町立石垣記念館
資料 29-31		石垣栄太郎旧蔵ウィリアム・グロッパール関連資料 3点				太地町立石垣記念館
4 戦争、そして —アメリカと日本のあいだで						
80	石垣 栄太郎	捕虜	1940 (昭和 15)	油彩、キャンバス	71.2 × 86.0	石垣綾子氏寄贈
81	石垣 栄太郎	恐怖	1941 (昭和 16)	油彩、キャンバス	64.0 × 104.8	石垣綾子氏寄贈
82	石垣 栄太郎	強風	1942 (昭和 17)	油彩、キャンバス	65.2 × 80.6	石垣綾子氏寄贈
83	石垣 栄太郎	ヤドの一夜	1945 (昭和 20)	油彩、ボード	40.7 × 50.9	太地町立石垣記念館
84	石垣 栄太郎	[原爆被災の図]	1946 (昭和 21)	油彩、キャンバス	67.5 × 77.0	太地町立石垣記念館
85	石垣 栄太郎	男と女	1947 (昭和 22)	油彩、キャンバス	50.6 × 70.8	石垣綾子氏寄贈
86	石垣 栄太郎	バーゲンセール (禁男の室)	1947 (昭和 22)	油彩、ボード	42.8 × 52.6	石垣綾子氏寄贈
87	石垣 栄太郎	女の勝利 (オトコ)	1948 (昭和 23)	油彩、キャンバス	45.0 × 53.2	石垣綾子氏寄贈
88	石垣 栄太郎	地獄へ (情痴)	1949 (昭和 24)	油彩、キャンバス	105.2 × 71.4	石垣綾子氏寄贈
89	石垣 栄太郎	虚脱 (カタストロフ)	1949 (昭和 24)	油彩、キャンバス	72.8 × 90.8	石垣綾子氏寄贈
90	国吉 康雄	静物 (I)	1939 (昭和 14)	ゼラチン・シルバー・プリント	25.1 × 20.1	福武コレクション

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
91	国吉 康雄	静物 (2)	1939 (昭和 14)	ゼラチン・シルバー・プリント	23.5 × 20.0	福武コレクション
92	国吉 康雄	静物 (3)	1939 (昭和 14)	頃 ゼラチン・シルバー・プリント	23.5 × 20.0	福武コレクション
93	国吉 康雄	逆さのテーブルとマスク	1940 (昭和 15)	油彩、キャンバス	153.0 × 89.5	福武コレクション
94	国吉 康雄	戦争ポスターの習作「帝国主義粉碎」	1942 (昭和 17)	鉛筆、紙	42.8 × 35.0	福武コレクション
95	国吉 康雄	戦争ポスターの習作「太平洋の濺屑となれ」	1942 (昭和 17)	鉛筆、紙	42.8 × 35.0	福武コレクション
96	国吉 康雄	戦争ポスターの習作「祖母と二人の子ども」	1943 (昭和 18)	鉛筆・木炭、紙	53.3 × 40.6	福武コレクション
97	国吉 康雄	戦争ポスターの原案「敵を壊滅せよ—戦争国債を買おう」	1943 (昭和 18)	鉛筆、紙	42.6 × 35.0	福武コレクション
98	国吉 康雄	戦争ポスターの習作「敵の本質」(2)	1943 (昭和 18)	鉛筆、紙	42.8 × 35.0	福武コレクション
99	国吉 康雄	戦争ポスターの習作「殺人者」	1943 (昭和 18)	鉛筆、紙	42.8 × 35.0	福武コレクション
100	国吉 康雄	制作中	1943 (昭和 18)	カゼイン、石膏パネル	48.6 × 35.8	福武コレクション
101	国吉 康雄	くつろぎ	1942 (昭和 17)	油彩、キャンバス	40.8 × 30.2	福武コレクション
102	国吉 康雄	スージー	1943 (昭和 18)	カゼイン、石膏パネル	25.3 × 20.4	福武コレクション
103	国吉 康雄	夜明けが来る	1944 (昭和 19)	油彩、キャンバス	90.0 × 67.0	岡山県立美術館
104	国吉 康雄	窓辺の少女	1946 (昭和 21)	カゼイン・インク、紙	63.0 × 44.7	田辺市立美術館
105	国吉 康雄	少女よお前の命のために走れ	1946 (昭和 21)	カゼイン、石膏パネル	35.5 × 50.8	福武コレクション
106	国吉 康雄	ここは私の遊び場	1947 (昭和 22)	油彩、キャンバス	68.5 × 112.2	福武コレクション
107	国吉 康雄	恋人たちの道	1946 (昭和 21)	油彩、キャンバス	68.5 × 111.7	福武コレクション
108	国吉 康雄	風景 (コロラド)	1941 (昭和 16)	グアッシュ、板	25.1 × 40.3	福武コレクション
109	国吉 康雄	祭りは終わった	1947 (昭和 22)	油彩、キャンバス	100.0 × 176.0	岡山県立美術館
110	国吉 康雄	クラウン	1948 (昭和 23)	グアッシュ、紙	205 × 152	福武コレクション
111	国吉 康雄	今日はマスクをつけよう	1946-1947(昭和 21-22)	ワックス、キャンバス	31.0 × 23.0	福武コレクション
112	国吉 康雄	安眠を妨げる夢	1948 (昭和 23)	カゼイン、石膏パネル	50.8 × 76.2	福武コレクション
113	国吉 康雄	カーニバル	1949 (昭和 24)	リトグラフ、紙	39.8 × 24.8	
114	国吉 康雄	舞踏会へ	1950 (昭和 25)	カゼイン、石膏パネル	50.5 × 35.5	福武コレクション
115	国吉 康雄	鯉のぼり	1950 (昭和 25)	油彩、キャンバス	76.5 × 125.7	福武コレクション
116	国吉 康雄	ヘラルド	1950 (昭和 25)	カゼイン・クレヨン、紙	50.8 × 40.6	福武コレクション
117	国吉 康雄	自転車にのった手品師	1951 (昭和 26)	カゼイン・クレヨン・インク、紙	60.0 × 46.0	福武コレクション
118	国吉 康雄	曲芸師	1951 (昭和 26)	カゼイン・クレヨン・インク、紙	70.0 × 49.7	福武コレクション
119	国吉 康雄	通りの向こう側	1951 (昭和 26)	カゼイン、石膏パネル	30.2 × 50.6	福武コレクション
120	ニューマン, アーノルド	国吉康雄のポートレート	1941 (昭和 16)	ゼラチン・シルバー・プリント	37.7 × 45.5	福武コレクション
121	ニューマン, アーノルド	アート・スチューデント・リーグの同窓生たち	1950 (昭和 25)	ゼラチン・シルバー・プリント(モダンプリント)	40.6 × 60.8	福武コレクション
資料 32		国吉康雄回顧展 (ホイットニー美術館) パーティーの写真	1948 (昭和 23)			太地町立石垣記念館
資料 33		ホイットニー美術館での国吉康雄回顧展 石垣栄太郎による連載記事『北米新報』	1948 (昭和 23) 1948 (昭和 23)			太地町立石垣記念館
資料 34		石垣栄太郎遺作展 (文芸春秋画廊) 出品目録	1958 (昭和 33)			
資料 35		石垣栄太郎遺作展 (文芸春秋画廊) リーフレット	1958 (昭和 33)			太地町立石垣記念館



ポスター



チラシ表



チラシ裏



リーフレット



展示風景

1-2. 特別展「明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」

会 期：2018（平成30）年2月10日（土）～3月25日（日）

会 場：展示室C（2階）

主 催：和歌山県立近代美術館

特別協力：島根県立石見美術館

内 容：明治時代に活躍した水彩画家・大下藤次郎（1870～1911）。日本各地に水彩画ブームを巻き起こした画家の仕事、約120点の作品と40点の資料により紹介。大下が各地を旅しながら残した懐かしくて美しい明治日本の風景を通して、洋画の黎明期を探った。

展 示 点 数：20作家151点（うち大下藤次郎作品124点）、および大下藤次郎関連資料40点

担当学芸員：宮本久宣

関 連 事 業：・講演会「明治水彩画をプロデュース、大下藤次郎の多才多才」

日時：2月10日（土）21名 14:00～16:00

講師：川西由里（島根県立石見美術館専門学芸員）

・フロアレクチャー

日時：2月12日（月・祝）22名、3月4日（日）28名 14:00～15:00 宮本久宣

・こども美術館部「たびたび旅に出るたび」

日時：2月24日（土）8名 14:00～14:45 青木加苗

制 作 物：・ポスター（B2判、オフセット印刷）

・チラシ（A4判、オフセット印刷）

・リーフレット（A4判8頁、オフセット印刷）

・出品目録（A4判8頁）

・プレスリリース（A4判4頁）

・英語版概要（A4判1頁）

入 場 料 金：一般700円（560円）、大学生400円（320円）（ ）内は20名以上の団体料金 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第4土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫：作品を年代順にたどるオーソドックな構成により、大下藤次郎の画業を分かりやすく紹介するとともに、大下が水彩画の普及に尽力した側面を資料も交えて展示し、その活動の多面性を紹介した。合わせて大下の普及活動の影響を受け、和歌山でも水彩画を描いていた人物がいたことを紹介し、地元とのつながりを示した。開催年は明治150年を記念する年として、国の施策としても記念プロジェクトが進んでいた。そのプロジェクトに関連した記念事業として登録することで、広報効果を高めた。

自己評価・課題・改善案：大下藤次郎旧蔵資料を調査することで、和歌山にも大下の活動に影響を受けた人物がいたことを明らかにし、展示でも紹介することができたのは、和歌山の洋画史研究に寄与する成果であった。大下作品と合わせ、館蔵の水彩画作品をまとめて紹介するコーナーを設け、明治時代から昭和戦前期にかけての水彩表現の広がりも提示する展覧会とすることができた。島根県立石見美術館から一括借用が可能であったために経費的に実現することができた展覧会であった。東京国立近代美術館が所蔵する代表作や、田辺市立美術館が所蔵する水彩画作品などを追加することができれば、より充実した展示構成とすることができたと考えられる。

関 連 記 事：・市川由佳子「水彩画で見る懐かしい風景 県立近代美術館 大下藤次郎の企画展」『朝日新聞』2018年2月17日、29面（和歌山）

・山吹孝治「藤次郎の水彩画 魅力に迫る 普及解説書や作品一堂に 近代美術館で特別展」『毎日新聞』2018年2月17日、27面（和歌山）

・小吹隆文「おすすめ美術展ニュース Vol.84 明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」『大阪保険医雑誌』No.617、2018年2月号、p.45

・「大下藤次郎 淡い色彩 県立近代美術館 水彩画で知る明治時代」『読売新聞』2018年2月21日、30面（地域）

・「日本の自然風景見つめ 水彩画家・大下藤次郎展 3月25日まで 近代美術館」『わかやま新報』2018年2月21日、3面

・松本紗知「アート 新審美眼 158 大下藤次郎「赤道直下にて」（1898年）忘れ得ぬ光景 みずみずしく」『朝日新聞』2018年3月2日夕刊、3面

・清水有香「芸術 アート&音楽 スケッチ 清新なる水彩の伝道者」『毎日新聞』2018年3月14日夕刊、7面

・田中真治「明治期、水彩画の普及に尽力 和歌山で大下藤次郎展 作品や手記など展示」『神戸新聞』2018年3月15日、19面

・正木利和「美と遊ぶ 詩情豊かな水彩風景画 水彩画家・大下藤次郎展 和歌山県立近代美術館」『産経新聞』2018年3月16日夕刊、4面

情 報 掲 載：・「ミュージアム 和歌山県立近代美術館 特別展 明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」『紀州浪漫』冬号（Vol.63）、2017年12月1日、p.19

・「和歌山県立近代美術館便り ◎特別展「明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」」『ワカビー』1・2月号（vol.77）、2018年1月、p.7

・「水彩画家・大下藤次郎展」『ニュース和歌山』2018年1月27日、9面

・「水彩画家・大下藤次郎展」『毎日新聞』2018年2月9日、25面（和歌山）

・「明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展開催中 島根県立石見美術館コレクション」『和歌山特報』2018年2月11日、12面

・「Oshita Tojiro:The Pioneer of Japanese Watercolor Painting The Museum of Modern Art, Wakayama」『Kansai scene』2018年3月、p.16

・「ミュージアム 和歌山県立近代美術館 特別展 明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展 島根県立石見美術館コレクション」『紀州浪漫』春号（Vol.64）、2018年3月1日、p.19

特別展「明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」出品目録

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
1章 水彩画家を志す 1891-1898						
1	大下 藤次郎	貸家の裏口	1892 (明治25)	水彩、紙	27.0×15.4	島根県立石見美術館
2	大下 藤次郎	下駄屋の店先	1892 (明治25)	水彩、紙	18.8×23.8	島根県立石見美術館
3	大下 藤次郎	高田千歳町	1892 (明治25)	鉛筆、紙	28.5×38.3	島根県立石見美術館
4	大下 藤次郎	四ッ谷 谷町	1893 (明治26)	鉛筆、紙	29.2×37.8	島根県立石見美術館
5	大下 藤次郎	小石川白山御殿側	1893 (明治26)	鉛筆、紙	29.4×38.1	島根県立石見美術館
6	大下 藤次郎	越前堀	1893 (明治26)	鉛筆、紙	19.4×25.4	島根県立石見美術館
7	大下 藤次郎	護国寺内	1893 (明治26)	水彩・鉛筆、紙	25.0×18.9	島根県立石見美術館
8	大下 藤次郎	秋の川辺	1893 (明治26)頃	水彩・鉛筆、紙	15.2×23.4	島根県立石見美術館
9	大下 藤次郎	十二社裏	1893 (明治26)	鉛筆、紙	24.8×18.7	島根県立石見美術館
10	大下 藤次郎	西総田舎の景	1893 (明治26)	水彩・鉛筆、紙	29.6×38.0	島根県立石見美術館
11	大下 藤次郎	野の道	1895 (明治28)頃	油彩、キャンバス	23.5×17.5	島根県立石見美術館
12	大下 藤次郎	つり	1895 (明治28)	水彩、紙	15.5×24.2	島根県立石見美術館
13	大下 藤次郎	日暮里	1896 (明治29)	水彩、紙	18.3×29.8	島根県立石見美術館
14	大下 藤次郎	橋のある風景	1893 (明治26)	水彩、紙	13.7×20.9	島根県立石見美術館
15	大下 藤次郎	小石川	1896 (明治29)	水彩、紙	21.7×30.0	島根県立石見美術館
16	大下 藤次郎	白丸	1896 (明治29)-1897 (明治30)頃	水彩、紙	20.6×32.2	島根県立石見美術館
17	大下 藤次郎	小丹波	1896 (明治29)	水彩、紙	31.5×21.1	島根県立石見美術館
18	大下 藤次郎	多摩川上流	1896 (明治29)	水彩、紙	21.0×32.4	島根県立石見美術館
19	大下 藤次郎	修善寺	1896 (明治29)	水彩、紙	20.4×32.8	島根県立石見美術館
20	大下 藤次郎	清水寺	1896 (明治29)	水彩、紙	32.5×21.4	島根県立石見美術館
21	大下 藤次郎	仁和寺五重塔 (五重塔)	1896 (明治29)	水彩、紙	31.7×20.8	島根県立石見美術館
22	大下 藤次郎	館山	1896 (明治29)	水彩、紙	21.2×32.6	島根県立石見美術館
23	大下 藤次郎	浜辺の船	1898 (明治31)	水彩、紙	19.2×33.0	島根県立石見美術館
24	大下 藤次郎	相州秋谷	1897 (明治30)	水彩、紙	21.4×33.0	島根県立石見美術館
25	大下 藤次郎	興津	1897 (明治30)	水彩、紙	15.7×32.6	島根県立石見美術館
26	大下 藤次郎	富士をのぞむ	1897 (明治30)	水彩、紙	19.2×32.4	島根県立石見美術館
27	大下 藤次郎	武州向畑	1897 (明治30)	水彩、紙	31.2×21.7	島根県立石見美術館
28	大下 藤次郎	越ヶ谷の春色	1897 (明治30)	水彩、紙	19.8×32.0	島根県立石見美術館
29	大下 藤次郎	綾瀬	1897 (明治30)	水彩、紙	18.2×31.4	島根県立石見美術館
30	大下 藤次郎	巢鴨の牛小屋	1897 (明治30)	水彩、紙	20.6×32.6	島根県立石見美術館
31	大下 藤次郎	日光	1897 (明治30)	水彩、紙	25.6×39.2	島根県立石見美術館
32	大下 藤次郎	坂本	1898 (明治31)	水彩、紙	24.9×38.1	島根県立石見美術館
33	大下 藤次郎	アトリエの画家	1898 (明治31)	水彩、紙	33.4×22.3	島根県立石見美術館
34	大下 藤次郎	裸婦	1897 (明治30)	水彩、紙	44.0×34.6	島根県立石見美術館
35	大下 藤次郎	裸婦	1897 (明治30)	水彩、紙	43.9×29.3	島根県立石見美術館
36	大下 藤次郎	裸婦	1897 (明治30)	水彩、紙	29.4×22.4	島根県立石見美術館
2章 南海への旅 1898						
37	大下 藤次郎	金剛甲板にて	1898 (明治31)	水彩、紙	40.2×26.9	島根県立石見美術館
38	大下 藤次郎	軍艦金剛にて① (3枚組のうち「罰金箱」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.3×16.6	島根県立石見美術館
39	大下 藤次郎	軍艦金剛にて① (3枚組のうち「Draught's」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.6×16.8	島根県立石見美術館
40	大下 藤次郎	軍艦金剛にて① (3枚組のうち「酒保」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.6×17.0	島根県立石見美術館
41	大下 藤次郎	軍艦金剛にて② (3枚組のうち「読書」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.6×17.0	島根県立石見美術館
42	大下 藤次郎	軍艦金剛にて② (3枚組のうち「作業する男」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.3×15.2	島根県立石見美術館
43	大下 藤次郎	軍艦金剛にて② (3枚組のうち「作業する船員」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.4×17.1	島根県立石見美術館
44	大下 藤次郎	軍艦金剛にて③ (3枚組のうち「芝居の内稽古 あ達ヶ原 その一」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.4×17.2	島根県立石見美術館
45	大下 藤次郎	軍艦金剛にて③ (3枚組のうち「赤道祭祝ノ寿 その一 お軽勘平道行の段」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×16.8	島根県立石見美術館
46	大下 藤次郎	軍艦金剛にて③ (3枚組のうち「赤道祭祝ノ寿 その三 お日さまにお月さま」)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×16.8	島根県立石見美術館
47	大下 藤次郎	軍艦金剛にて	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×16.6	島根県立石見美術館
48	大下 藤次郎	軍艦金剛にて 雨浴	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×16.9	島根県立石見美術館
49	大下 藤次郎	軍艦金剛にて (芝居のお稽古安達ヶ原)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×17.0	島根県立石見美術館
50	大下 藤次郎	軍艦金剛にて (芝居のお稽古)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×16.8	島根県立石見美術館
51	大下 藤次郎	軍艦金剛にて (掃除)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×14.8	島根県立石見美術館
52	大下 藤次郎	軍艦金剛にて (お茶番 新関町)	1898 (明治31)	水彩・鉛筆、紙	9.5×16.8	島根県立石見美術館
53	大下 藤次郎	赤道直下にて	1898 (明治31)	水彩、紙	21.9×34.4	島根県立石見美術館
54	大下 藤次郎	モートン岬、クイーンズランド	1898 (明治31)	水彩、紙	23.2×34.5	島根県立石見美術館
55	大下 藤次郎	サンドゲート、クイーンズランド	1898 (明治31)	水彩、紙	23.0×34.8	島根県立石見美術館
56	大下 藤次郎	プリスバーン河	1898 (明治31)	水彩、紙	22.5×34.5	島根県立石見美術館
57	大下 藤次郎	プリスバーン河	1898 (明治31)	水彩、紙	23.0×34.8	島根県立石見美術館
58	大下 藤次郎	シドニー湾	1898 (明治31)	水彩、紙	22.4×34.4	島根県立石見美術館
59	大下 藤次郎	シドニー、ニュー・サウス・ウェールズ	1898 (明治31)	水彩、紙	23.3×34.4	島根県立石見美術館
60	大下 藤次郎	シドニー	1898 (明治31)	水彩、紙	22.6×33.2	島根県立石見美術館
61	大下 藤次郎	シドニー南端	1898 (明治31)	水彩、紙	22.2×34.5	島根県立石見美術館
62	大下 藤次郎	メルボルン港	1898 (明治31)	水彩、紙	23.0×33.5	島根県立石見美術館
63	大下 藤次郎	ロイヤルパーク、メルボルン	1898 (明治31)	水彩、紙	20.7×31.4	島根県立石見美術館
3章 日本の風景をみつめる 1898-1906						
64	大下 藤次郎	宮の下	1898 (明治31)	水彩、紙	39.4×25.4	島根県立石見美術館
65	大下 藤次郎	つつじ	1899 (明治32)	水彩、紙	32.5×47.4	島根県立石見美術館
66	大下 藤次郎	峠の木	1899 (明治32)	水彩、紙	30.8×20.6	島根県立石見美術館

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
67	大下 藤次郎	夏	1899 (明治 32)	水彩、紙	50.0 × 71.5	島根県立石見美術館
68	大下 藤次郎	雲の観察・明治 32 年 9 月 13 日・正午・南	1899 (明治 32)	水彩、紙	15.8 × 26.0	島根県立石見美術館
69	大下 藤次郎	雲の観察・9 月下旬・西方午後 5 時	1899 (明治 32)	水彩、紙	17.3 × 25.7	島根県立石見美術館
70	大下 藤次郎	雲の観察 (明治 33 年 11 月 21 日朝 東)	1900 (明治 33)	水彩、紙	18.0 × 27.4	島根県立石見美術館
71	大下 藤次郎	雲の観察 (明治 33 年 12 月 5 日 西南方)	1900 (明治 33)	水彩、紙	18.2 × 27.2	島根県立石見美術館
72	大下 藤次郎	秋の雲	1904 (明治 37)	水彩、紙	32.9 × 49.7	島根県立石見美術館
73	大下 藤次郎	浮き雲	1907 (明治 40)–1911 (明治 44) 頃	水彩、紙	31.3 × 45.6	島根県立石見美術館
74	大下 藤次郎	城跡	1903 (明治 36)	水彩、紙	27.7 × 38.8	島根県立石見美術館
75	大下 藤次郎	木立	1904 (明治 37)	水彩、紙	34.0 × 22.4	島根県立石見美術館
76	大下 藤次郎	林間	1904 (明治 37)	水彩、紙	22.3 × 33.8	島根県立石見美術館
77	大下 藤次郎	村の寺	1904 (明治 37)	水彩、紙	29.8 × 19.9	島根県立石見美術館
78	大下 藤次郎	青梅	1904 (明治 37)	水彩、紙	33.4 × 22.4	島根県立石見美術館
79	大下 藤次郎	青梅	1904 (明治 37)	水彩、紙	33.9 × 22.2	島根県立石見美術館
80	大下 藤次郎	河原	1904 (明治 37)	水彩、紙	52.0 × 74.5	島根県立石見美術館
81	大下 藤次郎	風景	制作年不詳	水彩、紙	13.4 × 18.5	島根県立石見美術館
82	大下 藤次郎	寄居	1904 (明治 37)	水彩、紙	22.4 × 34.1	島根県立石見美術館
83	大下 藤次郎	風景	1904 (明治 37)	水彩、紙	22.0 × 34.0	島根県立石見美術館
84	大下 藤次郎	天ヶ瀬	1904 (明治 37)	水彩、紙	17.6 × 26.5	島根県立石見美術館
85	大下 藤次郎	早春	1904 (明治 37)	水彩、紙	22.9 × 33.7	島根県立石見美術館
86	大下 藤次郎	秋谷の漁村	1905 (明治 38)	水彩、紙	48.8 × 69.7	島根県立石見美術館
87	大下 藤次郎	船のある風景	制作年不詳	水彩、紙	22.6 × 33.0	島根県立石見美術館
88	大下 藤次郎	船のある風景	1906 (明治 39)	水彩、紙	10.4 × 20.8	島根県立石見美術館
89	大下 藤次郎	暮景	制作年不詳	水彩、紙	18.0 × 34.3	島根県立石見美術館
90	大下 藤次郎	浪	1905 (明治 38)	水彩、紙	22.3 × 33.2	島根県立石見美術館
91	大下 藤次郎	海	制作年不詳	水彩、紙	23.0 × 33.7	島根県立石見美術館
92	大下 藤次郎	大西洋の波 (『水彩画の葉』口絵原画)	1901 (明治 34) 頃	水彩、紙	29.8 × 50.4	島根県立石見美術館

4 章 水彩画の可能性を求めて 1907–1911

93	大下 藤次郎	多摩川	1906 (明治 39) 頃	水彩、紙	22.6 × 32.7	島根県立石見美術館
94	大下 藤次郎	多摩川畔	1907 (明治 40)	水彩、紙	48.8 × 69.7	島根県立石見美術館
95	大下 藤次郎	磐梯山噴火口	1906 (明治 39)	水彩、紙	22.9 × 34.1	島根県立石見美術館
96	大下 藤次郎	磐梯山噴火口	1907 (明治 40)	水彩、紙	34.2 × 51.9	島根県立石見美術館
97	大下 藤次郎	湖水を望む	1907 (明治 40) 頃	水彩、紙	22.9 × 34.8	島根県立石見美術館
98	大下 藤次郎	猪苗代	1907 (明治 40) 頃	水彩、紙	23.5 × 33.9	島根県立石見美術館
99	大下 藤次郎	猪苗代	1907 (明治 40)	水彩、紙	66.7 × 48.2	島根県立石見美術館
100	大下 藤次郎	檜原湖の秋	1907 (明治 40)	水彩、紙	61.2 × 97.2	島根県立石見美術館
101	大下 藤次郎	秋の夕	1907 (明治 40)–1911 (明治 44) 頃	水彩、紙	30.8 × 45.6	島根県立石見美術館
102	大下 藤次郎	朝	制作年不詳	水彩、紙	23.0 × 33.9	島根県立石見美術館
103	大下 藤次郎	徳本小屋のほとり	1907 (明治 40) 頃	水彩、紙	21.9 × 33.2	島根県立石見美術館
104	大下 藤次郎	穂高山の残雪	1907 (明治 40)	水彩、紙	22.2 × 33.2	島根県立石見美術館
105	大下 藤次郎	残雪	1908 (明治 41)	水彩、紙	22.3 × 33.2	島根県立石見美術館
106	大下 藤次郎	水芭蕉	1908 (明治 41)	水彩、紙	33.2 × 22.5	島根県立石見美術館
107	大下 藤次郎	高原	1907 (明治 40)–1911 (明治 44) 頃	水彩、紙	27.6 × 39.8	島根県立石見美術館
108	大下 藤次郎	山上の眺め	1908 (明治 41)	水彩、紙	22.3 × 32.6	島根県立石見美術館
109	大下 藤次郎	初夏	190 (明治 40)–1911 (明治 44) 頃	水彩、紙	25.9 × 36.6	島根県立石見美術館
110	大下 藤次郎	山あいの道	1907 (明治 40)–1911 (明治 44) 頃	水彩、紙	25.6 × 36.5	島根県立石見美術館
111	大下 藤次郎	甲州駒ヶ岳	1907 (明治 40)	水彩、紙	22.1 × 33.0	島根県立石見美術館
112	大下 藤次郎	富士を望む	1909 (明治 42)	水彩、紙	30.5 × 45.4	島根県立石見美術館
113	大下 藤次郎	富士山	制作年不詳	水彩、紙	27.9 × 35.5	島根県立石見美術館
114	大下 藤次郎	西山峠	1909 (明治 42)	水彩、紙	32.9 × 22.2	島根県立石見美術館
115	大下 藤次郎	波	1907 (明治 40)	水彩、紙	26.1 × 46.4	島根県立石見美術館
116	大下 藤次郎	波の音	1908 (明治 41)	水彩、紙	22.0 × 33.1	島根県立石見美術館
117	大下 藤次郎	松	1908 (明治 41)	水彩、紙	31.2 × 46.2	島根県立石見美術館
118	大下 藤次郎	興津	1907 (明治 40) 頃	水彩、紙	22.5 × 33.2	島根県立石見美術館
119	大下 藤次郎	浜辺の松	制作年不詳	水彩、紙	36.4 × 25.2	島根県立石見美術館
120	大下 藤次郎	瀬崎の製塩所 (浜辺の家)	1910 (明治 43)	水彩、紙	25.7 × 36.6	島根県立石見美術館
121	大下 藤次郎	小豆島	1910 (明治 43)	水彩、紙	25.4 × 36.5	島根県立石見美術館
122	大下 藤次郎	美寿賀城跡	1911 (明治 44)	水彩、紙	25.8 × 36.5	島根県立石見美術館
123	大下 藤次郎	宍道湖の黄昏	1911 (明治 44)	水彩、紙	25.6 × 36.8	島根県立石見美術館
124	大下 藤次郎	庭の一隅 (コスモス)	1909 (明治 42)	水彩、紙	26.4 × 37.0	島根県立石見美術館

資料

125	大下 藤次郎	「スケッチブック」1	1903 (明治 36)–1904 (明治 37) 頃	水彩、紙	13.0 × 19.0	島根県立石見美術館
126	大下 藤次郎	「スケッチブック」2	1906 (明治 39)–1911 (明治 44) 頃	鉛筆、紙	13.0 × 18.7	島根県立石見美術館
127	大下 藤次郎	「スケッチブック (オーストラリア航海)」	1898 (明治 31) 頃	水彩、紙	21.8 × 27.8	島根県立石見美術館
128	大下 藤次郎	『菱花湾日記』	1896 (明治 29)	水彩・墨、紙	16.6 × 12.2	島根県立石見美術館
129	大下 藤次郎	『送別紀行』	1896 (明治 29)	水彩・墨、紙	12.2 × 16.6	島根県立石見美術館
130	大下 藤次郎	『頓狂三疋連れ 馬鹿々々し記』	1896 (明治 29)	水彩・墨、紙	12.2 × 16.6	島根県立石見美術館
131	大下 藤次郎	金色夜叉 前編第二章	1905 (明治 38) 頃	水彩、紙	14.2 × 9.1	島根県立石見美術館
132	大下 藤次郎	金色夜叉 前編第七章	1905 (明治 38) 頃	水彩、紙	14.2 × 9.1	島根県立石見美術館
133	大下 藤次郎	金色夜叉 前編第八章	1905 (明治 38) 頃	水彩、紙	12.0 × 6.7	島根県立石見美術館

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
134	大下 藤次郎	金色夜叉 中編第四章	1905 (明治 38) 頃	水彩、紙	14.2 × 9.4	島根県立石見美術館
135	大下 藤次郎	金色夜叉 後編第六章	1905 (明治 38) 頃	水彩、紙	14.2 × 9.3	島根県立石見美術館
136		『絵葉書アルバム』 1		冊子体	24.7 × 19.5	島根県立石見美術館
137		『絵葉書アルバム』 2		冊子体	18.5 × 12.6	島根県立石見美術館
138		『絵葉書アルバム』 3		冊子体	31.5 × 19.2	島根県立石見美術館
139	大下 藤次郎	『ぬれきぬ』	1890 (明治 23)	墨、紙	24.3 × 16.1	島根県立石見美術館
140	大下 藤次郎	『曙日記 北太平洋の巻』	1898 (明治 31)	墨、紙	24.6 × 16.8	島根県立石見美術館
141	大下 藤次郎使用	絵具箱 パレット、構図器他一式				島根県立石見美術館
142	筒井 年峰 [推定] 撮影	松戸行記念	1905 (明治 38)	写真	8.8 × 11.6	島根県立石見美術館
143	撮影者不詳	駒井町自宅にて	1909 (明治 42) 頃	写真	13.3 × 7.8	島根県立石見美術館
144		『水彩画講習所寄付申込控』	1906 (明治 39)	インク、紙	21.8 × 16.9	島根県立石見美術館
145		『水彩画講習所新築につき美術愛護の士に献す』	1906 (明治 39)	印刷、紙	15.2 × 10.7	島根県立石見美術館
146		『夏期講習会申込人名簿』	1907 (明治 40)	墨、紙	23.0 × 16.2	島根県立石見美術館
147	大下 藤次郎	『水彩画之葉』	1901 (明治 34)	書籍	15.5 × 11.0	島根県立石見美術館
148	大下 藤次郎	『水彩画階梯』	1904 (明治 37)	書籍	15.5 × 11.0	島根県立石見美術館
149	大下 藤次郎 (共著)	『最新水彩画法』	1909 (明治 42)	書籍	22.2 × 15.2	島根県立石見美術館
150	大下 藤次郎 (共著)	『十人写生旅行』	1911 (明治 44)	書籍	19.4 × 13.0	島根県立石見美術館
151	大下 藤次郎	『水彩写生旅行』	1911 (明治 44)	書籍	22.8 × 15.8	島根県立石見美術館
152	大下 藤次郎 (共著)	『瀬戸内海写生一週』	1911 (明治 44)	書籍	19.4 × 13.1	島根県立石見美術館
153	大下 藤次郎	『写生画の研究』	1911 (明治 44)	書籍	19.1 × 13.5	島根県立石見美術館
154	大下 春子	『大下藤次郎遺作集』	1912 (大正元)	書籍	19.4 × 13.0	島根県立石見美術館
155		『みづ糸』 第 1 号	1905 (明治 38)	雑誌	22.5 × 15.0	島根県立石見美術館
156		『みづ糸』 第 2 号	1905 (明治 38)	雑誌	22.5 × 15.2	島根県立石見美術館
157		『みづ糸』 第 3 号	1905 (明治 38)	雑誌	22.8 × 15.0	島根県立石見美術館
158		『みづ糸』 第 5 号	1905 (明治 38)	雑誌	22.9 × 15.0	島根県立石見美術館
159		『みづ糸』 第 6 号	1905 (明治 38)	雑誌	22.8 × 15.1	島根県立石見美術館
160		『みづ糸』 第 7 号	1906 (明治 39)	雑誌	22.8 × 15.1	島根県立石見美術館
161		『みづ糸』 第 18 号	1906 (明治 39)	雑誌	22.8 × 15.2	島根県立石見美術館
162		『みづ糸』 第 26 号	1907 (明治 40)	雑誌	22.7 × 15.0	島根県立石見美術館
163		『みづ糸』 第 28 号	1907 (明治 40)	雑誌	22.9 × 15.0	島根県立石見美術館
164	森 鷗外	『水彩画の葉』 題言	1901 (明治 34)	墨、紙	17.7 × 100.2	島根県立石見美術館

5 章 大下藤次郎のあとさき 当館コレクションを中心に

165	神中 糸子	塔の沢風景	1888 (明治 21)	水彩、紙	25.0 × 19.3	神中茂次氏寄贈
166	神中 糸子	細雨妙義	1918 (大正 7)	水彩、紙	19.3 × 32.2	神中茂次氏寄贈
167	石井 柏亭	伊東の岩	1913 (大正 2)	水彩、紙	28.6 × 39.3	個人蔵
168	大亦 新治郎 [観風]	風景	1913 (大正 2) 頃	水彩、紙	33.5 × 49.9	当館蔵
169	大亦 新治郎 [観風]	風景 積みわら	1914 (大正 3) 頃	水彩、紙	23.7 × 34.3	当館蔵
170	保田 龍門	台所	1904 (明治 37) 頃	水彩、紙	23.8 × 32.7	保田春彦氏寄贈
171	田中 恭吉	茶の間 (徳義中学時代デッサン帳より)	1909 (明治 42)	鉛筆・水彩、紙	23.8 × 18.0	恩地邦郎氏寄贈
172	田中 恭吉	風景 (徳義中学時代デッサン帳より)	1909 (明治 42)	鉛筆・水彩、紙	17.0 × 24.1	恩地邦郎氏寄贈
173	田中 恭吉	山 (日光旅行スケッチ)	1910 (明治 43)	水彩・色鉛筆、紙	12.5 × 18.5	恩地邦郎氏寄贈
174	田中 恭吉	滝 (日光旅行スケッチ)	1910 (明治 43)	水彩・鉛筆、紙	18.5 × 12.6	恩地邦郎氏寄贈
175	川上 涼花	夕日を受けたる丘	1912 (大正元)	水彩、紙	17.2 × 25.5	個人蔵
176	北山 清太郎	[花壇]	1938 (昭和 13)	水彩、紙	22.6 × 30.5	個人蔵
177	野長瀬 晩花	巴里の女	1922 (大正 11) 頃	鉛筆・水彩、紙	39.0 × 27.0	当館蔵
178	野長瀬 晩花	外国風景	1922 (大正 11) 頃	水彩、紙	19.8 × 27.6	当館蔵
179	木下 義謙	婦人半身像	1928 (昭和 3)	鉛筆・水彩、紙	36.6 × 27.0	木下義謙氏寄贈
180	木下 義謙	屋上 (エスキース)	1939 (昭和 14)	水彩、紙	27.7 × 36.6	木下義謙氏寄贈
181	碓 伊之助	コルシカ島にて	1921 (大正 10)	水彩、紙	33.5 × 41.4	中畑伸人氏寄贈
182	川口 軌外	サーカス	1927-29 (昭和 2-4)	水彩、紙	32.3 × 47.6	川口京村氏寄贈
183	川口 軌外	風景	1927-29 (昭和 2-4)	水彩、紙	33.3 × 51.4	川口京村氏寄贈
184	中畑 幸夫 (伸人)	曲角	1932 (昭和 7)	水彩、紙	53.5 × 72.5	田中正彦氏寄贈
185	中西 利雄	六月の真昼	1948 (昭和 23)	水彩、紙	36.2 × 51.7	当館蔵
186	セザンヌ, ポール	庭の入口の花壇	1878-80 (明治 11-13)	鉛筆・水彩、紙	30.8 × 47.7	個人蔵
187	ロート, アンドレ	風景	制作年不詳	水彩、紙	35.4 × 53.8	当館蔵
188	シニャック, ポール	フランスの港	1929-30 (昭和 4-5)	水彩・鉛筆、紙	28.7 × 44.3	個人蔵
189	デュフィ, ラウル	窓辺	1926 (昭和元) 頃	水彩、紙	55.0 × 42.9	個人蔵
190	ローランサン, マリー	マドモアゼル・グルー	制作年不詳	水彩、紙	33.9 × 25.1	個人蔵
191	ルオー, ジョルジュ	ジュリエッタ	1930 (昭和 5)	パステル・水彩、紙	48.3 × 29.7	個人蔵

2-1. 企画展「現代版画の展開」

会 期： 2017 (平成 29) 年 4 月 8 日 (土) ～ 6 月 25 日 (日)
 会 場： 展示室 C (2 階)
 主 催： 和歌山県立近代美術館
 内 容： 日本の版画が国際的に評価されるようになった 1950 年代から現代にいたる話題作や名品を、当館の版画コレクションを中心に紹介した。現代版画の流れを辿ることのできるコレクションの特色を活かし、時代と共に移り変わってきた表現の展開を探った。
 展示点数： 58 作家 84 点、資料 1 点

担当学芸員： 井上芳子

関 連 事 業： ・フロアレクチャー

日時： 5 月 4 日 (木) 18 名、6 月 3 日 (土) 25 名 いずれも 14:00 ～ 15:00 井上芳子

制 作 物： ・ポスター (B2 判、オフセット印刷)
 ・チラシ (A4 判、オフセット印刷) ※裏面は「鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」
 ・出品目録 (A4 判 5 頁)
 ・プレスリリース (A4 判 3 頁)
 ・英語版概要 (A4 判 1 頁)

入 場 料 金： 一般 510 円 (410 円)、大学生 300 円 (250 円) () 内は 20 名以上の団体料金 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国
 工 夫： 国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

当館の版画コレクションから選んだ作品をほぼ年代順・作家の世代順に展示し、最終コーナーでは 1990 年代の和歌山版画ビエンナーレの入賞作を中心として版画の概念が拡大していく様子が伝わるよう、立体的な作品や巨大な作品も紹介した。また作家の協力を得て、近年のコンピュータグラフィックによる作品も紹介した。

自己評価・課題・改善案： 現代版画の展開のなかで、和歌山版画ビエンナーレが、その概念を拡大させる舵切り役となっていたことがあらためて分かる内容となった。和歌山版画ビエンナーレが終了した 1995 年以降の作品を今後どう採り上げていけるかが課題である。

関 連 記 事： ・「恩地孝四郎の作品など紹介 県立近代美術館で「現代版画の展開」『産経新聞』2017 年 4 月 22 日、23 面
 ・「展開する現代絵画 県立近代美術館で企画展」『わかやま新報』2017 年 5 月 3 日、3 面
 ・古市豪、東直哉「現代版画 自由で斬新 写真やファクス イメージ転移 県立近代美術館で 84 点」『読売新聞』2017 年 5 月 24 日、25 面
 ・「県立近代美術館 展覧会案内 現代版画の展開」『有田タイムス』2017 年 4 月 26 日、2 面

情 報 掲 載： ・「和歌山県立近代美術館便り ©現代版画の展開」『ワカビー』5・6 月号 vol.73、2017 年 5 月発行、p.7

企画展「現代版画の展開」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵。

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
1	恩地 孝四郎	フォルム No.14 グロテスク (II) a	1952 (昭和 27)	マルチブロック、紙	45.8 × 35.2	
2	恩地 孝四郎	ボエム No.14 秋	1950 (昭和 25)	木版、紙	34.8 × 24.2	
3	浜口 陽三	スペイン風油入れ	1954 (昭和 29)	メゾチント、紙	28.8 × 28.5	
4	浜口 陽三	パリの屋根	1956 (昭和 31)	カラーメゾチント、紙	18.5 × 18.5	
5	長谷川 潔	静物画、仮装したる狐 (フィンランド童話)	1965 (昭和 40)	メゾチント、紙	36.0 × 26.7	
6	駒井 哲郎	束の間の幻影	1951 (昭和 26)	アクアチント・エッチング・ドライポイント、紙	17.4 × 29.4	個人蔵
7	浜田 知明	初年兵哀歌 歩哨	1954 (昭和 29)	エッチング・アクアチント、紙	23.3 × 15.7	
8	瑛 九	エッチング集『小さい悪魔』より 背中合わせ	1952 (昭和 27)	エッチング、紙	14.4 × 12.9	個人蔵
9	瑛 九	旅人	1957 (昭和 32)	リトグラフ、紙	37.1 × 52.0	
10	泉 茂	深夜のセロ弾き	1954 (昭和 29)	エッチング・アクアチント、紙	18.3 × 10.6	作者寄贈
11	泉 茂	インディアン	1956 (昭和 31)	リトグラフ、紙	48.0 × 41.0	個人蔵
12	海老原 喜之助	父と娘	1956 (昭和 31)	リトグラフ、紙	55.0 × 40.0	
13	脇田 和	手品師	1957 (昭和 32)	リトグラフ、紙	39.4 × 45.1	
14	菅井 汲	悪魔	1955 (昭和 30)	リトグラフ、紙	53.5 × 38.5	
15	村井 正誠	作品	1955 (昭和 30)	リトグラフ、紙	53.3 × 38.0	
16	村井 正誠	作品	1955 (昭和 30)	リトグラフ、紙	53.1 × 37.5	
17	吉田 政次	憂愁の空 No.2	1957 (昭和 32)	木版、紙	43.7 × 71.8	吉田敦子氏寄贈
18	萩原 英雄	石の花 (黒)	1960 (昭和 35)	木版、紙	87.7 × 58.0	
19	萩原 英雄	石の花 (赤)	1960 (昭和 35)	木版、紙	87.2 × 58.3	
20	萩原 英雄	石の花 (灰)	1960 (昭和 35)	木版、紙	87.7 × 58.0	
21	高橋 力雄	Flourish	1966 (昭和 41)	木版・手彩、紙	78.8 × 79.0	奥田西柱子氏寄贈
22	吹田 文明	開かれた世界	1967 (昭和 42)	木版、紙	60.2 × 90.0	堀内俊男氏寄贈
23	加納 光於	星・反芻学	1962 (昭和 37)	インタリオ、紙	33.0 × 67.6	
24	加納 光於	ソルダード・ブルー	1964 (昭和 39)	メタルプリント、紙	68.2 × 50.2	
25	深沢 幸雄	洞窟	1966 (昭和 41)	ディープエッチング他、紙	60.0 × 36.0	
26	若山 八十氏	鳥たち	1967 (昭和 42)	孔版、紙	23.2 × 20.0	森田睦氏寄贈
27	福井 良之助	静物	制作年不詳	孔版、紙	21.6 × 40.7	
28	清水 武次郎	作品	1964 (昭和 39)	孔版、紙	34.1 × 47.6	
29	横尾 忠則	第 6 回東京国際版画ビエンナーレ展	1968 (昭和 43)	オフセット、紙	107.8 × 75.8	
30	横尾 忠則	海の男	1969 (昭和 44)	シルクスクリーン、アクリル、紙	90.3 × 90.2	
31	池田 満寿夫	女・動物たち	1960 (昭和 35)	ドライポイント・アクアチント、紙	24.1 × 18.0	
32	吉原 英雄	彼女は空に	1968 (昭和 43)	リトグラフ・銅版、紙	70.6 × 103.2	
33	饒 暉	レインボー北斎 ポジション A	1970 (昭和 45)	シルクスクリーン、紙	89.3 × 134.3	個人蔵
34	船井 裕	TRAP	1968 (昭和 43)	リトグラフ、紙	59.8 × 48.1	
35	船井 裕	FUGA No.1	1968 (昭和 43)	リトグラフ、紙	61.1 × 49.7	

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
36	黒崎 彰	闇のコンポジション	1970 (昭和 45)	木版、紙	83.1 × 57.0 (6点)	
37	木村 光佑	OUT OF TIME - 26	1970 (昭和 45)	リトグラフ、紙 シルクスクリーン、アクリル	77.8 × 53.8	
38	野田 哲也	日記 1968 年 6 月 10 日	1968 (昭和 43)	木版・シルクスクリーン、紙	41.3 × 78.0	
39	高松 次郎	遠近法のベンチ	1967 (昭和 42)	シルクスクリーン、紙	59.4 × 77.2	
40	高松 次郎	英語の単語	1970 (昭和 45)	オフセットリトグラフ、紙	78.7 × 54.4	
41	吉田 克朗	No.11	1970 (昭和 45)	シルクスクリーン、紙	70.2 × 89.5	
42	荒川 修作	意味の分裂	1970-71(昭和45-46)	シルクスクリーン、紙	101.6 × 76.0	
43	井田 照一	Stone, Paper and Stone	1976 (昭和 51)	リトグラフ、紙	65.5 × 50.5	
44	李 禹煥	関係項-A	1979 (昭和 54)	木版、紙	59.8 × 80.8	
45	李 禹煥	関係項-B	1979 (昭和 54)	木版、紙	60.0 × 80.8	
46	木村 秀樹	Pencil 2-1	1974 (昭和 49)	シルクスクリーン、紙	75.5 × 107.1	ブリッジ寄贈
47	木村 秀樹	Pencil 2-2	1974 (昭和 49)	シルクスクリーン、紙	75.6 × 107.1	ブリッジ寄贈
48	木村 秀樹	Pencil 2-3	1974 (昭和 49)	シルクスクリーン、紙	75.1 × 106.8	
49	山本 容子	Asparagus Guy	1977 (昭和 52)	エッチング、紙	45.0 × 59.8	ブリッジ寄贈
50	山本 容子	To the park	1978 (昭和 53)	エッチング、紙	45.3 × 59.8	ブリッジ寄贈
51	田中 孝	Tree	1977 (昭和 52)	シルクスクリーン、紙	54.1 × 80.0	ブリッジ寄贈
52	安東 菜々	Electric Wire 4	1977 (昭和 52)	シルクスクリーン、紙	53.0 × 77.0	ブリッジ寄贈
53	斎藤 智	Untitled 79-a	1979 (昭和 54)	シルクスクリーン、紙	74.0 × 71.0	
54	森村 泰昌	だぶらかし 肖像 A, B, C, D	1988 (昭和 63)	写真	120.0 × 120.0	
55	中林 忠良	T ransposition—転位—I	1978 (昭和 53)	エッチング・アクアチント、紙	49.5 × 49.5	
56	両角 修	No.13	1972 (昭和 47)	木版、紙	91.6 × 56.1	
57	小作 青史	枠組を抜けて	1981 (昭和 56)	木版リトグラフ、紙	60.0 × 71.0	
58	山田 彊一	Push (ボルト B)	1985 (昭和 60)	シルクスクリーン、アルミニウム板	130.0 × 105.6	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
59	長岡 國人	Homage to 6 Japanese Nobel Prize Winners No.1	1986 (昭和 61)	銅版、紙	49.2 × 39.0	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
60	池田 良二	cape watershed (岬の分水嶺)	1988 (昭和 63)	フォトエッチング他、紙	55.5 × 82.4	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
61	森岡 完介	Beethoven at the Beach, Message 86-11P	1986 (昭和 61)	シルクスクリーン、紙	70.3 × 105.0	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
62	高原 洋一	GEOMETRIC NARCISSUS AX	1988 (昭和 63)	シルクスクリーン、紙	95.0 × 141.8	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
63	木村 秀樹	冬のライオン	1986 (昭和 61)	シルクスクリーン、キャンバス	140.3 × 199.9	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
64	秋岡 美帆	ゆれるかげ	1990 (平成 2)	ネコプリント、紙	154.6 × 213.5	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
65	一原 有徳	ZOP 84	1984 (昭和 59)	モノタイプ、紙	160.2 × 120.0	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
66	園山 晴己	d'encres - U	1986 (昭和 61)	リトグラフ、紙	98.4 × 69.0	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
67	岸中 延年	Spring into View 90-13	1990 (平成 2)	銅版・ドローイング、紙	160.2 × 160.4	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
68	小枝 繁昭	till Life on the Table #3	1990 (平成 2)	シルクスクリーン・アクリル絵具、紙	179.3 × 117.8	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
69	小枝 繁昭	風の時 アイリス	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
70	小枝 繁昭	風の時 アネモネ	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
71	小枝 繁昭	ガーベラ	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
72	小枝 繁昭	椿	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
73	小枝 繁昭	チューリップ	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
74	小枝 繁昭	シベリア	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
75	小枝 繁昭	牡丹	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
76	小枝 繁昭	紫陽花	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
77	小枝 繁昭	向日葵	2003 (平成 15)	ラムダプリント、紙	100.0 × 100.0	個人蔵
78	池垣 タダヒコ	カーペット掃除機「チチカカの女」	1996 (平成 8)	銅、半田、インク	82.0 × 28.0 × 28.0	
79	池垣 タダヒコ	untitled	1990 (平成 2)	銅、半田、インク	110.0 × 130.0 × 30.0	
80	小林 敬生	蘇生の刻 S63-12	1989 (平成元)	木口木版・コラージュ、紙	82.5 × 152.0	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
81	河内 成幸	'84 桂 (響き)	1984 (昭和 59)	木版、紙	141.5 × 92.5	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
82	濱田 弘明	Untitled '92-12	1992 (平成 4)	シルクスクリーン・写真、キャンバス、紙(4点)	180.0 × 225.0	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
83	飯塚 二郎	地下からの視線 920524	1992 (平成 4)	FRP、砂、土、木	223.0 × 172.2 × 12.5	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
84	出原 司	南の海でゆっくり漂う	1988 (昭和 63)	リトグラフ、紙 (154 点)	392.0 × 916.5	個人蔵
	参考出品 渡辺 和雄	「現代版画の展開」展ポスター	2017 (平成 29)	オフセット、紙	78.9 × c54.2	中和印刷紙器株式会社協力



チラシ



展示風景



2-2. 企画展「なつやすみの美術館7 すききらい、すき? きらい?」

会 期：2017(平成29)年7月8日(土)～9月18日(月・祝)
会 場：展示室C(2階)
主 催：和歌山県立近代美術館
内 容：学校教育と連携し、夏休み中の子供たちが積極的に美術館を訪れ、また子供と大人と一緒に美術館のおもしろさに触れられるように開催する展覧会の7回目。定着してきたシリーズをさらに進化させ、学校教員との研究会を開催して指導方法を検討し、ワークシートを作成した。また大学生によるギャラリートーク等を実施した。

展 示 点 数：50作家185点、資料16点

担当学芸員：青木加苗

関 連 事 業：・ギャラリートーク

日時：7月15日(土)11名、8月13日(日)27名、いずれも14:00～15:00 青木加苗

・こどもギャラリートーク

日時：7月22日(土)13名、8月6日(日)2名、8月20日(日)21名 いずれも14:00～15:00 青木加苗

・こども美術館部「キラキラ☆キライ」

日時：8月5日(土)23名 14:00～14:45 青木加苗

・たまごせんせいと「わくわくアートツアー」(和歌山大学学生による鑑賞ツアー)

日時：8月15日(火)～8月19日(土)、8月22日(火)～24日(木) 各日3回、①11:00～②13:30～③15:00～

8/15 ①5名 ②5名 ③15名、8/16 ①6名 ②15名 ③7名、8/17 ①4名 ②15名 ③5名、8/18 ①23名 ②2名 ③9名、8/19 ①8名 ②8名 ③4名、8/22 ①7名 ②7名 ③2名、8/23 ①6名 ②3名 ③5名、8/24 ①2名 ②3名 ③5名、合計171名

・なつやすみワークショップ「だいすきをぶっこわせ! キライに変身?! スキなもの」

日時：8月12日(土)10:00～15:00 21名

講師：間島領一

会場：ホール(2階)

主催：和歌山県、一般財団法人和歌山県文化振興財団

企画・運営協力：NPO和歌山芸術文化支援協会(wacss)

協力：和歌山県立近代美術館

制 作 物：・ポスター(B2判、オフセット印刷)

・チラシ(A4判、オフセット印刷)

・ワークシート3種(小学生版、中学生版、高校生～一般版)

・和歌山大学学生サークル「美術館部」によるワークシート

・出品目録(A4判6頁)

・プレスリリース(A4判3頁)

・英語版概要(A4判1頁)

入 場 料 金：入場料金：一般510円(410円)、大学生300円(250円) ()内は20名以上の団体料金 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第4土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫：美術史的な価値付けを離れ、作品と対峙したときに鑑賞者のうちにわき起こる感情や思考から作品にアプローチする試みとして、本展覧会を企画した。広く社会的に共有される感情や感覚、個人的な愛着、執着、あるいは無関心といった項目から展覧会を構成し、物事を「すき」「きらい」で簡単に片付けてしまう心理を、今一度、丁寧に振り返ることができるよう促した。展覧会の最後には、展示を通じて関心を持った作品、あるいは自分が好むものを、50色の色紙を使って自由に制作できるスペースを設け、またそれを展示することで来館者同士の振り返りを共有する仕組みを作った。

自己評価・課題・改善案：これまでの「なつやすみの美術館」に続き、学校教員と連携を図り、小学生・中学生・高校生～一般向けのワークシート3種を制作し、夏休みの課題に設定されたことで、児童・生徒たちが美術館に親しむ機会を生み出すことができた。和歌山大学学生サークル「美術館部」による鑑賞会も8日間、合計24回実施したが、5年目となったこともあり、毎年繰り返し参加する来館者も見られ、定着が見られる。展示と密接に関わるかたちで、ワークショップ的な活動を行う展覧会は実験的でもある。こういった活動を記録集などのかたちで広く周知したいと考えるが、展覧会開催の基本的な条件として図録が製作できない当館の状況では困難である。教育普及と深く関わる本展のような事業は、ともすると一時的イベントと位置づけられてしまう懸念があるが、これを当館に必要な研究課題と位置づけ、情報を蓄積していくことが、喫緊の課題である。

関 連 記 事：・「知的好奇心がワクワク! 美術館・博物館へGO、夏休みに触れよう! 芸術と文化財」『リビング和歌山』2017年7月15日、1-2面

・土井恵里奈「芸術通じ「好き嫌い」 県立近代美術館で企画展」『朝日新聞』2017年7月31日、23面

・「和歌山県立近代美術館 なつやすみの美術館7「すききらい、すき? きらい?」」『わかやま探検ミュージアム』8・9月号 vol.42、2017年8月1日発行、p.4

・吉岡恵美子「展覧会 なつやすみの美術館7 すききらい、すき? きらい? 「感覚」の先へ思考導く工夫」『毎日新聞』2017年8月2日夕刊、7面

・「「すききらい」で楽しもう 近代美術館で夏休み企画展」『わかやま新報』2017年8月15日、7面

・「夏休みの宿題楽しく 展示作品 まねっこ 県立近代美術館」『読売新聞』2017年8月21日、23面

情 報 掲 載：・「特集「2017年 夏のフェスティバル」和歌山県和歌山市 なつやすみの美術館7「すききらい、すき? きらい?」」『地域創造レター』7月号 No.267、2017年6月25日発行、p.7

・「カルチャーインフォメーション 和歌山県立近代美術館『なつやすみの美術館7 すききらい、すき? きらい?』」『ワカピー』7・8月号 vol.74、2017年7月発行、p.8

・「art 和歌山県立近代美術館 なつやすみの美術館7 すききらい、すき? きらい?」『NATTS』2017年7月号、p.16

・「「すききらい、すき? きらい?」なつやすみの美術館7」『きのかわトークニュース和歌山東版』2017年7月7日、1面

- ・「展示1 なつやすみの美術館7」『ニュース和歌山』2017年7月8日、6面
- ・「なつやすみの美術館7「すききらい、すき? きらい?」紀陽文化財団」『リビング和歌山』2017年7月8日、5面
- ・「プレゼント 和歌山県立近代美術館 夏休み恒例展示の招待券」『奈良新聞』2017年7月21日、2面
- ・古川誠「好き嫌いしてもOKな夏休み企画『すききらい、すき? きらい?』(今月のみる/きく/よむ ART/EXHIBITION)『SAVVY』2017年9月号、p.116
- ・「県立近代美術館と県立博物館へ行こう!夏休みの展覧会 オリジナル缶バッジをプレゼント 和歌山リビング新聞社と共同企画」『リビング和歌山』2017年8月19日、6面

企画展「なつやすみの美術館7 すききらい、すき? きらい?」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
1章: みんなのすききらい						
1	浜口 陽三	西瓜	1981 (昭和 56)	カラーメゾチント、紙	23.0 × 54.0	
2	内田 静馬	[白菜]	制作年不詳	木版、紙	27.2 × 32.3	
3	内田 静馬	ねぎ人參の図	制作年不詳	木版、紙	20.0 × 28.9	
4	内田 静馬	[鯛二匹]	制作年不詳	木版、紙	25.3 × 33.5	
5	亀井 玄兵衛	鯛	1927 (昭和 2)	木版、紙	28.8 × 37.7	亀井寛子氏寄贈
6	武田 新太郎	[豚]	1936 (昭和 11)	木版、紙	46.3 × 32.7	
7	井上 永悠	南瓜	1955-1959(昭和30-34)	顔料、紙	33.8 × 43.2	篠田博之氏寄贈
8	川口 軌外	バナナのある静物	1928 (昭和 3)	油彩、キャンバス	91.1 × 73.0	川口京村氏寄贈
9	原 勝四郎	リンゴ	制作年不詳	油彩、板	12.5 × 16.0	個人蔵
10	ルノワール、ピエール-オーギュスト	莓	制作年不詳	油彩、キャンバス	19.8 × 21.2	個人蔵
11	上田 薫	スプーンのジャム B	1975 (昭和 50)	油彩、キャンバス	181.9 × 227.3	
12	大西 伸明	kani	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	4.0 × 10.5 × 10.0	田中恒子氏寄贈
13	大西 伸明	goya	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	5.0 × 12.0 × 5.0	田中恒子氏寄贈
14	大西 伸明	syake	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	1.5 × 16.0 × 9.0	田中恒子氏寄贈
15	大西 伸明	tamago	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	4.0 × 4.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
16	大西 伸明	cyoko	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	0.7 × 7.5 × 16.5	田中恒子氏寄贈
17	大西 伸明	cyoko arumi	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	0.7 × 7.5 × 16.5	田中恒子氏寄贈
18	大西 伸明	azuki	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	0.7 × 1.5 × 1.0	田中恒子氏寄贈
19	大西 伸明	tougarashi	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	0.6 × 5.0 × 0.9	田中恒子氏寄贈
20	大西 伸明	kuchinashi	2004 (平成 16)	エポキシ樹脂、アクリル絵具	1.8 × 5.7 × 1.7	田中恒子氏寄贈
21	開発 好明、間島 領一	マジマートショッピング2	1999 (平成 11)	ナイロンバッグ、フェルト、フォルモ粘土	85.5 × 60.0 × 7.5	田中恒子氏寄贈
22	間島 領一	日の丸弁当	1994 (平成 6)	サンプル米、弁当箱、フォルモ粘土	3.0 × 9.0 × 13.0	個人蔵
23	間島 領一	日の丸弁当	1999 (平成 11)	サンプル米、弁当箱、フォルモ粘土	3.0 × 9.0 × 13.0	個人蔵
24	間島 領一	日の丸弁当	1999 (平成 11)	サンプル米、弁当箱、フォルモ粘土	3.0 × 9.0 × 13.0	個人蔵
25	折元 立身	BREAD-MAN (TWO PERSON)	1992 (平成 4)	写真	63.0 × 44.5	田中恒子氏寄贈
26	パラモデル	極楽百景第八景 - 新世界 八重勝 ニュー配達 -	2007 (平成 19)	ラムダプリント	100.0 × 120.0	田中恒子氏寄贈
27-34	パラモデル	トミ申	2007 (平成 19)	ミニカー、食品サンプル、ジオラママツト、アルミ製トレイ、その他	5.0 × 25.0 × 19.0 ほか	田中恒子氏寄贈
35	福岡 道雄	アップル	1972 (昭和 47)	黒色強化ポリエステル	230.0 × 114.0 × 95.0	個人蔵
36	森村 泰昌	美術史の娘、王女 A	1990 (平成 2)	カラー写真に透明メディウム	227.0 × 182.4 × 7.0	
37	藤田 嗣治	鳥と少女	制作年不詳	油彩、キャンバス	46.5 × 33.0	個人蔵
38	渡部 満	五月の由希子	1995 (平成 7)	油彩、金泥、テンペラ地、板	46.3 × 46.3	個人蔵
39	藤 浩志	cross? animal small	2005 (平成 17)	ミクストメディア	23.0 × 22.5 × 11.5	田中恒子氏寄贈
40	藤 浩志	cross? animal ver.2	2003 (平成 15)	ミクストメディア	42.0 × 30.5 × 9.5	田中恒子氏寄贈
41	木村 太陽	+ People	1997 (平成 9)	磁石	6.0 × 2.0 × 2.0 (13体)	田中恒子氏寄贈
42	山野 千里	アカジンカヤック (黄)	2008 (平成 20)	陶	6.5 × 11.5 × 7.5	田中恒子氏寄贈
43	山野 千里	アカジンカヤック (ピンク)	2008 (平成 20)	陶	7.0 × 11.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
44	山野 千里	ゾウガメの穴	2008 (平成 20)	陶	6.5 × 5.5 × 4.0	田中恒子氏寄贈
45	山野 千里	足もそれなりに力を入れてくれませんか?	2008 (平成 20)	陶	5.5 × 3.0 × 3.0	田中恒子氏寄贈
46	山野 千里	ヒラメサーファー	2008 (平成 20)	陶	4.0 × 9.0 × 4.5	田中恒子氏寄贈
47	山野 千里	バランスマトリョーシカ	2008 (平成 20)	陶	6.5 × 6.0 × 3.5 人物 8.5 × 8.0 × 1.5 布団	田中恒子氏寄贈
48	山野 千里	ファミリーバックパッカー	2008 (平成 20)	陶	5.0 × 3.8 × 4.5	田中恒子氏寄贈
49	山野 千里	ヒョウモントカゲモドキダンス	2008 (平成 20)	陶	4.5 × 12.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
50	名和 晃平	PixCell - Sheep	2002 (平成 14)	ミクストメディア	80.0 × 37.0 × 124.0	田中恒子氏寄贈
51-54	藤 浩志	ヤセ犬	1996 (平成 8)	木、塗料	30.5 × 64.0 × 20.0 ほか	田中恒子氏寄贈
55	木下 孝則	猫	1926 (大正15/昭和元)	油彩、キャンバス	50.2 × 59.0	
56	名和 晃平	PixCell [Cameroon]	2003 (平成 15)	ミクストメディア	24.0 × 49.0 × 12.5	田中恒子氏寄贈
57	椿昇、室井 尚	飛蝗 バックファイギュア 特製ゴールド	2001 (平成 13)	ビニール	62.0 × 57.0 × 22.0	田中恒子氏寄贈
2章: すきなきもちのいろんなかたち						
58	鴨居 玲	LOVE	1980 (昭和 55) 頃	油彩、キャンバス	61.0 × 41.2	篠田博之氏・ 篠田めぐみ氏寄贈
59	桂 コキ	アダムとイブ	制作年不詳	石版、紙	46.3 × 35.8	
60	ロダン、オーギュスト	永遠の偶像	1889 (明治 22)	ブロンズ	高さ 75.0	個人蔵
61	山沢 与平	日高川草紙	1874 (明治 7)	紙本淡彩	21.0 × 1389.3	和歌山県立博物館

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
62	建昌 大夢	感に打たれた女	1932 (昭和 7) / 铸造年不明(生前铸造)	ブロンズ	高さ 161.0	
63	高山 辰雄	高山辰雄銅版画集『聖家族』4	1976 (昭和 51)	エッチング・アクアチント、紙	35.8 × 29.5	
64	高山 辰雄	高山辰雄銅版画集『聖家族』12	1976 (昭和 51)	エッチング、紙	23.3 × 32.5	
65	高山 辰雄	高山辰雄銅版画集『聖家族』16	1976 (昭和 51)	エッチング・ドライポイント・ ソフトグランドエッチング、紙	26.2 × 36.3	
66	川口 軌外	母と子	1927-30(昭和 2-5)	グワッシュ、紙	65.2 × 50.0	川口京村氏寄贈
67(資料)	折元 立身	Bread-Man Son + Alzheimer Mama	1996(平成 8-8)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
68(資料)	折元 立身	Art Mama: In the Big Box	1997 (平成 9)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
69(資料)	折元 立身	Art Mama: My Mama's Big Face "Mogu! Mogu! Mogu!" 27 Minutes	1997 (平成 9)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
70(資料)	折元 立身	Art Mama: Our Dinner (Shoes)	1997 (平成 9)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
71(資料)	折元 立身	Art Mama: Small Mama + Big Shoes	1997 (平成 9)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
72(資料)	折元 立身	Art Mama: Big Sponge on my Mother's Head	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
73(資料)	折元 立身	Art Mama: Critic Mama	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
74(資料)	折元 立身	Art Mama: Heavy Carton Papers on my Mother's Head	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
75(資料)	折元 立身	Art Mama: Heavy Cloths Papers on my Mother's Head	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
76(資料)	折元 立身	Art Mama: Heavy News Papers on my Mother's Head	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
77(資料)	折元 立身	Art Mama: I Pull to My Mother's Ear by My Foot Finger	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
78(資料)	折元 立身	Art Mama: Mama and Me in the Passport Photo Box	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
79(資料)	折元 立身	Art Mama: Seventy Nine Ages Mama + Fifty Pieces of Hats	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
80(資料)	折元 立身	Art-Mama	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
81(資料)	折元 立身	Mama and Me from 3 to 29 October 1998	1998 (平成 10)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
82(資料)	折元 立身	Art-Mama	1999 (平成 11)	ダイレクトメール	10 × 30	田中恒子氏蔵
83	サンピタック,ピナリー	乳房の果実	2005 (平成 17)	テラコッタ、釉薬	26.0 × 20.0 × 20.0	田中恒子氏寄贈
84	サンピタック,ピナリー	乳房の果実	2005 (平成 17)	テラコッタ、釉薬	22.0 × 22.0 × 22.0	田中恒子氏寄贈
85	サンピタック,ピナリー	乳房の果実	2005 (平成 17)	テラコッタ、釉薬	26.0 × 24.0 × 24.0	田中恒子氏寄贈
86	サンピタック,ピナリー	乳房の果実	2005 (平成 17)	テラコッタ、釉薬	20.0 × 20.0 × 20.0	田中恒子氏寄贈
87	小泉 雅代	KAGAMIMOCHI (PINK)	2002 (平成 14)	石粘土、カシュー、アクリル絵具他	24.0 × 36.0 × 36.0	田中恒子氏寄贈
88	熊倉 順吉	秘められた欲望	1972 (昭和 47)	陶	54.7 × 34.0 × 16.5	
89	巖 嘸	Broken Heart	1968 (昭和 43)	シルクスクリーン、紙	53.0 × 51.5	
90	マティス, アンリ	『ジャズ』 7 ハート	1947 (昭和 22)	ステンシル、紙	38.0 × 61.2	
91	ダイン, ジム	ピカビア III (うめき)	1971 (昭和 46)	リトグラフ、コラーージュ、紙	137.6 × 89.6	
92	ダイン, ジム	ピカビア II (忘却)	1971 (昭和 46)	リトグラフ、コラーージュ、紙	137.0 × 92.5	
93	ダイン, ジム	ピカビア I (励まし)	1971 (昭和 46)	リトグラフ、コラーージュ、紙	137.7 × 93.7	

3章：わたしだけのすき

94	三木 富雄	耳	制作年不詳	アルミニウム	23.0 × 26.5 × 6.0	
95	三木 富雄	耳	制作年不詳	アルミニウム	41.0 × 24.0 × 10.0 作品	
96	三木 富雄	耳	1965 (昭和 40)	アルミニウム	45.7 × 27.3 × 9.7	
97	三木 富雄	耳	1965 (昭和 40) 頃	アルミニウム	70.0 × 42.5 × 12.5 作品	所明義氏寄贈
98	坂上 チユキ	EDEN		油彩、キャンバス	53.3 × 45.8	個人蔵
99	坂上 チユキ	さがしもの		ミクストメディア	33.5 × 45.5 × 38.0	個人蔵
100	草間 彌生	レモンジュース	1984 (昭和 59)	シルクスクリーン、紙	52.9 × 45.5	
101	草間 彌生	花	1984 (昭和 59)	シルクスクリーン、紙	52.9 × 45.5	
102	草間 彌生	果物	1984 (昭和 59)	シルクスクリーン、紙	45.5 × 52.9	
103	山添 潤	ドローイング 1	2009 (平成 21)	鉛筆、紙	50.9 × 39.4	田中恒子氏寄贈
104	山添 潤	ドローイング 2	2009 (平成 21)	鉛筆、紙	50.9 × 39.4	田中恒子氏寄贈
105	山添 潤	ドローイング 3	2009 (平成 21)	鉛筆、紙	50.9 × 39.4	田中恒子氏寄贈
106	山添 潤	ドローイング 4	2009 (平成 21)	鉛筆、紙	50.9 × 39.4	田中恒子氏寄贈
107	山添 潤	ドローイング 5	2009 (平成 21)	鉛筆、紙	50.9 × 39.4	田中恒子氏寄贈
108	山添 潤	ドローイング 6	2009 (平成 21)	鉛筆、紙	50.9 × 39.4	田中恒子氏寄贈
109	山添 潤	刻 06-C	2006 (平成 18)	黒御影石	8.5 × 11.0 × 11.5	田中恒子氏寄贈
110	河合 晋平	オルプテルアール	2005 (平成 17)	ロールパン、樹脂、他	9.0 × 7.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
111	河合 晋平	オルプテルアール (ウォーブネーム寄生)	2005 (平成 17)	ロールパン、樹脂、他	9.0 × 7.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
112	河合 晋平	オルプテルアール (リトメオジア寄生)	2005 (平成 17)	ロールパン、樹脂、他	9.0 × 7.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
113	河合 晋平	オルプテルアール (リトメオジア寄生)	2005 (平成 17)	ロールパン、樹脂、他	9.0 × 7.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
114	河合 晋平	オルプテルアール (ウォーブネーム寄生)	2005 (平成 17)	ロールパン、樹脂、他	9.0 × 7.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
115	河合 晋平	オルプテルアール (ウォーブネーム寄生)	2005 (平成 17)	ロールパン、樹脂、他	9.0 × 7.0 × 5.5	田中恒子氏寄贈
116	森村 泰昌	花の中のフリーダ / 花輪と涙	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
117	森村 泰昌	花の中のフリーダ / オウムと私	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
118	森村 泰昌	花の中のフリーダ / 額に骸骨	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
119	森村 泰昌	花の中のフリーダ / 支える力	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
120	森村 泰昌	花の中のフリーダ / 赤い髪飾り	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
121	森村 泰昌	花の中のフリーダ / 手の形の耳飾り	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
122	森村 泰昌	花の中のフリーダ / イナバの首飾り	2002 (平成 14)	カラープリント、造花	34.0 × 32.0 × 6.5	田中恒子氏寄贈
123	ウォーゼン, チャールズ	Spring Snow	1998 (平成 10)	シリコン	16.5 × 17.0 × 15.0	田中恒子氏寄贈
124	ウォーゼン, チャールズ	CORSAGE	2000 (平成 12)	プラスチック	15.0 × 14.0 × 12.0	田中恒子氏寄贈
125	ウォーゼン, チャールズ	MOUNTAIN	2000 (平成 12)	プラスチック	12.0 × 9.0 × 9.0	田中恒子氏寄贈
126	ウォーゼン, チャールズ	Polly	2002 (平成 14)	シリコン	15.5 × 8.0 × 11.0	田中恒子氏寄贈
127	ウォーゼン, チャールズ	Mortal Coil	1997 (平成 9)	プラスチック	16.0 × 6.0 × 6.0	田中恒子氏寄贈
128	ウォーゼン, チャールズ	Thumb Top	1998 (平成 10)	シリコン	9.0 × 7.0 × 7.0	田中恒子氏寄贈

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
129	ウォーゼン, チャールズ	Jobbie #3	2007 (平成 19)	シリコン	13.0 × 11.0 × 11.0	田中恒子氏寄贈
130-177	小泉 雅代	眉- EYEBROW	1997 (平成 9)	布、綿、水性ニス、アクリル絵具	10.0 × 34.0 × 5.0	田中恒子氏寄贈
4章:「べつに」ってなに?						
178	フォンタナ, ルーチョ	空間概念-期待	1964-65 (昭和 39-40)	塗料、キャンバス	61.0 × 50.0	個人蔵
179	中村 一美	示差性の絵画-赤と銀	1987 (昭和 62)	アクリル絵具、キャンバス	194.5 × 162.5	
180	木下 佳通代	LA '92-CA711	1992 (平成 4)	アクリル絵具、キャンバス	218.5 × 290.8	駒田哲男氏寄贈
181	金子 潤	DANGO	1985 (昭和 60)	陶	57.0 × 72.0 × 53.0	
182	岡本 敦生	パズル	1994 (平成 6)	石	8.5 × 8.5 × 9.5/9.0 × 9.0 × 10.0	田中恒子氏寄贈
183	赤瀬川 原平	光と色 (2) こけ	1999 (平成 11)	インクジェットプリント、紙	29.7 × 41.9	田中恒子氏寄贈
184	前沢 知子	砂 1	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
185	前沢 知子	砂 2	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
186	前沢 知子	砂 3	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
187	前沢 知子	砂 4	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
188	前沢 知子	砂 5	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
189	前沢 知子	砂 6	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
190	前沢 知子	砂 7	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
191	前沢 知子	石 8	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
192	前沢 知子	石 9	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
193	前沢 知子	石 10	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
194	前沢 知子	石 11	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
195	前沢 知子	石 12	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
196	前沢 知子	非常口 7	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
197	前沢 知子	非常口 8	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
198	前沢 知子	非常口 9	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
199	前沢 知子	非常口 10	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
200	前沢 知子	非常口 11	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈
201	前沢 知子	非常口 12	1999 (平成 11)	カラー写真	24.2 × 30.0	田中恒子氏寄贈



ポスター



チラシ表



チラシ裏



展示風景

3-1. コレクション展 2017－夏

会 期： 2017 (平成 29) 年 5 月 30 日 (火) ～ 9 月 10 日 (日)

会 場： 展示室 A (1 階)

主 催： 和歌山県立近代美術館

内 容： 所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示した。

展 示 点 数： 71 作家 82 点

担当学芸員： 奥村泰彦

制 作 物： ・出品目録 (A4 判 14 頁) 「特集 おはなしのなかへ」と共通

入 場 料 金： 一般 340 円 (270 円)、大学生 230 円 (180 円) () 内は 20 名以上の団体料金 「特集 おはなしのなかへ」と共通 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫： 当館のコレクション紹介とともに、滋賀県立近代美術館からの寄託品を公開するにあたり、アメリカの戦後美術を体系的に展示し、別コーナーで当館所蔵の具体美術協会の作品のコーナーを設けることで、日米の戦後の抽象的な表現の展開を概観できるように工夫した。

自己評価・課題・改善案： 滋賀県立近代美術館からの寄託作品に含まれる具体美術協会関連の作品はスペースの都合上展示できなかったため、今後作品を合わせて少し規模を広く取って紹介する機会を作りたい。

「コレクション展 2017－夏」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
0 イントロダクション						
1	高井 貞二	想ひを	1935 (昭和 10)	油彩、キャンバス	112.5 × 145.8	
1 近代日本の美術－洋画の展開 1						
2	神中 糸子	海岸風景	1888 - 92 (明治 21 - 25)	油彩、キャンバス	38.0 × 80.4	神中茂次氏寄贈
3	中村 不折	白頭翁	1907 (明治 40)	油彩、キャンバス	200.2 × 136.6	個人蔵
4	鹿子木 孟郎	パイプを持つ男	1906 (明治 39)	油彩、キャンバス	79.6 × 64.0	
5	梅原 龍三郎	小川 (フルターニュ風景)	1909 (明治 42)	油彩、キャンバス	24.6 × 32.4	個人蔵
6	保田 龍門	コオニユリのある風景	1912 (明治 45 / 大正元) 頃	油彩、キャンバス	38.2 × 46.0	保田春彦氏寄贈
7	山下 新太郎	臥婦	制作年不詳 (1910 年代)	油彩、キャンバス	79.5 × 140.7	個人蔵
8	田中 恭吉	ダリヤ	1912 (明治 45 / 大正元)	油彩、板	33.0 × 23.4	恩地邦郎氏寄贈
9	恩地 孝四郎	海の女	1912 (明治 45 / 大正元)	油彩、キャンバス	45.0 × 33.3	恩地邦郎氏寄贈
10	保田 龍門	トルコ帽の自画像	1913-14 (大正 2-3)	油彩、キャンバス	45.6 × 38.6	
11	岸田 劉生	黒き帽子の自画像	1914 (大正 3)	油彩、板	51.3 × 39.2	個人蔵
12	高須 光治	自画像	1915 (大正 4)	油彩、板	45.4 × 37.3	
13	寺中 美一	自画像	1916 (大正 5)	油彩、キャンバス	45.7 × 33.6	立石靖子氏寄贈
14	原 勝四郎	画工像	1932 (昭和 7)	油彩、厚紙	65.0 × 52.6	
15	木下 孝則	後向の裸女の習作	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	100.1 × 80.3	木下米氏寄贈
16	木下 義謙	赤衣半身像	1931 (昭和 6)	油彩、キャンバス	91.4 × 73.0	作者寄贈
17	保田 龍門	少女	1925 (大正 14)	ブロンズ	173.5 × 67.0 × 43.0	
2 近代日本の美術－日本画の世界						
18	川端 龍子	白浜・円月島	1958 (昭和 33)	墨、顔料、紙	48.5 × 72.0	川端紀美子氏寄贈
19	下村 観山	白描 魔障図	1910 (明治 43)	墨、絹	67.2 × 164.6	
20	山口 八九子	暮るゝ天橋	1921 (大正 10)	顔料、絹	85.6 × 113.9	山口由季子氏寄贈
21	狩野 光雅	草刈の笛	制作年不明 (昭和初期)	顔料、絹	153.0 × 56.7	
22	坂井 芳泉	伏虎城	制作年不明	顔料、絹	119.0 × 36.8	坂井淑子氏寄贈
23	案本 一洋	岬	1938 (昭和 13)	顔料、絹	141.5 × 200.0	藤原繁行氏寄贈
24	日高 昌克	初夏峰巒図	1953 (昭和 28)	墨、彩色、紙	51.6 × 31.0	青木正夫氏寄贈
25	亀井 玄兵衛	きつつき	1973 (昭和 48)	顔料、紙	72.6 × 121.0	亀井寛子氏寄贈
26	稗田 一穂	汀	1956 (昭和 31)	顔料、紙	130.2 × 96.8	作者寄贈
3 近代日本の美術－洋画の展開 2						
27	畷 伊之助	ブザンソン風景	1924 (大正 13)	油彩、キャンバス	50.1 × 60.8	小島善太郎氏寄贈
28	東郷 青児	静物	1924 (大正 13)	油彩、キャンバス	46.0 × 38.0	
29	ユトリロ、モーリス	ムーラン・ド・サノワのバル・レストラン	1912-13 (明治 45- 大正 2)	油彩、ボード	37.5 × 54.8	個人蔵
30	ロート、アンドレ	ミルマンドの城壁	制作年不明	油彩、キャンバス	33.0 × 24.0	
31	ヴラマンク、モーリス・ド	風景	制作年不明	油彩、キャンバス	38.0 × 45.5	個人蔵
32	ルオー、ジョルジュ	サーカスの娘	1937 (昭和 12)	油彩、キャンバス	9.2 × 9.3	篠田博之氏・篠田めぐみ氏寄贈
33	佐伯 祐三	リュ・デュ・シャトーの歩道	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	60.0 × 73.1	玉井一郎氏寄贈
34	佐伯 祐三	レ・ジュ・ド・ノエル	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	72.3 × 60.8	玉井一郎氏寄贈
35	佐伯 祐三	広告のある門	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	59.9 × 73.2	玉井一郎氏寄贈
36	佐伯 祐三	オペセルヴァトワール附近	1927 (昭和 2)	油彩、キャンバス	73.2 × 91.8	玉井一郎氏寄贈
37	佐伯 祐三	カフェ・レストラン	1927 (昭和 2)	油彩、キャンバス	61.0 × 50.3	個人蔵
38	鳥海 青児	蘇州風景	1939 (昭和 14)	油彩、キャンバス	89.6 × 145.8	個人蔵
39	川口 軌外	少女と貝殻	1934 (昭和 9)	油彩、キャンバス	167.3 × 267.2	
40	村井 正誠	URBAIN No.1	1936 (昭和 11)	油彩、キャンバス	112.2 × 194.2	
41	建畠 大夢	夢	1939 (昭和 14)	ブロンズ	168.5 × 40.0 × 47.7	
42	浜地 清松	静物	1922 (大正 11)	油彩、キャンバス	64.1 × 73.1	浜地洋二郎氏寄贈
43	石垣 栄太郎	ボナス・マーチ	1932 (昭和 7)	油彩、キャンバス	145.4 × 107.0	石垣綾子氏寄贈

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
44	杉本、ヘンリー	カメルハイランド海辺	1937 (昭和 12)	油彩、キャンバス	80.6 × 106.0	作者寄贈
45	松本 峻介	三人	1943 (昭和 18)	油彩、キャンバス	162.2 × 112.5	個人蔵
4 戦後美術の展開—滋賀県立近代美術館所蔵のアメリカ絵画を中心に						
46	ゴーチー、アーシル	無題 (バージニア風景)	1943-44 (昭和 18-19)	油彩、キャンバス	86.4 × 116.8	滋賀県立近代美術館蔵
47	アルバース、ジョーゼフ	正方形へのオマージュ I - SJ	1973 (昭和 48)	シルクスクリーン、紙	76.0 × 101.5	
48	アルバース、ジョーゼフ	正方形へのオマージュ I - SK	1973 (昭和 48)	シルクスクリーン、紙	76.3 × 101.8	
49	ラインハート、アド	トリプティック	1960 (昭和 35)	油彩、キャンバス	228.6 × 76.2	滋賀県立近代美術館蔵
50	ニューマン、バーネット	無題	1966 (昭和 41)	シルクスクリーン、アクリル板、紙	124.1 × 12.6	滋賀県立近代美術館蔵
51	ロスコ、マーク	ナンバー 28	1962 (昭和 37)	油彩、キャンバス	205.8 × 193.5	滋賀県立近代美術館蔵
52	フランシス、サム	サーキュラー・ブルー	1953 (昭和 28)	油彩、キャンバス	196.6 × 174.0	滋賀県立近代美術館蔵
53	ルイス、モーリス	ダレット・ペー	1959 (昭和 34)	アクリル絵具、キャンバス	234.0 × 367.5	滋賀県立近代美術館蔵
54	ステラ、フランク	バルパライソ・フレッシュ	1964 (昭和 39)	メタリックペイント、キャンバス	197.5 × 457.2	滋賀県立近代美術館蔵
55	ノーランド、ケネス	カドミウム・レイディアンス	1963 (昭和 38)	油彩、キャンバス	237.0 × 241.0	滋賀県立近代美術館蔵
56	クリスト	梱包されたライヒスターク/ ベルリンのプロジェクト	1986 (昭和 61)	鉛筆、木炭他、紙	144.7 × 165.4	
57	ウェッセルマン、トム	シースケープ #8	1966 (昭和 41)	アクリル絵具、キャンバス	172.9 × 106.8	
58	バスキア、ジャン=ミッシェル	無題	1983 (昭和 58)	シルクスクリーン、キャンバス	146.0 × 192.0	
59	ローゼンクワイスト、ジェームズ	F-111: 南 / 西 / 北 / 東	1974 (昭和 49)	リトグラフ、シルクスクリーン、紙	92.8 × 738.3	
60	カロ、アンソニー	カタロニアのふぶき(カタロニア・シリーズ)	1987-88 (昭和 62-63)	鉄	104.5 × 60.0 × 72.0	
61	ノグチ、イサム	空虚	1971(昭和46)/1979(昭和54)	鋳造	116.0 × 86.0 × 66.0	
62	シーガル、ジョージ	煉瓦の壁ぞいに歩く男	1988 (昭和 63)	石膏、木、アクリル絵具、他	2646×359.9×270.4	
5 具体美術協会の作家たち						
63	元永 定正	作品	1964 (昭和 39)	アクリル、小石、キャンバス	281.0 × 181.2	
64	前川 強	作品	1963 (昭和 38)	塗料、麻布、綿布	162.5 × 130.5	
65	松谷 武判	WORK-63-9	1963 (昭和 38)	ビニール接着剤、油彩、水彩、キャンバス	187.0 × 192.0	
66	向井 修二	作品	1965 (昭和 40)	油彩、キャンバス	182.8 × 136.8 × 8.0	
67	上前 智祐	作品	1963 (昭和 38)	油彩他、板	184.0 × 94.0	作者寄贈
68	白髪 一雄	地察星 青眼虎	1961 (昭和 36)	油彩、キャンバス	194.0 × 130.6	
69	田中 敦子	'61 赤と黒	1961 (昭和 36)	ビニール絵具、キャンバス	175.0 × 129.5	
6 展示室外の作品						
70	クルーガー、バーバラ	無題 (私を覚えていて)	1988 (昭和 63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7 × 268.1	
71	フラナガン、バリー	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989 (平成元)	ブロンズ	230.0 × 187.0 × 128.5	
72	グレコ、エミリオ	病人を看護する	1963 (昭和 38)	ブロンズ	157.0 × 186.5 × 12.0	玉井一郎氏寄贈
73	ノグチ、イサム	雲の山	1982 (昭和 57)	酸化処理した鉄	176.0 × 113.0 × 71.8	
74	スネルソン、ケネス	着地	1969 (昭和 44)	ステンレススチール	250.0 × 1000.0 × 360.0	
75	ステラ、フランク	ラッカ III	1968 (昭和 43)	アクリル、キャンバス	304.0 × 760.0	
76	秋山 陽	META-VOID	2004 (平成 16)	陶	1300 × 125.0 × 136.0	
77	北尾 博史	アシモノノセカイ	1999 (平成 11)	銅、鉄	200.0 × 500.0 × 500.0	田中恒子氏寄贈
78	北堅 吉彦	山並一 senkoushu (鮮光朱)	1999 (平成 11)	油彩	170.0 × 1020.0	作者の厚意により保存
79	建畠 覚造	MANJI	1982 (昭和 57)	ステンレススチール	270.0 × 170.0 × 75.0	作者寄贈
80	保田 春彦	格子と壁	1998 (平成 10)	ブロンズ	60.0 × 29.9 × 44.0	作者寄贈
81	保田 春彦	球を覆う幕舎	1994 (平成 6)	ステンレススチール	208.0 × 335.0 × 305.0	
82	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994-95 (平成 6-7)	鉄	60.0 × 127.5 × 451.2	



展示風景



3-2. 特集「おはなしのなかへ」

- 会 期： 2017 (平成 29) 年 5 月 30 日 (火) ～ 9 月 10 日 (日)
- 会 場： 展示室 B (1 階)
- 主 催： 和歌山県立近代美術館
- 内 容： 特集として、描かれたおはなしを手がかりに作品を楽しむ「おはなしのなかへ」コーナーを設けた。
- 展 示 点 数： 31 作家 111 点
- 担当学芸員： 奥村泰彦
- 関 連 事 業： ・フロアレクチャー 日時：6月4日(日)12名、7月16日(日)12名、9月2日(土)4名 いずれも14:00～15:00 奥村泰彦
・こども美術館部「それはそうぞうだそうぞう」6月17日(土)30名 14:00～14:45 青木加苗
- 制 作 物： ・出品目録 (A4 判 14 頁)「コレクション展 2017- 夏」と共通
・プレスリリース (A4 判 3 頁)
・英語版概要 (A4 判 1 頁)
- 入 場 料 金： 一般 340 円 (270 円)、大学生 230 円 (180 円) () 内は 20 名以上の団体料金 「コレクション展 2017- 夏」と共通 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。
- 工 夫： 作品鑑賞の入口としていろいろな物語から、その内容描写の読み取りに関心が向かうよう展示を行った。
- 自己評価・課題・改善案： 作品を鑑賞する入口として物語からの導入を考えたが、物語を描くということに対する理解が浸透しておらず、その説明に難渋したのが誤算であった。また聖書や神話の知識も希薄であることに思い至らなかった。旅行の体験を物語として紹介したコーナーは興味を引いたようで、多様な切り口を設ける必要を改めて感じた。
- 関 連 記 事： ・最上和喜「展示見てクイズ挑む 近代美術館催し」『毎日新聞』2017 年 6 月 21 日、25 面 (和歌山)
・「どんなお話あるかな?近代美術館 夏のコレクション展 物語テーマに」『わかやま新報』2017 年 6 月 28 日、3 面
・「和歌山県立近代美術館で「こども美術館部」和歌山大学美術館部が協力」『和歌山経済新聞』2017 年 6 月 9 日 <https://wakayama.keizai.biz/headline/886/>
- 情 報 掲 載： ・「おはなしのなかへ 県立近代美術館 コレクション展 2017- 夏」『和歌山特報』2017 年 6 月 1 日、14 面
・「Art / WHAT'S ON AROUND KANSAI Telling Stories The Museum of Modern Art,Wakayama」『Kansai scene』2017 年 7 月号、p.11
・「和歌山県立近代美術館便り ◎特集 おはなしのなかへ Special Feature : Telling Stories」『ワカビー』7・8 月号 vol.74、2017 年 7 月発行、p.7
・「展覧会 INFORMATION 和歌山県立近代美術館 特集展示 おはなしのなかへ」『つくりびと』No.60、2017 年 7 月号、p.27
・「展覧会 INFORMATION 和歌山県立近代美術館 特集展示 おはなしのなかへ」『つくりびと』No.61、2017 年 8 月号、p.15

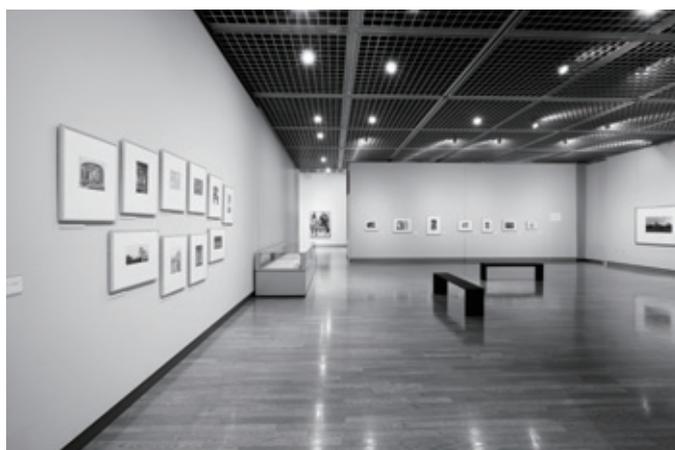
特集「おはなしのなかへ」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵					
No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年 材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
1 おはなしのかたち					
1	保田 春彦	伝説	1957 (昭和 32) 木	199.5 × 36.5 × 39.2	
2	保田 龍門	読書	1921 (大正 10) 油彩、キャンバス	65.5 × 53.0	保田淳子氏寄贈
3	西村 陽平	百科事典につづされた松本清張	1990 (平成 2) 紙	14.0 × 30.0 × 20.0	
4	川口 軌外	無題	1935 (昭和 10) 油彩、キャンバス	162.3 × 111.8	川口京村氏寄贈
5	保田 龍門	すさのおの命 / 大國主命とすせり姫	1942 (昭和 17) 木	44.5 × 71.0 × 17.0	辻井徹氏寄贈
6	中村 康平	Resurrection	1991 (平成 3) 陶	55.0 × 52.5 × 40.0	
7	荒木 高子	顔麿の聖書	1983 (昭和 58) シルクスクリーン、磁土	14.5 × 22.3 × 20.3	
8	山中 嘉一	女神	1958 (昭和 33) リトグラフ、紙	43.0 × 26.3	作者寄贈
9	山中 嘉一	レダ	1958 (昭和 33) リトグラフ、紙	27.5 × 43.5	作者寄贈
10	山中 嘉一	神話	1958 (昭和 33) リトグラフ、紙	40.0 × 26.0	作者寄贈
11	山野 千里	ひそひそ話	2008 (平成 20) 陶	3.0 × 3.0 × 1.5 虎上老人 / 3.5 × 4.0 × 3.0 若者	田中恒子氏寄贈
12	シャガール、マルク	シェヘラザードの夜 『アラビアン・ナイトからの四つの物語』より	1948 (昭和 23) リトグラフ、紙	37.6 × 28.4	個人蔵
13	シャガール、マルク	ニンフたちの洞穴での婚礼の祝宴 『ダフニスとクロエ』より	1961 (昭和 36) リトグラフ、紙	42.2 × 64.1	個人蔵
14	ファンタン=ラトゥール、アンリ	バルジファルと花の精たち	1885 (明治 18) リトグラフ、紙	45.0 × 31.2	橋本忠美氏寄贈
15	ファンタン=ラトゥール、アンリ	神々の黄昏：ジークフリートとラインの乙女	1898 (明治 31) リトグラフ、紙	47.8 × 37.8	橋本忠美氏寄贈
16-20	ルドン、オディロン	『聖アントワヌの誘惑』 第 3 集より 聖アントワヌ：主よ！助けたまえ！ / ……わたしは孤独のうちに沈んだ。 わたしはうしろの木に住んでいたのだ。 / アントワヌ：これらすべての 目的は何だろうか？悪魔：目的などはないのだ！ / 死神：わたしのおかげ で、お前も本気になることができるのだ。さあ抱きあおう！ / ついに太陽 が現われる……そしてまらい太陽のただなかに、イエス・キリストの顔 が光りかがやく	1896 (明治 29) リトグラフ、紙	57.3 × 40.0	
21-26	シャーン、ベン	リルケ『マルテの手記』より：一行の詩のためには…より 扉 I / 鳥がいかに飛ぶのかを知らねばならぬ / しんと静まった部屋で過 ごした日々を / 白衣の中で眠りにおちて恢復を待つ産後の女 / 死にゆく 人の枕元にもまた、ついていなければならぬ。 / 思い出が多くなれば、 それを忘れなければならぬ。そして、思い出がふたたび蘇るまでを待つ 大きな忍耐を持たねばならぬ。思い出そのものではまだなのだ。思い 出が血となり、きらめきとなり、表情となり、名のないものとなり、もは やわたし自身と区別できぬものとなって初めて、ふとした時に、一 篇の詩の最初の言葉がそのただ中から立ち上がり、生まれ出ていくのだ。	1968 (昭和 43) リトグラフ、紙	56.8 × 45.1	
27-36	ダイン、ジム	ドリアン・グレイの肖像 虹のスカーフをつけたドリアン・グレイ / ホース・ランプ / 黒い革のスー	1968 (昭和 43) リトグラフ、銅版、紙	44.6 × 30.9	

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
37-52	ホックニー, デヴィッド	ツをきたバジル/極彩色の細長いビニール・ケープをつけたドリアン・グレイ/ 化粧室のシビル/赤いピアノ/サテン・ハートのための赤いデザイン/ドリアン・ グレイの指輪のための習作/阿片窟のドリアン・グレイ/ドリアン・グレイの胃の 刻印 放蕩者の遍歴 到着/遺産を相続する/善良な人との出会い(ワシントンにて)/ゴスペルを歌う(善 良な人)(マディソン・スクエア・ガーデンにて)/浪費のはじまり/44.45kgの 弱虫/酒場/オールドミスとの結婚/選挙運動(暗いメッセージで)/牢獄を眺 める/ハーレムでの死/財布が空になってゆく/分裂/排除/他者との出会い/ 精神病院	1961-63 (昭和 36-38)	銅版、紙	49.8 × 62.7	
53	ピカソ, パブロ	僧院マックス・ジャコブ著『聖マトレル』より	1910-11 (明治 43-44)	銅版、紙	19.9 × 14.1	
54	ピカソ, パブロ	リューストラテール (女の平和)	1934 (昭和 9)	銅版、紙	21.0 × 13.9	
55-67	ガルスア・マクリーン, クララ	百年以上の孤独 ウルスラ/アマランタ I/ピラル・テルネーラ/レベカ/レメディオス・モスコ テ/サンタ・ソフィア・デ・ラ・ピエダ/レメディオス・ラ・ベラ/アマランタ II/ フェルナンダ・デル・カルピオ/ペトラ・コテス/メメ I/メメ II/アマランタ ウ ルスラ	2002-04 (平成 14-16)	亜鉛版、紙	38.0 × 28.5	作者寄贈
68	清原 啓子	魔都	1987 (昭和 62)/ 1988 (昭和 63) 歿後刷	銅版、紙	45.0 × 55.2	
69	清原 啓子	久生十蘭に捧ぐ	1982 (昭和 57)/ 1988 (昭和 63) 歿後刷	銅版、紙	55.0 × 31.1	
70	清原 啓子	魔都霧譚	1986 (昭和 61)/ 1988 (昭和 63) 歿後刷	銅版、紙	47.0 × 30.2	
71-76	吉原 英雄	版画集『公園』 梅の季節/かきつばた/夏の日のベンチ/午後/雨の日/芝生	1974 (昭和 49)	リトグラフ、銅版、紙	60.1 × 45.4	
77	荒川 修作	ムッシュー・テスト	1971 (昭和 46)	油彩、キャンバス	124.0 × 185.3	
78	リキテンシュタイン, ロイ	ふたつの絵画: ダグウッド	1984 (昭和 59)	木版、リトグラフ、紙	129.2 × 91.0	
2 たびのおはなし						
79-88	浜田 知明	わたくしのヨーロッパの印象記 ロンドン塔/鏡/騎士と鍵と女/騎士たちは静かに眠る/地下牢/ドーバー海 峽/パリの壁から/グランプラス/フランドル伯城/ウィーン	1969-71 (昭和 44-46)	銅版、紙	44.0 × 34.2	
89-92	岡本 信治郎	ベティ・ブープの国 薄桃色の着陸/階段のチャップリン/私はセントルイスブルースの口笛を吹くの が好きだ/黄色い離陸	1974 (昭和 49)	リトグラフ、手彩色、紙	22.2 × 63.9	
93-98	永瀬 義郎	東洋の旅より 上海所見/香港夜景/マレー美人/シバの踊り(インド回想)/スエズの日没/ ピラミッド	1929-30 (昭和 4-5)	木版、紙	33.0×24.0/24.0×30.0	
99	永瀬 義郎	Paris 朝(エッフェル塔)	1930 (昭和 5)	木版、紙	30.7 × 22.0	
100-103	旭 正秀	『旭正秀滞欧版画記念作品集』より 冬のエッフェル塔/チャーガルデンの秋/ピサの斜塔春景/常夏のピラミッド	1933 (昭和 8)	木版、紙	36.4 × 27.8	
104	フルトン, ハミッシュ	ヒープスタウン・ケルン	1986 (昭和 61)	写真、テキスト	119.5 × 137.3	
3 おはなしをみるところ						
105	大久保 一	[支那芝居]	1933 (昭和 8) 頃	木版、紙	16.2 × 22.5	大久保千代氏寄贈
106	小野 忠重	劇場	1933 (昭和 8) 頃	木版、紙	26.2 × 36.1	
107	清水 正博	劇場(浅草松竹座)	1934 (昭和 9)	木版、紙	23.0 × 15.9	
108	藤森 静雄	夜の歌舞伎座(新東京百景 第2集第22号)	1930 (昭和 5)	木版、紙	18.0 × 24.5	
109	永瀬 義郎	ある日の草人	1928 (昭和 3)	木版、紙	39.0 × 20.0	
110	野長瀬 晩花	女優	1947 (昭和 22)	顔料、紙	36.3 × 43.4	
111	ピアード, ピーター	ジョナス・メカスの映画美術館のためのポートフォリオ 16 サン・ケンティン 1972	1982 (昭和 57)	写真	27.8 × 35.5	



展示風景



3-3. 鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展

会 期： 2017 (平成 29) 年 6 月 14 日 (水) ～ 9 月 10 日 (日)
 会 場： エントランスホール、ホワイエ、テラス ほか
 主 催： 和歌山県立近代美術館
 協 力： 武蔵野美術大学 美術館・図書館
 内 容： 武蔵野美術大学 美術館・図書館にて平成 28 年 10 月 17 日から 11 月 12 日にかけて開催された「鈴木久雄 彫刻の速度」展を、同館協力の
 もとに一部再編し、新作を加え、和歌山展として開催した。

展 示 点 数： 1 作家 21 点

担当学芸員： 井上芳子

関 連 事 業： ・高校生のための作者によるギャラリートーク「彫刻の逆襲」

日時：7月29日(土) 31名 14:00～

講師：鈴木久雄

・作者による講演会「彫刻の速度」

日時：7月30日(日) 25名 14:00～

講師：鈴木久雄

制 作 物： ・チラシ (A4 判、オフセット印刷) 企画展「現代版画の展開」と共通

・ダイレクトメール (大判はがき、オフセット印刷)

・出品目録 (A4 判 4 頁)

・プレスリリース (A4 判 3 頁)

・英語版概要 (A4 判 1 頁)

入 場 料 金： 無料

工 夫： 武蔵野美術大学 美術館・図書館と連携し、館内のフリースペースで企画展を開催すると共に、県内高校生を対象に作者によるトーク等も実施した。

自己評価・課題・改善案： 鈴木久雄氏と武蔵野美術大学 美術館・図書館の協力を得て、当館のさまざまな空間で作品を紹介することができた。第一線で活躍する作者と高校生が語り合う場を設けることができた。

関 連 記 事： ・「鈴木久雄 彫刻の速度 14日～県立近代美術館で展覧会」『わかやま新報』2017年5月31日、3面

情 報 掲 載： ・「カルチャーインフォメーション◇和歌山県立近代美術館『現代版画の展開』」『ワカビー』5・6月号 vol.75、2017年5月発行、p.8

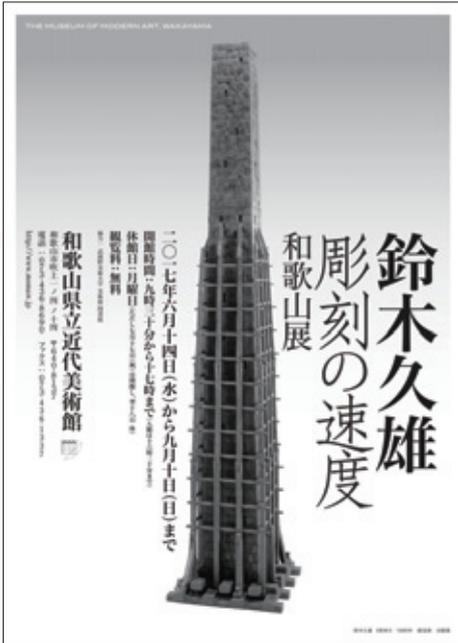
・「ミュージアム 和歌山県立近代美術館 特集展示 鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」『紀州浪漫』2017夏号 Vol.61、2017年6月1日、p.17

・「ギャラリー 和歌山◇鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」『読売新聞』2017年8月25日、30面

「鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
【1階 エントランス】						
1	鈴木久雄	塔体 I	1989 (平成元)	鉄	230.0 × 52.0 × 54.0	
2	鈴木久雄	塔体 III	1989 (平成元)	鉄	230.0 × 54.0 × 54.0	
3	鈴木久雄	木と人型距離 p20	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	40.0 × 35.0 × 22.5	個人蔵
【大階段】						
4	鈴木久雄	人型速度 s41	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	29.0 × 11.5 × 19.5	個人蔵
5	鈴木久雄	木と人型距離 p4	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	36.0 × .6.0 × 20.5	個人蔵
6	鈴木久雄	人型速度 s45	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	29.0 × 11.5 × 19.5	個人蔵
7	鈴木久雄	人型速度 s35	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	28.0 × 22.0 × 19.0	個人蔵
8	鈴木久雄	人型速度 s32	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	22.0 × 27.0 × 22.0	個人蔵
9	鈴木久雄	木と人型距離 p10	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	30.0 × 29.5 × 20.0	個人蔵
10	鈴木久雄	人型速度 s33	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	27.0 × 22.0 × 18.5	個人蔵
11	鈴木久雄	人型速度 s39	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	26.0 × 24.0 × 19.0	個人蔵
12	鈴木久雄	木と人型距離 p2	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	36.0 × .6.0 × 20.5	個人蔵
【2階 ホワイエ】						
13	鈴木久雄	風化儀式-III	1983 (昭和 58)	鉄、白御影石	35.4 × 59.8 × 59.9	
14	鈴木久雄	風化儀式-IV	1983 (昭和 58)	鉄、白御影石	57.0 × 60.0 × 60.0	
15	鈴木久雄	単錐台-II	1984 (昭和 59)	鉄	113.0 × 119.5 × 120.0	
16	鈴木久雄	四角上三角	1982 (昭和 57)	鉄、銅、鉛	53.0 × 42.0 × 29.5	
17	鈴木久雄	錐底円	1982 (昭和 57)	鉄、銅、鉛	34.0 × 42.0 × 34.0	
【2階 テラス】						
18	鈴木久雄	散距離	2008 (平成 20)	鍛造ステンレス鋼	472 × 590 × 180	個人蔵
19	鈴木久雄	交叉距離	2009 (平成 21)	鍛造ステンレス鋼	340 × 800 × 624	個人蔵
20	鈴木久雄	木の現象〈喬木 1〉	1997 (平成 9)	鍛造ステンレス鋼	244 × 76 × 82	個人蔵
21	鈴木久雄	木の現象〈喬木 2〉	1997 (平成 9)	鍛造ステンレス鋼	244 × 76 × 82	個人蔵



チラシ



ダイレクトメール 表



ダイレクトメール 裏



展示風景 (テラス)



展示風景 (エントランス)

3-4. コレクション展 2017 一秋

会 期： 2017 (平成 29) 年 9 月 20 日 (水) ～ 12 月 17 日 (日)

会 場： 展示室 A・B (1 階)

内 容： 所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示した。

展 示 点 数： 65 作家 97 点

担当学芸員： 藤本真名美

制 作 物： ・出品目録 (A4 判 5 頁) 「特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ」と共通

入 場 料 金： 一般 340 円 (270 円)、大学生 230 円 (180 円) () 内は 20 名以上の団体料金 「特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ」と共通 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫： 最初に現代の美術作品を並べ、順路を普段とは異なる右回りにするなど、動線を工夫した。

自己評価・課題・改善案： 同時期開催の特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」に合わせ、国吉や石垣と同じく戦前からアメリカで活動した作家による当館所蔵作品や、戦後にアメリカを活動拠点とした日本人作家を含めた 20 世紀後半のアメリカの美術を、滋賀県立近代美術館のコレクションとともに紹介することができた。特に現代の作品に関して、形式にとらわれず柔軟な発想で、より美しい並べ方を考えることが、課題として残った。

「コレクション展 2017 一秋」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
和歌山の名品選						
1	佐藤 時啓	光一呼吸シリーズより #330 Taiji	1998 (平成 10) / 2014 (平成 26)	プリント	126.2 × 103.2	
2	内海 聖史	眼前の黒	2003 (平成 15)	油彩、綿布	80.0 × 160.0	田中恒子氏寄贈
3	妻木 良三	境界 II	2009 (平成 21) - 2011 (平成 23)	鉛筆、アクリル絵具、ジェッツ、板	90.0 × 90.0	
4	堀 浩哉	水の肌へ -83.7	1983 (昭和 58)	アクリル・岩彩・オイルスティック、キャンバス	227.1 × 162.4 × 6.1	
5	原田 要	絵画の庭 - 巻雲	2001 (平成 13)	木、顔料、他	15.0 × 21.0 × 446.0	個人蔵
6	館 勝生	September.1.2008	2008 (平成 20)	油彩、キャンバス	130.3 × 194.0	
7	中川 佳宣	果実あつめ	1989 (平成元)	アクリル絵具、再生紙	94.5 × 180.0 × 15.0	
8	宮崎 豊治	眼下の庭 2001-08	2001 (平成 13)	鉄、漆	14.5 × 39.5 × 11.0	田中恒子氏寄贈
9	中村 不折	白頭翁	1907 (明治 40)	油彩、キャンバス	200.2 × 136.6	個人蔵
10	神中 糸子	海岸風景	1888-92 (明治 21-25)	油彩、キャンバス	38.0 × 80.4	神中茂次氏寄贈
11	鹿子木 孟郎	パイプを持つ男	1906 (明治 39)	油彩、キャンバス	79.6 × 64.0	
12	建畠 大夢	おゆのつかれ	1913 (大正 2) / 1970 (昭和 45)	ブロンズ	68.0 × 40.0 × 56.0	
13	保田 龍門	少年	1912 (明治 45 / 大正元)	油彩、キャンバス	45.8 × 60.8	保田春彦氏寄贈
14	高須 光治	自画像	1915 (大正 4)	油彩、板	45.4 × 37.3	
15	岸田 劉生	黒き帽子の自画像	1914 (大正 3)	油彩、板	51.3 × 39.2	個人蔵
16	高村 光太郎	佐藤春夫像	1914 (大正 3)	油彩、キャンバス	61.0 × 45.5	個人蔵
17	藤森 静雄	花	1915 (大正 4)	油彩、キャンバス	33.0 × 24.0	恩地邦郎氏寄贈
18	田中 恭吉	ニコライ	1912 (明治 45 / 大正元)	油彩、板	22.0 × 15.5	恩地邦郎氏寄贈
19	恩地 孝四郎	海の女	1912 (明治 45 / 大正元)	油彩、キャンバス	45.0 × 33.3	恩地邦郎氏寄贈
20	林 義明	農夫	1915 (大正 4) 頃	油彩、キャンバス	53.3 × 41.0	林建樹氏寄贈
21	木村 莊八	水道橋	1918 (大正 7)	油彩、キャンバス	45.5 × 38.4	
22	国枝 金三	卓上静物	1919 (大正 8)	油彩、キャンバス	60.6 × 73.2	国枝ぬい氏寄贈
23	山下 新太郎	臥婦	制作年不詳 (1910 年代)	油彩、キャンバス	79.5 × 140.7	個人蔵
24	ヴラマンク、モーリス・ド	風景	制作年不詳	油彩、キャンバス	38.0 × 45.5	個人蔵
25	ユトリロ、モーリス	ムーラン・ド・サノワのバル・レストラン	1912-13 (明治 45 - 大正 2)	油彩、ボード	37.5 × 54.8	個人蔵
26	保田 龍門	クリスティエヌの首	1922 (大正 11) / 1985 (昭和 60)	ブロンズ	34.0 × 27.0 × 27.5	
27	佐伯 祐三	帽子をかぶる自画像	1922 (大正 11)	油彩、キャンバス	73.3 × 53.9	玉井一郎氏寄贈
28	佐伯 祐三	レ・ジュ・ド・ノエル	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	72.3 × 60.8	玉井一郎氏寄贈
29	佐伯 祐三	リュ・デュ・シャトーの歩道	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	60.0 × 73.1	玉井一郎氏寄贈
30	佐伯 祐三	下落合風景	1926 (大正 15 / 昭和元) 頃	油彩、キャンバス	49.7 × 60.4	玉井一郎氏寄贈
31	佐伯 祐三	カフェ・レストラン	1927 (昭和 2)	油彩、キャンバス	61.0 × 50.3	個人蔵
32	佐伯 祐三	オブセルヴァトワール附近	1927 (昭和 2)	油彩、キャンバス	73.2 × 91.8	玉井一郎氏寄贈
33	碓 伊之助	ブザンソン風景	1924 (大正 13)	油彩、キャンバス	50.1 × 60.8	小島善太郎氏寄贈
34	東郷 青児	静物	1924 (大正 13)	油彩、キャンバス	46.0 × 38.0	
35	木下 義謙	赤衣半身像	1931 (昭和 6)	油彩、キャンバス	91.4 × 73.0	作者寄贈
36	木下 孝則	赤衣の女	1934 (昭和 9)	油彩、キャンバス	72.9 × 53.2	
37	林 武	外国風景	1934-35 (昭和 9-10)	油彩、キャンバス	53.0 × 45.0	個人蔵
38	鳥海 青児	蘇州風景	1939 (昭和 14)	油彩、キャンバス	89.6 × 145.8	個人蔵
39	原 勝四郎	綱不知風景	1934 (昭和 9)	油彩、厚紙	52.8 × 64.7	個人蔵
40	川口 軌外	地雑	1932 (昭和 7)	油彩、キャンバス	155.5 × 195.5	
41	川口 軌外	少女と貝殻	1934 (昭和 9)	油彩、キャンバス	167.3 × 267.2	
42	松本 竣介	三人	1943 (昭和 18)	油彩、キャンバス	162.2 × 112.5	個人蔵
43	高井 貞二	地図	1934 (昭和 9) 頃	油彩、キャンバス	131.0 × 162.6	作者寄贈
44	村井 正誠	聚落	1941 (昭和 16)	油彩、キャンバス	80.5 × 233.0	作者寄贈
45	浜地 清松	静物	1922 (大正 11)	油彩、キャンバス	64.1 × 73.1	浜地洋二郎氏寄贈
46	杉本、ヘンリー	カーメルハイランド海辺	1937 (昭和 12)	油彩、キャンバス	80.6 × 106.0	作者寄贈
47	杉本、ヘンリー	寺院のみえるピーエー村	1940 (昭和 15)	油彩、キャンバス	80.4 × 100.6	
48	浜地 清松	裸婦	1928 (昭和 3)	油彩、キャンバス	144.0 × 110.5	
49	浜地 清松	赤い帽子	1928 (昭和 3)	油彩、キャンバス	100.0 × 73.0	

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
50	浜地 清松	裸婦	制作年不詳	油彩、キャンバス	98.8 × 80.5	
51	草間 彌生	Interminable Net No.2	1959 (昭和 34)	油彩、キャンバス	139.0 × 139.0	滋賀県立近代美術館
52	近藤 竜男	67-24	1967 (昭和 42)	アクリル絵具、キャンバス、ナイロン 組、木、プラスチック	194.0 × 130.0 × 9.5	
53	高井 貞二	イエニカエル	1959 (昭和 34)	油彩、キャンバス	132.0 × 190.0	作者寄贈
54	岡田 謙三	入江	1959 (昭和 34)	油彩、キャンバス	189.0 × 155.5	
55	川端 実	門のイメージ 黒	1984 (昭和 59)	アクリル絵具、キャンバス	213.6 × 158.1	
56	中里 斉	Massa (マッサ)	1981 (昭和 56)	アクリル絵具、油彩、キャンバス	112.0 × 336.5	
57	桑山 忠明	トライアングル 青/緑	1984-85 (昭和 59-60)	油彩、和紙、ハニカムペーパー、板	221.6 × 267.3 × 9.9	
58	河原 温	"SEPT.27.1992"	1992 (平成 4)	アクリル絵具、キャンバス	45.7 × 61.0	滋賀県立近代美術館
59	ノグチ、イサム	空虚	1971 (昭和 46) /1979 (昭和 54)	銅	116.0 × 86.0 × 86.0	
60	シーガル、ジョージ	煉瓦の壁ぞいに歩く男	1988 (昭和 63)	石膏、木、アクリル絵具、他	264.6 × 359.9 × 270.4	
61	フランシス、サム	サーキュラー・ブルー	1953 (昭和 28)	油彩、キャンバス	196.6 × 174.0	滋賀県立近代美術館
62	ロスコ、マーク	ナンバー 28	1962 (昭和 37)	油彩、キャンバス	205.8 × 193.5	滋賀県立近代美術館
63	ルイス、モーリス	ダレット・ペー	1959 (昭和 34)	アクリル絵具、キャンバス	234.0 × 367.5	滋賀県立近代美術館
64	ステイル、クリフォード	PH-386	1955 (昭和 30)	油彩、キャンバス	287.0 × 393.7	滋賀県立近代美術館
65	ラインハート、アド	トリプティック	1960 (昭和 35)	油彩、キャンバス	228.6 × 76.2	滋賀県立近代美術館
66	ステラ、フランク	バルバライソ・フレッシュ	1964 (昭和 39)	メタリックペイント、キャンバス	197.5 × 457.2	滋賀県立近代美術館
67	ノーランド、ケネス	カドミウム・レイディアンス	1963 (昭和 38)	油彩、キャンバス	237.0 × 241.0	滋賀県立近代美術館

展示室外の作品

68	フラナガン、バリー	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989 (平成元)	ブロンズ	230.0 × 187.0 × 128.5	
69	北堅 吉彦	山並一 senkoushu (鮮光朱)	1999 (平成 11)	油彩	170.0 × 1020.0	作者の厚意により保存
70	シテラ、フランク	ラッカ III	1968 (昭和 43)	アクリル絵具、キャンバス	304.0 × 760.0	
71	クルーガー、バーバラ	無題 (私を覚えていて)	1988 (昭和 63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7 × 268.1 × 5.0	
72	秋山 陽	META-VOID	2004 (平成 16)	陶	130.0 × 125.0 × 136.0	
73	保田 春彦	格子と壁	1998 (平成 10)	ブロンズ	60.0 × 29.9 × 44.0	作者寄贈
74	保田 春彦	球を覆う幕舎	1994 (平成 6)	ステンレススチール	208.0 × 335.0 × 305.0	
75	ノグチ、イサム	雲の山	1982 (昭和 57)	酸化処理した鉄	176.0 × 113.0 × 71.8	
76	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994-1995 (平成 6-7)	鉄	60.0 × 127.5 × 451.2	
77	建畠 覚造	MANJI	1982 (昭和 57)	ステンレススチール	270.0 × 170.0 × 75.0	作者寄贈
78	グレコ、エミリオ	病人を看護する	1963 (昭和 38)	ブロンズ	157.0 × 186.5 × 12.0	玉井一郎氏寄贈
79	スネルソン、ケネス	着地	1969 (昭和 44)	ステンレススチール	250.0 × 1000.0 × 360.0	
80	北尾 博史	アシモトノセカイ	1999 (平成 11)	銅、鉄	200.0 × 500.0 × 500.0	田中恒子氏寄贈
81	鈴木 久雄	単雑台 - II	1984 (昭和 59)	鉄	113.0 × 119.5 × 120.0	
82	鈴木 久雄	塔体 I	1989 (平成元)	鉄	230.0 × 52.0 × 54.0	作者寄贈
83	鈴木 久雄	塔体 III	1989 (平成元)	鉄	230.0 × 54.0 × 54.0	作者寄贈
84	鈴木 久雄	木の現象〈喬木 1〉	1997 (平成 9)	鍛造ステンレス鋼	244.0 × 76.0 × 82.0	個人蔵
85	鈴木 久雄	木の現象〈喬木 2〉	1997 (平成 9)	鍛造ステンレス鋼	244.0 × 76.0 × 82.0	個人蔵
86	鈴木 久雄	散距離	2008 (平成 20)	鍛造ステンレス鋼	472.0 × 590.0 × 180.0	個人蔵
87	鈴木 久雄	交叉距離	2009 (平成 21)	鍛造ステンレス鋼	340.0 × 800.0 × 624.0	個人蔵
88	鈴木 久雄	人型速度 s32	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	22.0 × 27.0 × 22.0	個人蔵
89	鈴木 久雄	人型速度 s33	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	27.0 × 22.0 × 18.5	個人蔵
90	鈴木 久雄	人型速度 s35	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	28.0 × 22.0 × 19.0	個人蔵
91	鈴木 久雄	人型速度 s39	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	26.0 × 24.0 × 19.0	個人蔵
92	鈴木 久雄	人型速度 s41	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	29.0 × 11.5 × 19.5	個人蔵
93	鈴木 久雄	人型速度 s45	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	29.0 × 11.5 × 19.5	個人蔵
94	鈴木 久雄	木と人型距離 p2	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	36.0 × 6.0 × 20.5	個人蔵
95	鈴木 久雄	木と人型距離 p4	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	36.0 × 6.0 × 20.5	個人蔵
96	鈴木 久雄	木と人型距離 p10	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	30.0 × 29.5 × 20.0	個人蔵
97	鈴木 久雄	木と人型距離 p20	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	40.0 × 35.0 × 22.5	個人蔵



展示風景



3-5. 特集「NANGA 俗を去り自ら楽しむ」

会 期： 2017 (平成 29) 年 9 月 20 日 (水) ～ 12 月 17 日 (日)
 会 場： 展示室 A・B (1 階)
 主 催： 和歌山県立近代美術館
 内 容： 当館所蔵品に加え、和歌山県立博物館、滋賀県立近代美術館の所蔵品、個人蔵の文献資料を展示し、近世・近代の南画の名品とともに、和歌山と南画の密接な関係を紹介した。

展 示 点 数： 29 作家 61 点 (うち資料 16 点)

担当学芸員： 藤本真名美

関 連 事 業： ・フロアレクチャー

日時：10月7日(土) 9名、11月4日(土) 6名、12月16日(土) 14名 いずれも 14:00～15:00 藤本真名美

・子ども美術館部「しぜんの中でかくれんぼ」

日時：10月21日(土) 10名 14:00～14:45 青木加苗

制 作 物： ・出品目録 (A4 判 5 頁) 「コレクション展 2017- 秋」と共通

・プレスリリース (A4 判 3 頁)

・英語版概要 (A4 判 1 頁)

入 場 料 金： 一般 340 円 (270 円)、大学生 230 円 (180 円) () 内は 20 名以上の団体料金 「コレクション展 2017- 秋」と共通 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫： トピックごとに解説する小パネルを設けたほか、主要なものについては作品解説も付して、近世・近代の南画について理解が深まるよう工夫した。

自己評価・課題・改善案： 和歌山と密接な関係がある南画について、近代からのアプローチで特集展示を開催することができた。今回の展示を踏まえて、美術館・博物館両館の連携による、大規模な南画の特別展をいつか実現させたいと考えている。一方で、南画というテーマは難解で一般に向けて説明がしにくいと、今回改めて痛感した。これからも着実な調査研究を続け、より良いアプローチを探っていきたい。

関 連 記 事： ・「和歌山の自然知る南画 近代美術館で 12 月 17 日まで 掛け軸、屏風や史料展示」『産経新聞』2017 年 10 月 3 日、23 面

・「自由な南画の表現 12 月まで 近代美術館で特集展示」『わかやま新報』2017 年 10 月 4 日、3 面

・「心象風景生き生きと 江戸～昭和の 45 点」『毎日新聞』2017 年 10 月 12 日

・「和歌山県立近代美術館で「南画展」」『和歌山経済新聞』2017 年 11 月 16 日 <https://wakayama.keizai.biz/headline/993/>

情 報 掲 載： ・「art 和歌山県立近代美術館 特集展示 NANGA 俗を去り自らを楽しむ」『NATTS』2017 年 9 月号、p.16

・「カルチャーインフォメーション◇和歌山県立近代美術館 常設展 コレクション展 2017- 秋 特集展示 NANGA 俗を去り自らを楽しむ」『ワカビー』9・10月号 vol.75、2017 年 9 月発行、p.8

・NHK 和歌山、番組「あすの WA !」にて展覧会紹介。2017 年 10 月 5 日放送

・J:COM チャンネル、番組「デイリーニュース ～和歌山～」にて展覧会紹介。2017 年 10 月 19 日放送

・「カルチャーインフォメーション◇和歌山県立近代美術館 常設展 コレクション展 2017- 秋 特集展示 NANGA 俗を去り自らを楽しむ」『ワカビー』11・12月号 vol.76、2017 年 11 月発行、p.8

特集「NANGA 俗を去り自ら楽しむ」出品目録

展示期間：「*」が付いている作品は前期展示、「**」が付いている作品は後期展示、「***」が付いている作品は前期・後期で場面替え ※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
1**	祇園 南海	紅梅図	江戸時代	墨、紙	45.0 × 29.2	和歌山県立博物館
2*	祇園 南海	竹図	江戸時代	墨、紙	39.4 × 52.7	和歌山県立博物館
3*	祇園 南海	蘭図	江戸時代	墨、紙	47.6 × 27.3	和歌山県立博物館
4***	祇園 南海	新竹図巻	江戸時代	墨、紙	28.0 × 130.2	和歌山県立博物館
5**	祇園 南海	墨竹図	江戸時代	墨、紙	40.5 × 53.0	和歌山県立博物館
6**	桑山 玉洲	那智瀑布図	江戸時代	顔料、紙	121.3 × 34.9	和歌山県立博物館
7*	桑山 玉洲	墨竹葡萄図	江戸時代	墨、紙	144.2 × 68.3	和歌山県立博物館
8*	野呂 介石	那智青緑山水図	1805 (文化 2)	顔料、絹	101.9 × 49.1	和歌山県立博物館
9**	野呂 介石	鳴滝山潤田遊図	1811 (文化 8)	墨、紙	134.9 × 41.7	和歌山県立博物館
10	森 寛斎	夏景山水図	1863 (文久 3)	顔料、絹	139.4 × 84.6	滋賀県立近代美術館
11	田能村 直入	花鳥図	1847 (弘化 4)	顔料、紙	173.1 × 93.1	滋賀県立近代美術館
12	田近 竹邨	松路連袂・林藪逍遙図	1913 (大正 2)	墨、絹	174.6 × 57.3(各)	滋賀県立近代美術館
13	富岡 鉄斎	漁夫偃傲図	1920 (大正 9)	顔料、墨、紙	133.2 × 31.8	瀧川正徳氏、作子氏寄贈
14	野長瀬 晩花	風景	大正初期	顔料、絹	21.0 × 18.2	
15	日高 昌克	遠山不盡	制作年不詳	墨、彩色、紙	33.2 × 40.8	池田壽一氏寄贈
16	日高 昌克	深秋	制作年不詳	墨、彩色、紙	34.4 × 31.5	池田壽一氏寄贈
17	村上 華岳	仲秋月明之図	1937 (昭和 12)	顔料、墨、紙	33.4 × 63.7	個人蔵
18	小野 竹喬	春浅き海辺	1918 (大正 7)	顔料、絹	30.0 × 43.0	
19	土田 麦僊	梅々畑村	1915 (大正 4)	顔料、絹	145.0 × 50.9	
20***	富田 溪仙	宇治川之巻 木幡	1915 (大正 4)	顔料、絹	50.4 × 524.6	滋賀県立近代美術館
21	今村 紫紅	柿の秋	1915 (大正 4) 頃	顔料、絹	123.5 × 41.1	滋賀県立近代美術館
22	富田 溪仙	近江八景	制作年不詳	顔料、紙	139.0 × 32.0	滋賀県立近代美術館
23	玉村 方久斗	梅	大正末 - 昭和初期	顔料、絹	124.9 × 34.3	個人蔵
24	近藤 浩一路	白雲去来	制作年不詳	墨、紙	138.8 × 54.0	個人蔵
25	近藤 浩一路	近江富士秋晴	制作年不詳	顔料、墨、紙	42.3 × 53.5	個人蔵
26	小杉 放庵 (未醒)	椿花一枝図	制作年不詳	顔料、紙	35.2 × 40.2	個人蔵
27	橋本 関雪	江亭賞梅図・松雲塔二顧図	制作年不詳	顔料、墨、絹	147.9 × 36.0(各)	個人蔵

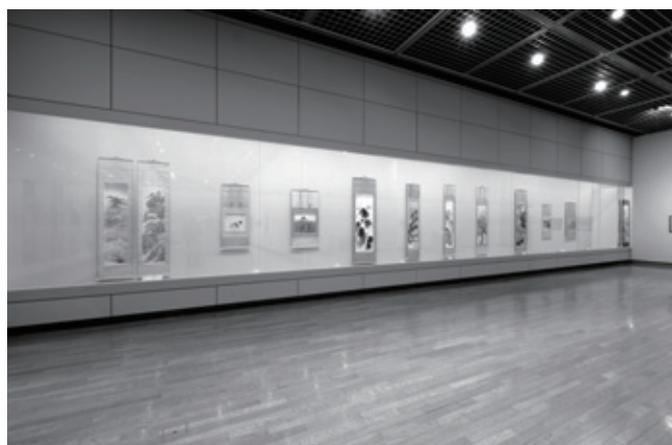
No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
28	松林 桂月	桃花流水	制作年不詳	顔料、絹	44.8 × 51.2	個人蔵
29	矢野 橋村	春山樵図	制作年不詳	顔料、絹	152.0 × 51.0	個人蔵
30	山口 八九子	水辺村落	1917 (大正 6)	顔料、絹	125.8 × 42.0	山口由季子氏寄贈
31	山口 八九子	海近き畑	1920 (大正 9)	顔料、絹	138.8 × 49.9	
32	山口 八九子	山頭の秋	1920 (大正 9)	顔料、紙	137.5 × 67.9	山口由季子氏寄贈
33	水越 松南	富貴花	1928 (昭和 3)	顔料、紙	127.5 × 31.0	個人蔵
34	大亦 観風	山湯野趣	1937 (昭和 12)	顔料、紙	135.8 × 29.9	
35	大亦 観風	長谷薫風	1947 (昭和 22) 頃	顔料、紙	132.0 × 45.0	個人蔵
36*	大亦 観風	紀州路行脚日記画巻 紀北巻	1934 (昭和 9)	顔料、紙	24.2 × 1795.0	
37**	大亦 観風	紀州路行脚日記画巻 紀南巻	1934 (昭和 9)	顔料、紙	24.2 × 1698.0	
38	森田 恒友	『日本風景版画』第二輯 会津の部「桧原湖畔」	1917 (大正 6)	木版、紙	24.0 × 17.6	
39	森田 恒友	『日本風景版画』第二輯 会津の部「若松城趾」	1917 (大正 6)	木版、紙	17.5 × 24.0	
40	森田 恒友	『日本風景版画』第二輯 会津の部「若松城趾」	1917 (大正 6)	木版、紙	17.5 × 24.0	
41	須田 国太郎	風景	制作年不詳	顔料、墨、紙	69.3 × 39.6	個人蔵
42	正宗 得三郎	波	1926 (昭和元)	油彩、板	12.5 × 17.8	個人蔵
43	児島 善三郎	林檎園	1947 (昭和 22)	油彩、キャンバス	32.0 × 41.2	個人蔵
44	小林 和作	山湖の秋	制作年不詳	油彩、キャンバス	80.5 × 99.8	個人蔵
45	湯川 三舟	伝 有田川之図	制作年不詳	墨、紙	146.0 × 206.0	小野直彦氏遺族寄託

特集展示 NANGA 俗を去り自ら楽しむ (資料編)

46	『日本南画協会会報』第 4 集 発行：日本南画協会	1899 (明治 32)	冊子	個人蔵
47	『日本南画協会会報』第 17 集 発行：尾道南画協会	1906 (明治 39)	冊子	個人蔵
48	『南宗画志』第 4 号 発行：日本南画協会	1902 (明治 35)	冊子	個人蔵
49	『中央美術』第 3 巻第 7 号 発行：中央美術社	1917 (大正 6)	冊子	
50	『南画大観』第 4 巻第 2 号 (『絵画清談』特別号) 発行：絵画清談社	1916 (大正 5)	冊子	個人蔵
51	『黙鐘』第 1 巻第 6 号 発行：アート倶楽部	1915 (大正 4)	冊子	
52	淡川康一編『富田溪仙画伯遺愛 仙厓墨蹟』発行：マリア書房	1954 (昭和 29)	冊子	個人蔵
53	『第五回南画展 (日本南画院展覧会図録)』発行：朝日新聞社	1926 (大正 15)	冊子	
54	『第九回南画展図録 (日本南画院展覧会図録)』発行：芸艸堂	1930 (昭和 5)	冊子	
55	『南画鑑賞』第 8 巻第 5 号 (南画鑑賞会創立 7 周年記念号) 発行：南画鑑賞会	1939 (昭和 14)	冊子	個人蔵
56	『南画鑑賞』第 6 巻第 3 号 発行：南画鑑賞会	1937 (昭和 12)	冊子	個人蔵
57	人見少華『池大雅』発行：中央美術社	1926 (大正 15)	書籍	個人蔵
58	矢野橋村『浦上玉堂』発行：中央美術社	1926 (大正 15)	書籍	個人蔵
59	萬鉄五郎『アルス美術叢書 文晁』(普及版) 発行：アルス	1928 (昭和 3) ※通常版 1926 (大正 15)	書籍	
60	小杉未醒 (放庵)『アルス美術叢書 大雅堂』発行：アルス	1926 (大正 15)	書籍	
61	前川真澄編『風景と熊野』発行：前川真澄	1929 (昭和 4)	書籍	個人蔵



展示風景



3-6. コレクション展 2018 ー冬春

会 期： 2018 (平成 30) 年 1 月 4 日 (木) ～ 4 月 15 日 (日)

会 場： 展示室 A・B (1 階)

主 催： 和歌山県立近代美術館

内 容： 所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示した。滋賀県立近代美術館の寄託作品による「院展の画家たち」シリーズを開始し、「特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち | 古きに学ぶ 下村観山を中心に」のコーナーを設けた。

展 示 点 数： 38 作家 70 点

担当学芸員： 植野比佐見、藤本真名美 (特集)

制 作 物： ・出品目録 (A4 判 5 頁) 特集「はじまりの景色」と共通

入 場 料 金： 一般 340 円 (270 円)、大学生 230 円 (180 円) () 内は 20 名以上の団体料金 「コレクション展 2017- 秋」と共通 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫： 特集コーナーでは和歌山市出身の下村観山を中心に、古画学習という切り口で、院展 (日本美術院展覧会) の画家による作品を紹介した。滋賀県立近代美術館から寄託を受けている作品だけでなく、当館所蔵の作品や、観山旧蔵の画材等の資料も加えて展示した。

自己評価・課題・改善案： 特集コーナーでは、作家解説・作品解説のパネルを設け、展覧会を充実させることができた。プレスリリース等を実施して周知できなかったため、今後は臨機応変に積極的な広報活動を心がけたい。

「コレクション展 2018 ー冬春」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No. 作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考	
わかやまの名品						
1	藤 浩志	1996 (平成 8)	木、塗料 (4 点)	各：30.5 × 64.0 × 20.0	田中恒子氏寄贈	
2	中ハシ 克シゲ	BONSAI	1985 (昭和 60)	ブロンズ、鉄に彩色	104.0 × 47.0 × 43.0	駒田哲男・駒田陽子氏寄贈
3	中村 不折	白頭翁	1907 (明治 40)	油彩、キャンバス	200.2 × 136.6	株式会社 紀陽銀行蔵
4	山下 新太郎	臥婦	制作年不詳 (1910 年代)	油彩、キャンバス	79.5 × 140.7	株式会社 紀陽銀行蔵
5	鹿子木 孟郎	パイプを持つ男	1906 (明治 39)	油彩、キャンバス	79.6 × 64.0	
6	保田 龍門	村の娘	1916 (大正 5)	油彩、キャンバス	82.4 × 66.9	保田淳子氏寄贈
7	高村 光太郎	佐藤春夫像	1914 (大正 3)	油彩、キャンバス	61.0 × 45.5	個人蔵
8	国枝 金三	島の四月	1917 (大正 6)	油彩、キャンバス	65.2 × 80.4	国枝ゆい氏寄贈
9	神中 糸子	妙義山之秋	1918 (大正 7)	油彩、キャンバス	73.0 × 100.4	
10	建島 大夢	感に打たれた女	1932 (昭和 7) / 鑄造年不詳 (生前鑄造)	ブロンズ	高さ：161.0	
11	佐伯 祐三	ベッドに坐る裸婦	1923 (大正 12)	油彩、キャンバス	91.1 × 65.5	玉井一郎氏寄贈
12	佐伯 祐三	リュ・デュ・シャトーの歩道	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	60.0 × 73.1	玉井一郎氏寄贈
13	佐伯 祐三	カフェ・レストラン	1927 (昭和 2)	油彩、キャンバス	61.0 × 50.3	個人蔵
14	佐伯 祐三	男の顔 (K 氏の像)	1927 (昭和 2)	油彩、板	33.0 × 23.8	玉井一郎氏寄贈
15	佐伯 祐三	モラン風景	1928 (昭和 3)	油彩、ボード	38.0 × 44.5	玉井一郎氏寄贈
16	鳥海 青児	蘇州風景	1939 (昭和 14)	油彩、キャンバス	89.6 × 145.8	株式会社 紀陽銀行蔵
17	松本 峻介	三人	1943 (昭和 18)	油彩、キャンバス	162.2 × 112.5	株式会社 紀陽銀行蔵
18	高井 貞二	北の兵士	1943 (昭和 18)	油彩、キャンバス	97.0 × 144.5	作者寄贈
19	高井 貞二	国境の少年達	1943 (昭和 18)	油彩、キャンバス	116.0 × 92.0	個人蔵
20	岡 鹿之助	燈台	1953 (昭和 28)	油彩、キャンバス	65.0 × 80.5	個人蔵
21	保田 龍門	少女	1925 (大正 14)	ブロンズ	高さ：173.5	

特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち | 古きに学ぶ 下村観山を中心に

22	下村 観山	白猫 魔障図	1910 (明治 43)	墨、絹	67.2 × 164.6	
23	下村 観山	観音図	1911 (明治 44) 頃	顔料、絹	138.5 × 56.4	滋賀県立近代美術館蔵
24	下村 観山	維摩図	制作年不詳	顔料、絹	130.0 × 55.0	滋賀県立近代美術館蔵
25	下村 観山	三保虹	1923 (大正 12) 頃	顔料、絹	128.0 × 50.0	個人蔵
26	下村 観山	西行上人望富士山図	制作年不詳	顔料、墨、絹 (対幅)	各 126.5 × 49.5	個人蔵
27	下村 観山	鸚鵡図	1901 (明治 34)	顔料、紙 (六曲一屏風)	各：168.0 × 363.0	滋賀県立近代美術館蔵
28	小茂田 青樹	四季草花図 冬季・夏季	1919 (大正 8)	顔料、紙 (六曲一屏風)	各：132.5 × 259.0	滋賀県立近代美術館蔵
29	下村 清時	亀置物	制作年不詳	木	大：12.3 × 21.5 × 6.2 / 小：10.2 × 19.3 × 5	下村照子氏寄贈
30	下村 清時	太子像	1921 (大正 10)	顔料、木	101.5 × 59.2	
31	安田 鞆彦	紅梅	1961 (昭和 36)	顔料、紙	164.4 × 91.8	滋賀県立近代美術館蔵

資料 下村観山旧蔵画材：道具類：絵具、絵皿、棒絵具、面相筆・小筆、刷毛

滋賀県立近代美術館とわかやまの名品選

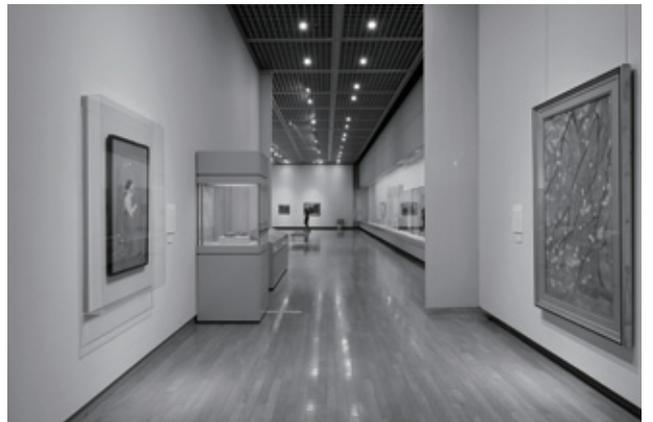
32	ノーランド, ケネス	カドミウム・レイディアンズ	1963 (昭和 38)	油彩、キャンバス	237.0 × 241.0	滋賀県立近代美術館蔵
33	元永 定正	作品	1964 (昭和 39)	アクリル絵具、小石、キャンバス	281.0 × 181.2	
34	榎倉 康二	FIGURE B-No.3	1983 (昭和 58)	アクリル塗料、綿布	172.0 × 353.3 × 3.4	
35	ノグチ, イサム	黒いシルエット	1958 (昭和 33)	アルミニウム	高さ：241.0	
36	ステイル, クリフォード	PH-386	1955 (昭和 30)	油彩、キャンバス	287.0 × 393.7	滋賀県立近代美術館蔵
37	ルイス, モーリス	ダレット・ペー	1959 (昭和 34)	アクリル絵具、キャンバス	234.0 × 367.5	滋賀県立近代美術館蔵
38	ロスコ, マーク	ナンバー 28	1962 (昭和 37)	油彩、キャンバス	205.8 × 193.5	滋賀県立近代美術館蔵
39	ロスコ, マーク	赤の上の黄褐色と黒	1957 (昭和 32)	油彩、キャンバス	176.2 × 136.6	
40	シーガル, ジョージ	煉瓦の壁ぞいに歩く男	1988 (昭和 63)	石膏、木、アクリル絵具、他	高さ：264.6	



展示風景（コレクション展 2018-冬春）



展示風景（特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち | 古きに学ぶ 下村観山を中心に）



※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名/題名	制作年/発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵/備考
展示室外の作品特集						
41	フラナガン, ハリー	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989 (平成元)	ブロンズ	230.0 × 187.0 × 128.5	作者の厚意により保存
42	北堅 吉彦	山並 - senkoushu (鮮光朱)	1999 (平成 11)	油彩	170.0 × 1020.0	
43	ステラ, フランク	ラッカ III	1968 (昭和 43)	アクリル絵具、キャンバス	304.0 × 760.0	
44	クルーガー, バーバラ	無題(私を覚えていて)	1988 (昭和 63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7 × 268.1 × 5.0	
45	秋山 陽	META-VOID	2004 (平成 16)	陶	130.0 × 125.0 × 136.0	作者寄贈
46	保田 春彦	格子と壁	1998 (平成 10)	ブロンズ	60.0 × 29.9 × 44.0	
47	保田 春彦	球を覆う幕舎	1994 (平成 6)	ステンレススチール	208.0 × 335.0 × 305.0	
48	イサム, ノグチ	雲の山	1982 (昭和 57)	酸化処理した鉄	176.0 × 113.0 × 71.8	
49	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994-1995 (平成 6-7)	鉄	60.0 × 127.5 × 451.2	作者寄贈
50	建畠 覚造	MANJI	1982 (昭和 57)	ステンレススチール	270.0 × 170.0 × 75.0	玉井一郎氏寄贈
51	グレコ, エミリオ	病人を看護する	1963 (昭和 38)	ブロンズ	157.0 × 186.5 × 12.0	
52	スネルソン, ケネス	着地	1969 (昭和 44)	ステンレススチール	250.0 × 1000.0 × 360.0	田中恒子氏寄贈
53	北尾 博史	アシモトノセカイ	1999 (平成 11)	銅、鉄	200.0 × 500.0 × 500.0	
54	鈴木 久雄	単錐台 - II	1984 (昭和 59)	鉄	113.0 × 119.5 × 120.0	作者寄贈
55	鈴木 久雄	塔体 I	1989 (平成元)	鉄	230.0 × 52.0 × 54.0	作者寄贈
56	鈴木 久雄	塔体 III	1989 (平成元)	鉄	230.0 × 54.0 × 54.0	個人蔵
57	鈴木 久雄	木の現象〈喬木 1〉	1997 (平成 9)	鍛造ステンレス鋼	244.0 × 76.0 × 82.0	個人蔵
58	鈴木 久雄	木の現象〈喬木 2〉	1997 (平成 9)	鍛造ステンレス鋼	244.0 × 76.0 × 82.0	個人蔵
59	鈴木 久雄	散距離	2008 (平成 20)	鍛造ステンレス鋼	472.0 × 590.0 × 180.0	個人蔵
60	鈴木 久雄	交叉距離	2009 (平成 21)	鍛造ステンレス鋼	340.0 × 800.0 × 624.0	個人蔵
61	鈴木 久雄	人型速度 s32	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	22.0 × 27.0 × 22.0	個人蔵
62	鈴木 久雄	人型速度 s33	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	27.0 × 22.0 × 18.5	個人蔵
63	鈴木 久雄	人型速度 s35	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	28.0 × 22.0 × 19.0	個人蔵
64	鈴木 久雄	人型速度 s39	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	26.0 × 24.0 × 19.0	個人蔵
65	鈴木 久雄	人型速度 s41	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	29.0 × 11.5 × 19.5	個人蔵
66	鈴木 久雄	人型速度 s45	2015 (平成 27)	鍛造ステンレス鋼	29.0 × 11.5 × 19.5	個人蔵
67	鈴木 久雄	木と人型距離 p2	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	36.0 × 6.0 × 20.5	個人蔵
68	鈴木 久雄	木と人型距離 p4	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	36.0 × 6.0 × 20.5	個人蔵
69	鈴木 久雄	木と人型距離 p10	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	30.0 × 29.5 × 20.0	個人蔵
70	鈴木 久雄	木と人型距離 p20	2016 (平成 28)	鍛造ステンレス鋼	40.0 × 35.0 × 22.5	個人蔵

3-7. 特集「はじまりの景色」

会 期： 2018 (平成 30) 年 1 月 4 日 (木) ～ 4 月 15 日 (日)

会 場： 展示室 A・B (1 階)

主 催： 和歌山県立近代美術館

内 容： 新年の特集として「はじまりの景色」を設け、作者が初期作品を展開させる過程や、スケッチから本画へのプロセスなど、生まれ、成長する表現の魅力を紹介した。

展 示 点 数： 31 作家 103 点

担当学芸員： 植野比佐見

関 連 事 業： ・フロアレクチャー

日 時： 1 月 27 日 (土) 22 名、3 月 10 日 (土) 10 名、3 月 24 日 (土) 36 名 いずれも 14:00 ～ 15:00 植野比佐見

制 作 物： ・出品目録 (A4 判 5 頁) 「コレクション展 2018- 冬春」と共通

・プレスリリース (A4 判 3 頁)

・英語版概要 (A4 判 1 頁)

入 場 料 金： 一般 340 円 (270 円)、大学生 230 円 (180 円) () 内は 20 名以上の団体料金 「コレクション展 2018- 冬春」と共通 高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料。第 4 土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料。

工 夫： 所蔵作品を中心に美術作品を「はじまり」という視点から見直した。春・朝・芽生え・誕生をテーマにした作品、線や色、かたちという、造形のはじまりになる要素を取り上げた作品、作り手が初めて作った作品、そして連作のはじまりとして「No.1」がタイトルに冠された作品をとりあげた。

自己評価・課題・改善案： 連作のはじまりは、その後の展開を見ていくと、そのひとの仕事が続けていく支えになっていることがわかり、制作がひらめきばかりではなく、有機的に、意識的に継続されて実現されているものであることを提示できた。美術はあらゆる人にあらかじめ開かれている場所だと伝えていくことが課題である。

関 連 記 事： ・「和歌山県立近代美術館 はじまりの景色」『わかやま探検ミュージアム』4・5月号 vol.46、2018 年 4 月 1 日発行、p.4

情 報 掲 載： ・「カルチャーインフォメーション◇和歌山県立近代美術館 特集 はじまりの景色」『ワカビー』1・2月号 vol.77、2018 年 1 月発行、p.8

・「展覧会 INFORMATION 和歌山県立近代美術館 コレクション展 2018- 冬春 特集 はじまりの景色」『つくりびと』No.67、2018 年 2 月号、p.15

・「information 3 コレクション展 2018- 冬春 特集 はじまりの景色」『建築と社会』2018 年 2 月 1 日発行、p.29

・「展覧会 INFORMATION 和歌山県立近代美術館 コレクション展 2018- 冬春 特集 はじまりの景色」『つくりびと』No.68、2018 年 3 月号、p.15

特集「はじまりの景色」出品目録

※特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
1	小野 竹喬	春芽	1972 (昭和 47)	顔料、紙	33.3 × 45.6	
2	山口 八九子	風景	1911 (明治 44) 頃	顔料、絹	69.4 × 141.2	山口由李子氏寄贈
3	村井 正誠	ゴルフジュアンの朝	1934 (昭和 9)	油彩、キャンバス	145.3 × 112.1	作者寄贈
4	姜丞熹	5時30分の夜明けー1990年夏	1990 (平成 2)	銅版、紙	58.8 × 115.3	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
5	小林 敬生	蘇生の刻ー群舞ー	1992 (平成 4)	木口木版、コラージュ、紙	167.3 × 260.2	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
6	野田 哲也	日記 1976 年 2 月 15 日	1976 (昭和 51)	木版、シルクスクリーン、紙	46.6 × 70.4	
7	野田 哲也	日記 1977 年 8 月 10 日	1977 (昭和 52)	木版、シルクスクリーン、紙	79.0 × 42.8	
8	野田 哲也	日記 1980 年 6 月 25 日	1980 (昭和 55)	木版、シルクスクリーン、紙	84.8 × 44.0	ブリッジ寄贈
9	奈良 美智	どんまいQちゃん	1993 (平成 5)	木、彩色	高さ：123.0	田中恒子氏寄贈
10	岸田 劉生	『天地創造』より 石を噛む人	1914 (大正 3) [1975 (昭和 50) 刷り]	銅版、紙	12.6 × 12.9	
11	岸田 劉生	『天地創造』より 欲望	1914 (大正 3) [1975 (昭和 50) 刷り]	銅版、紙	12.6 × 12.6	
12	岸田 劉生	『天地創造』より 怒れるアダム	1914 (大正 3) [1975 (昭和 50) 刷り]	銅版、紙	12.6 × 12.6	
13	建島 大夢	子供	1917 (大正 6) / 1994 (平成 6) 铸造	ブロンズ	高さ：91.5	建島覚造氏寄贈
14	村井 正誠	母子像	1951 (昭和 26)	油彩、キャンバス	146.0 × 113.0	作者寄贈
15	渡部 満	ひわの聖母と由希子	1995 (平成 7)	油彩、金泥、テンペラ地、キャンバス	45.6 × 38.2	個人蔵
16	渡部 満	五月の由希子	1995 (平成 7)	油彩、金泥、テンペラ地、板	46.3 × 46.3	個人蔵
17	神中 糸子	模写 フォンタネージ作 《ローマ水道跡》	1878-80 (明治 11-13)	鉛筆、紙	12.5 × 23.5	神中茂次氏寄贈
18	神中 糸子	模写 フォンタネージ作 《風景》	1878-80 (明治 11-13)	鉛筆、紙	15.5 × 23.4	神中茂次氏寄贈
19	神中 糸子	飯田町風景	1879 (明治 12)	鉛筆、紙	18.7 × 23.9	神中茂次氏寄贈
20	神中 糸子	風景	1878-80 (明治 11-13)	鉛筆、紙	13.2 × 20.8	神中茂次氏寄贈
21	神中 糸子	海岸風景	1888-92 (明治 21-25)	油彩、キャンバス	38.0 × 80.4	神中茂次氏寄贈
22	保田 龍門	模写 ティツィアーノ作	1922 (大正 11)	油彩、キャンバス	99.3 × 99.3	橋本忠美氏寄贈
23	川口 軌外	《キュービッドの教育》(部分) 模写 ティツィアーノ作	1920-23 (大正 9-12)	油彩、キャンバス	93.5 × 138.4	個人蔵
24	川口 軌外	《キュービッド、犬、ウズラを伴うヴィーナス》 模写 ティントレット作 《スザンナの水浴》	1920-23 (大正 9-12)	油彩、キャンバス	97.0 × 145.9	個人蔵
25	高井 貞二	六甲山風景	1926 (昭和 元)	油彩、キャンバス	38.0 × 51.0	個人蔵
26	高井 貞二	想ひを	1935 (昭和 10)	油彩、キャンバス	112.5 × 145.8	作者寄贈
27	浅野 弥衛	無題	1981 (昭和 56)	油彩、キャンバス	72.8 × 91.0	
28	浅野 弥衛	無題	1967 (昭和 42)	油彩、キャンバス	72.5 × 90.8	
29	津高 和一	爆発	1954 (昭和 29)	油彩、キャンバス	131.0 × 163.0	
30	金山 明	Work1961	1961 (昭和 36)	油彩、キャンバス	178.5 × 174.0	滋賀県立近代美術館蔵
31	草間 彌生	Interminable Net No.2	1959 (昭和 34)	油彩、キャンバス	139.0 × 139.0	滋賀県立近代美術館蔵

No.	作者名	作品名 / 題名	制作年 / 発行年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵 / 備考
32	江口 週	飛翔のはじまり 1~3	1981 (昭和 56)	水彩、鉛筆、紙	各: 36.8 × 25.3	
73	江口 週	飛翔のはじまり	1981 (昭和 56)	木	高さ: 204.0	
74	ラインハート、アド	トリプティック	1960 (昭和 35)	油彩、キャンバス	228.6 × 76.2	滋賀県立近代美術館蔵
75	李 禹煥	点より	1980 (昭和 55)	岩彩、キャンバス	193.9 × 258.8	
76	李 禹煥	石版画集『点より・線より』1~8	1977 (昭和 52)	リトグラフ、紙	各: 39.7 × 53.7	
77	村井 正誠	ロンバルディア	1929 (昭和 4) 頃	油彩、キャンバス	80.8 × 66.0	作者寄贈
78	村井正誠作品写真《パンチュール No.1》		1929 (昭和 4)	写真		個人蔵
79	村井 正誠	パンチュール No. 2	1929 (昭和 4)	油彩、キャンバス	100.2 × 80.0	作者寄贈
80	村井 正誠	パンチュール No. 3	1929-33 (昭和 4-8)	油彩、キャンバス	113.5 × 194.5	作者寄贈
81	村井 正誠	URBAIN No.1	1936 (昭和 11)	油彩、キャンバス	112.2 × 194.2	
82	村井 正誠	百霊廟	1942 (昭和 17)	油彩、キャンバス	91.0 × 116.5	作者寄贈
83	建島 覚造	有機体	1957 (昭和 32)	セメント、鉄	高さ: 124.0	作者寄贈
84	吉田 政次	相対性絵画 No.1	1959 (昭和 34)	木版、紙 (四曲一隻屏風)	155.3 × 308.3	個人蔵
85	吉田 政次	相対性絵画 No.2	1959 (昭和 34)	木版、紙 (額装、9 枚貼込み)	126.0 × 125.5	個人蔵
86	吉田 政次	相対性絵画 No.3	1959 (昭和 34)	木版、紙 (額装、9 点貼込)	125.6 × 125.5	個人蔵
87	岸田 劉生	黒き帽子の自画像	1914 (大正 3)	油彩、板	51.3 × 39.2	株式会社 紀陽銀行蔵
88	谷口 香嶺	高土之図	大正初期	顔料、紙	49.8 × 58.0	個人蔵
89	谷口 香嶺	[漁婦と子]	大正初期	顔料、絹	132.3 × 162.5	個人蔵
90	清水 登之	ヨコハマ・ナイト	1920 (大正 9)	油彩、キャンバス	76.2 × 96.5	
91	国吉 康雄	乳しぼり	1921 (大正 10)	油彩、キャンバス	61.0 × 50.5	
92	国吉 康雄	水難救助員	1924 (大正 13)	油彩、キャンバス	76.5 × 63.5	福武コレクション
93	国吉 康雄	西瓜	1938 (昭和 13)	油彩、キャンバス	101.6 × 142.2	福武コレクション
94	石垣 栄太郎	拳闘	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	75.4 × 91.2	
95	石垣 栄太郎	ボーナス・マーチ	1932 (昭和 7)	油彩、キャンバス	145.4 × 107.0	石垣綾子氏寄贈
96	川口 軌外	少女と貝殻	1934 (昭和 9)	油彩、キャンバス	167.3 × 267.2	
97	川口 軌外	貝殻	1936 (昭和 11)	油彩、キャンバス	80.4 × 115.2	川口京村氏寄贈
98	川口 軌外	エスキース B	1937 (昭和 12)	油彩、キャンバス	130.8 × 162.3	川口京村氏寄贈
99	堀内 正和	四つの立方体 (線)	1979 (昭和 54)	鉄	85.0 × 208.0 × 98.0	
100	杉本 博司	ラジオシティ・ミュージックホール、ニューヨーク	1978 (昭和 53)	写真	42.3 × 54.5	
101	杉本 博司	オハイオ・シアター、オハイオ	1980 (昭和 55)	写真	42.0 × 54.4	
102	杉本 博司	カボット・ストリート・シネマ、マサチューセッツ	1978 (昭和 53)	写真	42.3 × 54.5	
103	吉原 治良	無題 71	1971 (昭和 46)	アクリル絵具、キャンバス	97.0 × 130.0	滋賀県立近代美術館蔵



展示風景



普及事業

1 講演会、ワークショップなどの開催

- ・各展覧会に際して講演会やミュージアム・トークを開催した。(各展覧会報告の項を参照)
- ・ワークショップ、バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート
年間を通じて講演会や鑑賞ワークショップ、バックヤードツアーなどのイベントを開催した。
- ・ゴールデンウィーク 2017 の取り組み
ゴールデンウィーク中に講演会や鑑賞ワークショップ、バックヤードツアーなどのイベントを集中して開催した。
 - 4月29日(土・祝) ギャラリートーク「昭和の5点」
14:00～15:00 コレクション展出品作品から昭和を代表する作家、作品について解説した。
 - 4月30日(日) ギャラリートーク「おこのみ鑑賞会」
14:00～15:00 コレクション展出品作品中、参加者の選んだ作品と一緒に鑑賞した。
 - 5月3日(水・祝) 新館長就任記念講演会「日本の近代美術館事情—和歌山近美の明日」
14:00～15:30
 - 5月4日(木・祝) フロアレクチャー「現代版畫の展開」14:00～15:00
 - 5月5日(金・祝) バックヤードツアー「たんけん美術館・博物館」
13:00～15:00 美術館・博物館の裏側を紹介し、業務への理解を深めることに取り組んだ。
 - 5月6日(土) フロアレクチャー「群像—交錯する声」14:00～15:00
 - 5月7日(日)「こども美術館部エクストラ☆」
14:00～14:45 小学生対象の鑑賞会を行った。
- ・「なつやすみの美術館7」を中心にワークショップ等の体験的プログラムに取り組んだ。(展覧会報告の項を参照)
- ・小学生を対象に、展示作品と関連したワークショップを行いながら作品を鑑賞する「こども美術館部」を6回開催した。
 - 4月22日(土) 人+ヒト+ひと…=?=? (特集 群像—交錯する声)
 - 6月17日(土) それはそうぞうだそうぞう (特集 おはなしのなかへ)
 - 8月5日(土) キラキラ☆キライ (なつやすみの美術館7 すききらい、すき?きらい?)
 - 10月21日(土) しぜんの中でかくれんぼ (特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ)
 - 12月9日(土) ひとりとふたり (アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎)
 - 2月24日(土) たびたび旅に出るたび (水彩画家・大下藤次郎展)
いずれも 14:00～14:45

2 学校教育・社会教育との連携

1 学校・団体鑑賞の受入

- ・団体での来館数
平成29年4月～平成30年3月

団体種別	美術館による対応有		自由鑑賞	
	件数	参加人数	件数	参加人数
一般	8件	195名	33件	597名
教員	15件	171名	0件	0名
大学	13件	269名	1件	18名
高等学校	25件	547名	3件	33名
中学校	43件	481名	8件	279名
小学校	21件	698名	9件	245名
幼稚園	3件	197名	0件	0名
その他(専門学校など)	1件	17名	2件	22名
計	129件	2,575名	56件	1,194名
総計	185件 3,769名			

2 学校・教員等と連携した事業

目 標：和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。中学校からの夏休み中の宿題での来館を呼びかけ、期間中の展示の概要紹介、前年までの事例紹介、宿題を出す際の課題等について情報を交換する場を設ける。

・学校教育との連携

施設利用の浸透を図り、学校教育との連携を深め、団体での来館に際して事前に要望のあった場合には担当者・教員との打ち合わせを行い、必要に応じて鑑賞用補助プリントを作成するなどの活動を行った。

・和歌山大学教育学部との連携

和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組んだ。

・中学校教科等研究会の開催

市内の中学校教科等研究会（美術科）開催に協力し、意見交換等を行った。

開催記録：平成 29 年 4 月 19 日（水） 参加 15 名

・和歌山大学教育学部の学芸員資格取得に関する一部開設授業科目への協力

平成 29 年 6 月 11 日（土）「資料保存論」講義を当館で実施した。

平成 29 年 11 月 25 日（土）「展示論」講義を当館で実施した。

・和歌山大学教育学部美術専攻との連携

和歌山大学教育学部における美術科教育研究に協力し、一部授業を実施した。

平成 29 年 12 月 2 日（土）「美術科教育法 B」講義を当館で実施した。

・プール学院大学・プール学院大学短期大学部との連携

当館活動への学生の派遣を受け入れた。

・和歌山市美育協会夏季研修会

和歌山市美育協会に協力し、実技と鑑賞に関する研修会を開催した。

平成 29 年 8 月 3 日（水） 実技指導（伏虎義務教育学校）／鑑賞指導（近代美術館）参加 36 名

・和歌山美術館教育研究会

平成 23 年度より、学校教育との連携強化を目的とした研究会を継続して開催している。平成 29 年度末までに 54 回の会合を開催。中学校を中心に夏休み中の宿題での来館を呼びかけ、期間中の展示の概要紹介、前年までの事例紹介、宿題を出す際の課題等について情報を交換する場を設けている。市内のほとんどの中学校から来館がある。平成 25 年度から、夏季休暇中に開催する展覧会「なつやすみの美術館」のワークシートの作成を教員たちと協力して行っている。

開催記録：平成 29 年 4 月 15 日（土）11 名、5 月 13 日（土）10 名、5 月 27 日（土）7 名、6 月 10 日（土）10 名、6 月 24 日（土）12 名、7 月 8 日（土）10 名、9 月 9 日（土）10 名、10 月 7 日（土）7 名、11 月 18 日（土）5 名、平成 30 年 1 月 13 日（土）6 名

・和歌山大学教育学部附属中学校美術科研究授業への協力

日時：平成 30 年 2 月 20 日（火）～3 月 1 日（木）

内容：当館周辺でのインスタレーション授業に協力した。

・『わかやま探検ミュージアム』（季刊・県内全小学校 4～6 年生に配布）の隔号に展覧会紹介記事を掲載した。

・和歌山大学美術館部への協力

当館の活動への協力を主な目的として設立されたサークル（平成 27 年 10 月～）に対し、指導助言を行った。

・共育支援メニューフェアへの参加

日時：平成 29 年 7 月 31 日（月）

内容：平成 29 年度「共育支援メニューフェア」（主催：和歌山県教育委員会、和歌山県／会場：和歌山ビッグ愛）に参加した。

3 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

- 大学での博物館学芸員資格取得のために必要な履修科目である博物館実習の実習生を受け入れた。
期間：平成29年7月28日（金）～30日（日）、8月1日（火）～3日（木）（計6日間）

受入校	受入人数
京都精華大学	1名
和歌山大学	3名
計 2大学	4名

- 文部科学省の推進するキャリア教育の一環として、教育委員会並びに各学校の取り組んでいる職場体験学習、インターンシップ等を受け入れた。
平成29年4月～平成30年3月

受入件数	人数	日数	延人数
高校生 3校	9名	6日	18名
中学生 13校	36名	26日	72名
計 16校	45名	32日	90名

- 教員の地域体験研修の受入
日時：平成29年7月28日（木）、29日（金）、8月18日（木）、19日（金）
2校より3名を受け入れた。

3 機関誌「NEWS」の刊行

年4回、各2,500部を発行した。

- No.91（平成29年9月17日発行）
奥村一郎：「なつやすみの美術館6 きろくときおく」のきおくのきろく
奥村一郎：「なに？ぬねの？」きろくときおくをめぐるワークショップ
妻木良三：「なに？ぬねの？」ワークショップを終えて
奥村泰彦：おはなしのなかへのなかへ 特集展示 おはなしのなかへ
青木加苗：新館長就任記念講演会「日本の近代美術館事情—和歌山近美の明日」
宮本久宣：所藏品から 吹田草牧《紀南夏景》について
植野比佐見：保存の話をしよう。①はじめに
メールマガジン / Facebook ページ / twitter ご案内、友の会案内
- No.92（平成30年1月30日発行）
青木加苗：すききらい、歓迎します。 なつやすみの美術館7 すききらい、すき？きらい？
青木加苗：「だいすきをぶっこわせ！キライに変身?! スキなもの」
奥村泰彦：美術館での鑑賞文
井上芳子：鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展
植野比佐見：はじめはおわりのはじまり・おわりははじめ 特集 はじまりの景色
植野比佐見：保存の話をしよう。②生きものたちと
Museum Calendar、メールマガジン / Facebook ページ / twitter ご案内、友の会案内
- No.93（平成30年2月27日発行）
宮本久宣：水彩画の広がり 大下藤次郎と和歌山のひとびと 水彩画家・大下藤次郎展より
藤本真名美：黒住章堂からのメッセージ 和歌山市寂光院の文化財緊急調査を通じて
青木加苗：美術館とは何か 美術館はどこへ行くのか 「美術館の原則と美術館関係者の行動指針」
奥村一郎：公開シンポジウム「#学芸員のおしごと」学芸員が地域に果たす役割
植野比佐見：保存の話をしよう。③いないときに、いる。
Museum Calendar、メールマガジン / Facebook ページ / twitter ご案内、友の会案内



ニュース

・No.94（平成30年3月30日発行）

奥村一郎：「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」展を振り返って—コインの裏表のような存在としての国吉と石垣
才士真司（国立大学法人岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄研究講座准教授）：国吉康雄×石垣栄太郎～ vs. 展の効能
松坂浩晃（ミシガン大学歴史学科博士課程）：社会を変えようとした二人—石垣栄太郎と石垣綾子
奥村一郎：ワークショップ「見て、描いて、国吉康雄」カゼインというメディウムの魅力
植野比佐見：保存の話をしよう。④小さな宇宙を作る
Museum Calendar、メールマガジン /Facebook ページ /twitter ご案内、友の会案内

4 広報および情報提供

1 メディア等への情報発信

県内外の新聞社、放送局、出版社等約330か所に事業案内を送付し（うち約140か所にメールによるプレスリリース）、報道、掲載を依頼。また取材等の要請に応じて情報を提供した。

- ・ 展覧会や特別事業ごとに県庁記者クラブ、教育記者クラブにて資料提供を行い、県内の新聞社、放送局に事業案内の報道、掲載を依頼した。
- ・ カレンダー、機関誌等を発行し、関係諸機関及び来館者等に提供することで、美術館の概要や展覧会の内容、スケジュール等の周知、利用促進を図った。
- ・ 展覧会ごとに、ポスター、チラシ等を作成し、全国関係諸機関、県下各市町村及び小中高校、大学、教育機関など約2,900か所に配布した。
- ・ JR和歌山駅前広告看板に、展覧会情報を掲載した。
- ・ 県発行の広報誌『県民の友』に、毎月事業案内を掲載した。
- ・ 地元放送局制作の番組取材に協力し、展覧会等の紹介を行った。
- ・ 泉州・紀北ミュージアムネットワークを通じた広報活動を行った。
- ・ 和歌山県職員に対し電子掲示板、庁内メール等で展覧会の案内をした。
- ・ ミュージアムぐるっとパス・関西2017に加入。
- ・ 美術館の認知度を高めるため、施設内におけるロケーション撮影等に協力した。

(1) 申請者：hair's gallery Chou Chou

目的：ヘアスタイル用モデル撮影のため

日時：平成29年5月16日（火）

(2) 申請者：(有)クリエイティブスポットゼロ

目的：通販用カタログモデル撮影のため

日時：平成29年6月27日（火）

(3) 申請者：(株)京阪神エルマガジン社

目的：「大人のエルマガジンシリーズ」撮影のため

日時：平成29年10月6日（金）

2 WEBによる広報

- ・ ホームページで美術館の概要や展覧会の内容、スケジュールの情報を提供した。
- ・ メールマガジンをhtml化し、画像を掲載して美術館で開催されるさまざまな展覧会及びプログラムへの参加をよびかけた。（平成29年4月7日発行の112号から平成30年3月23日発行の124号まで計13回発行。登録読者数html版564名、テキスト版33名、計604名）
- ・ Facebook、twitterを通じての情報提供を実施した。

3 広報印刷物の制作

- ・ 平成29年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5ツ折（10頁）
- ・ ポスター、チラシ等（各展覧会報告の項を参照）

4 県民への直接的情報提供

目 標：専門的内容に関する問い合わせ・質問（電話・来館等）に対応する。

- ・ 作者や展覧会等についての問い合わせ10件に対応した。



カレンダー

5 県民や地域との連携

1 ボランティア活動の受け入れ

図書資料の仕分け、データ入力、配架、資料整理が行われた。
受入人数：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 活動のべ 178 人

2 友の会等の支援組織の活動への協力

(1) 和歌山県立近代美術館友の会

楽しみながら美術に親しむ会として「和歌山県立近代美術館友の会」を組織し、当館の活動に支援を受けるとともに、美術作品を鑑賞し、語り合う場を設けた。

(ア) 会員の状況

一般会員：189 名、学生：1 名、賛助会員：8 名 計 198 名
名誉会員：5 名

(イ) 助成事業の実績

会員が美術館事業に理解を持ち、常に美術作品に親しみをもち、常設展及び企画展の観覧並びに図録の購入に対して助成を行った。

- ・展覧会入場者延人数：155 人
「現代版画の展開」39 人、「なつやすみの美術館 7」32 人、「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」27 人、「水彩画家・大下藤次郎展」38 人、常設展 19 人
- ・図録購入：1 冊

(ウ) 主催事業

- ・ミュージアムコンサート
プロムナード・コンサート「ホットコーヒーによる木管五重奏・音のパレット」
(田原真理(フルート)、榎本理沙(オーボエ)、森田美穂(クラリネット)、
福神陽香(ホルン)、村尾梓(ファゴット))
日時：平成 29 年 12 月 9 日(土) 15:00～16:30
会場：ホール(2 階)
約 120 名参加
- ・美術鑑賞ツアー
- ・姫路市立美術館「リアル(写真)のゆくえ」、ヤマサ夢鮮館見学
日時：平成 29 年 10 月 15 日(日)
引率：山野英嗣館長、宮本明英総務課長
49 名参加
- ・MIHO MUSEUM「能楽と面」鑑賞
日時：平成 30 年 4 月 15 日(日)
引率：山野英嗣館長、畑崎伸仁総務課長
72 名参加
- ・版画プレゼント
集治千晶氏制作の版画(3 種類)、舟田潤子氏制作の版画(4 種類)の中から 1 点をプレゼントした。
- ・館広報誌・その他への情報提供
美術館が発行するミュージアムカレンダー、美術館ニュース、広報紙など配布し、その他への情報提供をした。

(2) NPO 和歌山文化芸術支援協会(wacss)

同会が企画運営するワークショップに協力した。(なつやすみの美術館 7)

3 地域と連携した事業

目標：地域と連携した事業を行う。第 71 回和歌山県美術展覧会(県展)を文化芸術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサート等への事業協力を行う。

- ・第71回和歌山県美術展覧会（県展）／第3回和歌山県ジュニア美術展覧会
 本展会期：
 I 日本画・書・工芸 平成30年1月10日（水）～1月14日（日）
 II 洋画・写真・彫塑 平成30年1月17日（木）～1月21日（日）
 III ジュニア部門 平成30年1月24日（水）～1月28日（日）
 本展会場：展示室C（2階）
 主催：和歌山県
 共催：和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、和歌山県美術家協会、毎日新聞社和歌山支局、一般財団法人和歌山県文化振興財団、橋本市、新宮市、上富田町
 協賛：公益財団法人大桑教育文化振興財団
 入場料金：無料
 ＊華道、マスターズ部門については県民ギャラリーで同時開催。
- ・第12回わかやまマジカルミュージックツアー
 主催：わかやまマジカルミュージックツアー事務局
 日時：平成29年4月23日（日）、約3000～4000名
 会場：アプローチプラザほか
- ・県警音楽隊たそがれコンサート
 主催：和歌山県警察音楽隊
 日時：平成29年6月9日（金）、6月23日（金）、7月14日（金）、7月28日（金）、8月11日（金・祝）、8月25日（金）、約600名
 会場：アプローチプラザ
- ・ミュージアム クリフ映画会
 主催：和歌山県BBS連盟
 日時：平成29年7月28日（金）、約100名
 会場：アプローチプラザ
- ・脇村奨学会情報交換会への学芸員派遣「地元の高校生を、如何に館に引き付けるか」（奥村泰彦教育普及課長、平成29年8月12日）
- ・第22回「名月に舞う」
 主催：和歌山文化協会
 日時：平成29年10月7日（土）、約120名
 会場：アプローチプラザ周辺
- ・秋のシャンソンカーニバル
 主催：和歌山シャンソン友の会
 日時：平成29年10月15日（日）、約100名
 会場：アプローチプラザ周辺
- ・「紀の国トレイナート2017」への協力
 主催：紀の国トレイナート実行委員会
 日時：平成29年10月1日（日）～10月29日（日）
 内容：デザイン列車プロジェクト審査。応募作中の1点を和歌山県立近代美術館賞として顕彰、副賞を授与（山野英嗣館長、平成29年9月14日、10月1日）
- ・シンポジウム「近代遺産の保存と活用 郭家住宅を事例として」
 主催：郭家住宅の会
 協力：和歌山県立近代美術館
 協賛：今福連合自治会
 日時：平成29年11月11日（土）13:30～16:00 会場：ホール（2階）
 内容：第1部 基調講演：藤森照信（東京大学名誉教授、東京都江戸東京博物館館長）「明治初期洋風建築について」
 第2部 シンポジウム：パネリスト藤森照信・明石和也（和歌山県建築士会 まちづくり・委託事業委員会委員長）・中西俊五（和歌山市今福連合自治会会長）、コーディネーター 西山修司（郭家住宅の会世話人代表、近代建築史家）
- ・平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業への協力
 事業主体：社会福祉法人 和歌山県福祉事業団
 内容：協力委員会委員（奥村泰彦教育普及課長）

6 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

- ・県立5館が連携してスタンプラリーを実施した。
- ・県立博物館と共同でバックヤードツアーを開催した。(平成29年5月5日)
- ・「風土記まつり」へ参加した。(平成29年11月19日)
和歌山県立紀伊風土記の丘主催の同行事に参加し、子供向けのワークショップ、出張ミュージアムショップの運営を行った。
- ・和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議の活動に参加した。
(平成30年2月15日、平成30年3月14日)

7 国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

- ・和歌山市寂光院文化財緊急調査に参加した。(宮本久宣、藤本真名美)
- ・県立博物館施設活性化事業「災害の記憶」調査に参加した。(藤本真名美)
- ・「鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」を、武蔵野美術大学美術館・図書館との連携により開催した。
- ・改修工事のために休館中の滋賀県立近代美術館から多数の所蔵作品を受託し、コレクション展などで紹介した。
- ・全国美術館会議 教育普及研究部会に参加した。(奥村一郎、青木加苗)
- ・全国美術館会議 美術館運営制度研究部会に参加した。(青木加苗)
- ・全国美術館会議 地域美術研究部会に参加した。(奥村一郎)
- ・ICOM(国際博物館会議) ICFAに参加した。(青木加苗)

8 観光資源として活用できる方策

- ・県と和歌山市が連携し、和歌山城周辺の街中に残る史跡等を紹介するとともに、周辺での回遊性を高めるため、「わかやまちなかミュージアムマップ」を作成した。
- ・観光ガイドなどへの広報を行い、展覧会のみならず訪問先として施設全体を紹介してもらうよう取り組んだ。
- ・オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し、通年のリピーター獲得に取り組んだ。

わかやまちなかミュージアムマップ



スタンプラリー

作品貸付

下記 12 件の展覧会に作品の貸付を行った。

展覧会名、会期、貸出先、作家名《作品名》、制作年、所蔵註記の順に記載。

1 川端康成 美と文学の森

平成 29 年 4 月 1 日～5 月 21 日 久留米市美術館
高井貞二《抒情》1937

2 没後 90 年 萬鐵五郎展

平成 29 年 4 月 15 日～6 月 18 日 岩手県立美術館
平成 29 年 4 月 15 日～6 月 18 日 萬鐵五郎記念美術館
平成 29 年 7 月 1 日～9 月 3 日 神奈川県立近代美術館葉山
平成 29 年 9 月 16 日～11 月 19 日 新潟県立近代美術館
萬鐵五郎《雪の景》1916-1918 頃（受託作品）
萬鐵五郎《風景》1922 頃（受託作品）

3 岡崎乾二郎の認識

—抽象の力—現実 (concrete) 展開する、抽象芸術の系譜

平成 29 年 4 月 22 日～6 月 11 日 豊田市美術館
恩地孝四郎《抒情 太陽顔に照る (公刊『月映V』所収)》1915
恩地孝四郎《抒情 生はさみし夜半目ざめて泪ながれながら (公刊『月映V』所収)》1915
恩地孝四郎《抒情 くるしみのうち懐に入るものあり (公刊『月映V』所収)》1915
恩地孝四郎《抒情 苦悩のうちに光る (公刊『月映V』所収)》1915
恩地孝四郎《抒情 あかるい時 (公刊『月映V』所収)》1915
恩地孝四郎《抒情 相信ずるころ (公刊『月映VI』所収)》1915
恩地孝四郎《静物》1917 頃
恩地孝四郎《ポエム No.22 葉っぱと雲》1953

4 国展創立前夜—大正前期の京都の日本画—

平成 29 年 6 月 16 日～7 月 23 日 笠岡市立竹喬美術館
山口八九子《花売り》1910 頃
山口八九子《風景》1911 頃
山口八九子《月見草と少女》1912
野長瀬晩花《街の四季》1916
野長瀬晩花《お馬鹿の道行》1917

5 開館 10 周年記念 美術でめぐる日本の海

平成 29 年 7 月 8 日～8 月 27 日 横須賀美術館
古賀春江《海水浴》1922
川口軌外《熊野灘》1940
杉本博司《日本海 北海道》1986

6 生誕 150 年記念 藤島武二展

平成 29 年 7 月 23 日～9 月 18 日 練馬区立美術館
平成 29 年 9 月 29 日～11 月 5 日 鹿児島市立美術館
平成 29 年 11 月 18 日～平成 30 年 1 月 28 日 神戸市立小磯記念美術館
藤島武二《潮岬の灯台》1931 頃（受託作品）
藤島武二《新高山の暁》1934（受託作品）

7 生命と美の物語 LIFE—楽園をもとめて

平成 29 年 8 月 26 日～11 月 5 日 富山県美術館
パブロ・ピカソ《泣く女》1937
マーク・ロスコ《赤の上の黄褐色と黒》1957
ロイ・リキテンシュタイン《スイート・ドリームス、ベイビー!》1965
ロイ・リキテンシュタイン《夢想》1965
クリスチャン・ボルタンスキー《モニュメント 4 (レッド)》1986
恩地孝四郎《泪 (私輯『月映』Ⅲ)》1914
恩地孝四郎《裸形のくるしみⅢ (公刊『月映』Ⅲ)》1914
恩地孝四郎《あさあけ》1914
田中恭吉《病める夕 (公刊『月映』Ⅰ)》1913
田中恭吉《絢はれゆく 歓喜と悲愁》1915
藤森静雄《こころのかげ》1914
藤森静雄《妹は病みぬ (公刊『月映』Ⅱ)》1914
藤森静雄《さみしき生のうた (私輯『月映』Ⅱ)》1914

8 福岡道雄 つくらない彫刻家

平成 29 年 10 月 28 日～12 月 24 日 国立国際美術館
福岡道雄《Pink の残像又は黒の降下》1972（受託作品）
福岡道雄《蛾 1》1972（受託作品）
福岡道雄《蛾 2》1972（受託作品）
福岡道雄《アップル》1972（受託作品）
福岡道雄《坂道》1974
福岡道雄《石になること》1984
福岡道雄《鳥になれるか 2》1990
福岡道雄《反という字》1990

9 岡本神草の時代

平成 29 年 11 月 1 日～12 月 10 日 京都国立近代美術館
平成 30 年 1 月 4 日～2 月 12 日 笠岡市立竹喬美術館
(平成 30 年 5 月 30 日～7 月 8 日 千葉市美術館)
岡本神草《舞妓図》1920 頃

10 川端龍子没後 50 年特別展「龍子のいきざまを見よ！」

平成 29 年 11 月 3 日～12 月 3 日 大田区立龍子記念館

川端龍子《雷雨》1936

川端龍子《狩人の幻想》1948

11 1964 証言—現代国際陶芸展の衝撃

平成 29 年 11 月 3 日～平成 30 年 1 月 28 日 岐阜県現代陶芸美術館

山田光《塔》1964

12 阿部展也 あくなき越境者

平成 30 年 3 月 23 日～5 月 20 日 広島市現代美術館

(平成 30 年 6 月 23 日～8 月 26 日 新潟市美術館)

(平成 30 年 9 月 15 日～11 月 4 日 埼玉県立近代美術館)

『フォトタイムス』15-5 1938

『フォトタイムス』15-6 1938

『フォトタイムス』15-7 1938

『フォトタイムス』15-8 1938

『フォトタイムス』15-10 1938

『フォトタイムス』16-2 1939

『フォトタイムス』16-3 1939

『フォトタイムス』16-4 1939

『フォトタイムス』17-1 1940

『フォトタイムス』17-2 1940

『フォトタイムス』17-5 1940

『フォトタイムス』17-6 1940

『フォトタイムス』17-7 1940

『フォトタイムス』17-9 1940

調査・研究・発表活動および対外協力活動

山野英嗣

- ・執筆：愛媛新聞文化欄『四季録』(2017年4月2日から9月24日まで連載26回)
- ・執筆：「小磯良平の神髄—「群像」表現」『小磯良平・オリゾン洋画研究所再考』展図録、新居浜市美術館、2017年12月
- ・執筆：「近代・美術・美術館—和歌山県立近代美術館の明日」『21世紀 WAKAYAMA vol.87』一般財団法人和歌山社会経済研究所、2017年12月15日
- ・執筆：「ブロック報告〔近畿〕時代は確実に変わりつつある」『ZENBI 全国美術館会議機関誌』Vol.13、2018年1月31日
- ・執筆：「近代」再考—近代美術館の使命『新美術新聞』No.1463、2018年2月11日
- ・講演：「日本の近代美術館事情」(2017年5月3日、和歌山県立近代美術館)
- ・卓話：「今日の美術館事情」(2017年10月17日、和歌山ロータリークラブ)
- ・講演：「麻田浩」再考(2017年10月28日、練馬区立美術館)
- ・JRきのくに線「デザイン列車プロジェクト2017」審査員(2017年8月、紀の国トレイナート実行委員会)
- ・第61回鳥取県美術展覧会審査員(デザイン部門)(2017年9月5日、鳥取県立博物館)
- ・静岡県立美術館収集評価委員会(2017年11月8日)
- ・博物館群施設美術資料収集・評価会議委員(2017年12月1日、大阪市)
- ・兵庫県立美術館作品収集会議(2018年2月2日)
- ・愛媛県美術品等収集評価委員会(2018年2月14日、愛媛県美術館)
- ・所属学会：美学会、美術史学会

奥村泰彦

- ・「コレクション展 2017—夏 特集 おはなしのなかへ」展を担当、フロアレクチャーほか(26頁参照)
- ・ギャラリートーク「昭和の5点」2017年4月29日
- ・ギャラリートーク「おこのみ鑑賞会」2017年4月30日
- ・執筆：「おはなしのなかへ」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.91、pp.3-4
- ・執筆：「美術館での鑑賞文」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.92、p.3
- ・執筆：「陶芸の提案 2017「必然」を巡って」『陶芸の提案 2017—必然—』ギャラリー白、2017年、pp.4-5
- ・執筆：「確実に存在する幽霊—金村仁の作品を巡って」『金村仁 Hitoshi Kanamura』ノマルエディション、2017年、pp.40-41
- ・執筆：「アールブリュット和歌山展 魂のあところ」を通して『アールブリュット和歌山 魂のあところ』社会福祉法人和歌山県福祉事業団、2018年3月31日、p.4
- ・対談：「陶芸の提案 2017—必然—」ギャラリートーク(2017年4月3日、ギャラリー白)
- ・講演：「ことばと鑑賞」(2017年8月2日、和歌山市美育協会夏季研修会)
- ・講演：「美術館の楽しみ方」(2017年9月14日、和歌山県工業水道管理センター)
- ・講演：「作品展示と展覧会づくりを学ぶ」『平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業に係る人材育成のための研修会』(2018年2月16日、和歌山県福祉事業団)
- ・講義：和歌山大学教養の森ミュージアム科目博物館展示論

- ・公益財団法人 脇村奨学会研究会「地元の高校生を、如何に館に引き付けるか」、2017年8月12日
- ・歯・口の健康に関する図画・ポスター審査員、2017年8月24日
- ・平成29年度和歌山県文化表彰選考委員
- ・平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業協力委員(協力委員会：2017年8月1日、11月16日、2018年3月20日)
- ・姫路市立美術館美術品購入等評価委員(委員会：2018年2月20日)
- ・公益財団法人堀江オルゴール博物館理事
- ・所属学会：美学会、美術史学会、美術芸術学会、アートドキュメンテーション学会、版画学会(平成29年度運営委員)

井上芳子

- ・「現代版画の展開」展を担当、フロアレクチャー(18頁参照)
- ・「鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」を担当(30頁参照)
- ・執筆：「鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.92、p.4
- ・「チェコのジャポニスムとエミール・オルリックについて」の調査研究 公益財団法人ポーラ美術振興財団 平成29年度調査研究助成
- ・「思い出の展覧会 53 田中恭吉展」『美連協ニュース No.136(2017年11月号)』

植野比佐見

- ・「コレクション展 2018-冬春」展を担当(36頁参照)
- ・「特集 はじまりの景色」展を担当、フロアレクチャーほか(38頁参照)
- ・執筆：「「保存」の話をしよう。①はじめに」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.91、p.7
- ・執筆：「はじまりはおわりのはじまり・おわりははじまり 特集はじまりの景色」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.92、pp.5-6
- ・執筆：「「保存」の話をしよう。②生きものたちと」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.92、p.7
- ・執筆：「「保存」の話をしよう。③いないときに、いる」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、p.7
- ・執筆：「「保存」の話をしよう。④小さな宇宙を作る」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.94、p.7
- ・第61回鳥取県美術展覧会審査員(版画部門)(2017年9月6日、鳥取県立博物館)
- ・執筆：『近代日本版画家名覧』版画堂
- ・所属学会：明治美術学会、版画史研究会

奥村一郎

- ・「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」展を担当、リーフレット執筆編集、フロアレクチャー、ギャラリートーク、ワークショップほか(8頁参照)
- ・執筆：「なつやすみの美術館 6 きろくときおくのきろく」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、p.1
- ・執筆：「なに？ぬねの？」 きろくときおくをめぐるワークショップ『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、p.2
- ・執筆：「公開シンポジウム「#学芸員のおしごと」学芸員が果たす役割」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、p.6
- ・執筆：「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」展を振り返っ

てーコインの裏表のような存在としての国吉と石垣』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.94、p.1

- ・執筆：「カゼインというメディウムの魅力 ワークショップ「見て、描いて、国吉康雄」』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.94、p.6
- ・執筆：「enoco[study?]#4展覧会 冬木遼太郎『A NEGATIVE EVAGINATE』』『enoco ニュースレター』13、14合併号、2017年6月
- ・執筆：「美術館学芸員の仕事ーもの、ひと、ことをつなぐこと』『和歌山地方史研究』74、2017年12月、pp.53-55
- ・執筆：「全国美術館会議 第7回地域美術研究部会会合報告」全国美術館会議ホームページ、2018年1月
- ・執筆：「小千谷 東忠あて大亦観風書簡 2』『広島女学院大学国際教養学部紀要』第5号、2018年3月31日、pp.1-17（共著）
- ・発表：「美術館学芸員の仕事ーもの、ひと、ことをつなぐこと」、公開シンポジウム「#学芸員のおしごと」和歌山地方史研究会第137例会（2017年6月10日、和歌山市立博物館）
- ・「全国美術館会議 第7回地域美術研究部会」（2017年11月30日／徳島県立近代美術館、12月1日／香川県立ミュージアム＋高松市美術館）に参加
- ・アーティスト・サポート・プログラム enoco [study?] # 5、選定作家審査および成果発表講評（2018年3月31日、大阪府立江之子島文化芸術創造センター）
- ・所属学会：日本移民学会

宮本久宣

- ・「明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展」を担当、リーフレット執筆編集、フロアレクチャーほか（13頁参照）
- ・執筆：「所蔵品から 吹田草牧『紀南夏景』について』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.91、pp.5-6
- ・執筆：「水彩画の広がり 大下藤次郎と和歌山のひとびと』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、pp.1-2
- ・執筆：「岸田劉生の生活社時代』『畫下遊楽（二）奥平俊六先生退職記念論文集』藝華書院、2018年3月10日、pp.623-644
- ・全国美術館会議 第32回学芸員研修会「社会状況の多様化に美術館はどう向き合うか」（2018年3月19日～20日、国立新美術館）に参加
- ・所属学会：美術史学会

青木加苗

- ・「なつやすみの美術館7 すききらい、すき？ きらい？」展を担当、ギャラリートーク、子どもギャラリートーク、たまごせんせいと「わくわくアートツアー」、ワークショップを担当（21頁参照）
- ・執筆：「新館長就任記念講演会 日本の近代美術館事情——和歌山近海の明日』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.91、pp.4-5
- ・執筆：「すききらい、歓迎します。」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.92、pp.1-2
- ・執筆：「だいすきをぶっこわせ！ キライに変身?! スキなもの』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.92、pp.2-3
- ・執筆：「美術館とは何か 美術館はどこへ行くのか『美術館の原則と美術館関係者の行動指針』』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、p.5
- ・執筆：「山下耕平の現在位置、あるいは「距離ゼロ」について』『WOODS』（山下耕平個展カタログ）、テヅカヤマギャラリー、2017年11月
- ・発表：「Would permanent displays take root in Japan: from the historical background of Japanese museums to a case study of contemporary

collection usage」、ICOM（国際博物館会議）ICFA 年次大会（2017年9月18日、Hirschsprung Collection、コペンハーゲン）

- ・報告「ICFA 年次大会 2017』『ICOM 国際委員会等年次大会報告書』ICOM 京都大会運営委員会、2018年3月
- ・報告「AIC Study Group on Colour Education (SG-CE)』『AIC Annual Report 2017』No.30、p.42
- ・小学生対象の鑑賞会「こども美術館部」全6回を担当（41頁参照）
- ・成安造形大学「コミュニティデザイン概論」特別講師（2017年5月25日）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科非常勤講師「美術史特論2」（2017年8月28日、29日、30日）
- ・和歌山市中学校夏期教育研修会講師（2017年7月27日）
- ・和歌山市小学校夏期教育研修会講師（2017年8月2日）
- ・しみず保田紙行灯アート展審査員（2017年10月6日、体験交流工房わらし）
- ・ICOM（国際博物館会議）ICFA 年次大会（2017年9月17日～20日、Hirschsprung Collection・Statens Museum for Kunst／コペンハーゲン）出席
- ・全国美術館会議 第27回美術館運営制度研究部会会合（2017年7月21日、プリズトン美術館）に参加、Web 報告執筆
- ・全国美術館会議 教育普及研究部会 第50回会合（2017年11月21日、国立新美術館）に参加
- ・全国美術館会議 第32回学芸員研修会準備会合（2017年4月24日、兵庫県立美術館／2017年5月24日、三重県立美術館／2017年10月5日、福岡アジア美術館／2017年11月20日～21日、国立新美術館／2017年12月11日、名古屋市美術館／2018年3月8日、国立新美術館）に参加
- ・全国美術館会議 第32回学芸員研修会「社会状況の多様化に美術館はどう向き合うか」（2018年3月19日～20日、国立新美術館）に第2分科会ファシリテーターとして参加
- ・ICOM 京都大会 運営委員会（第1回：2017年4月18日、京都国立博物館／第2回：2018年3月10日、京都国立博物館）に参加
- ・ICOM 京都大会運営委員ワークショップ（2017年5月20日、京都国立博物館）に参加
- ・ICOM 京都大会運営委員（2017年4月～）
- ・和歌山大学美術館部サークル外部指導員（2015年～）
- ・JAIC (Journal of the International Colour Association) Vol.21 (2018) 査読委員
- ・所属学会：美学会、美術史学会、意匠学会、美術科教育学会、ICOM (ICFA)

藤本真名美

- ・「コレクション 2017- 秋」を担当（32頁参照）
- ・「特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ」を担当、フロアレクチャーほか（34頁参照）
- ・「特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち I 古きに学ぶ 下村観山を中心に」を担当（36頁参照）
- ・執筆：「国画創作協会と野長瀬晩花』『鹿島美術研究年報』第34号別冊、2017年11月15日、pp.426-435
- ・執筆：「五 寂光院書院の襖絵（黒住章堂筆）』『和歌山市立博物館研究紀要』第32号、2017年12月15日、pp.22-33
- ・執筆：「黒住章堂からのメッセージ 和歌山市寂光院の文化財緊急調査を通じて』『和歌山県立近代美術館ニュース』No.93、pp.3-4

- ・執筆：「谷口香嶠の第一回文展における挑戦——《残月山媪図》にみる再現性と装飾性」『畫下遊楽（二）奥平俊六先生退職記念論文集』藝華書院、2018年3月10日、pp.595-621
- ・発表：「谷口香嶠の『残月山媪図』について」、明治美術学会2017年度第1回例会（2017年4月2日、東京藝術大学）
- ・発表：「谷口香嶠の『残月山媪図』について」、近代京都科学研究会（2017年4月9日、京都工芸繊維大学）
- ・発表：「画学生たちによるゴッホ受容とその後の展開—野長瀬晩花を中心に」、第44回アジア近代美術研究会、福岡アジア美術館（2017年10月8日）
- ・発表：「和歌山と京都画壇」、橋本市ふるさと再見市民講座（2017年10月28日、橋本市中央公民館）
- ・発表：「和歌山市寂光院の文化財緊急調査について」和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議平成29年度公開研修会（2018年3月14日、和歌山市立博物館）
- ・所属学会：大正イマジユリィ学会、明治美術学会

収集事業

和歌山県立近代美術館美術作品収集方針

- 日本画 1. 下村観山、川端龍子を軸とする院展の作家たち
2. 野長瀬晩花を軸とする国画創作協会の作家たち
- 洋画 3. 川口軌外を軸とする 1930 年協会、初期独立美術協会の作家たち
4. 村井正誠を軸とする自由美術家協会、モダンアート協会の作家たち
5. 石垣栄太郎、ヘンリー杉本、高井貞二を軸とするアメリカで学んだ作家たち
- 版画 6. 本県にゆかりのある恩地孝四郎、田中恭吉、逸見亨、吉田政次、浜口陽三らを軸とする近現代版画
- 彫刻 7. 本県にゆかりのある建昌覚造、保田春彦を軸とする現代彫刻
- その他 8. 戦後美術
ア バンリアル美術協会
イ 走泥社
ウ デモクラート美術家協会
エ 具体美術協会
9. 現代の美術
10. 海外の美術

和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会委員

- 榎本長治 会社社長
酒井哲朗 福島県立美術館名誉館長
建昌 哲 多摩美術大学学長／埼玉県立近代美術館館長

第 40 回美術作品選定委員会

- 日時：2018（平成 30）年 2 月 28 日（日）午後 2 時より開催
出席：榎本長治委員、酒井哲朗委員、建昌哲委員
内容：購入候補作品ならびに受贈候補作品について、受け入れの妥当性について協議を行った。

2017（平成 29）年度収蔵作品点数

- | | |
|------|-----------|
| 購入作品 | 15 件 15 点 |
| 購入資料 | 2 件 2 点 |
| 受贈作品 | 8 件 8 点 |

2017(平成29)年度 購入作品

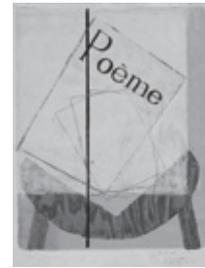
各作品について、作者名、作品名、制作年、技法材質(形状)、寸法(cm、特記なき平面作品はイメージサイズ)、台帳番号を記した。作者名(五十音順、日本人作家/外国人作家)、制作年(昇順)に従って配列している。



1. 有島生馬 ARISHIMA Ikuma
樹下の裸婦
1913(大正2)
油彩、キャンバス
52.5×45.5
[12029]



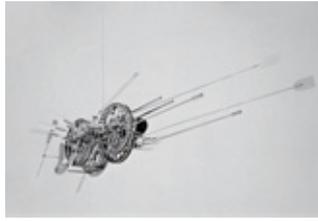
2. 石垣栄太郎 ISHIGAKI Eitaro
ハーレム裁判所の壁画
(「奴隷解放」の部分)
1938(昭和13)頃
油彩、キャンバス
112.0×109.0
[12046]



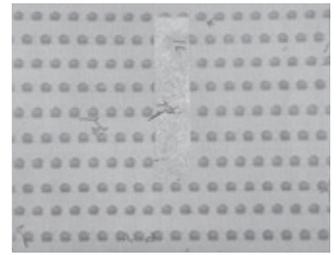
3. 恩地孝四郎 ONCHI Koshiro
静物 文字
1947(昭和22)
木版、紙
34.8×26.8 イメージ/42.7×29.4 シート
[12035]



4. 恩地孝四郎 ONCHI Koshiro
音楽作品による抒情
ドビュッシー「小さい羊飼」
1950(昭和25)
紙版、木版、紙
24.2×17.1 イメージ/42.8×29.6 シート
[12036]



5. 永沼理善 NAGANUMA Tadayoshi
自重力 BOY 2007: "Inba"
2007(平成19)
アルミ合金、真鍮ほか
30.0×70.0×135.0
[12045]



6. 広島鋤花 HIROHATA Joka
[紀伊百景画帖]
1927~29(昭和2~4)
顔料、絹(画帖4冊、100図)
28.9×37.1(見開き1面)
[12032 0-100]

1冊目
(雑賀崎から奥畑)
[12032-0]



雑賀崎
[12032-1]



新和歌浦
[12032-2]



和歌浦
[12032-3]



下津港
[12032-4]



養島川口
[12032-5]



龍ヶ濱
[12032-6]



栖原アヤメ磯
[12032-7]



由良港
[12032-8]



比井港
[12032-9]



三尾日ノ岬港
[12032-10]



御坊海岸 和田
[12032-11]



御坊川口
[12032-12]



道成寺
[12032-13]



印南川口
[12032-14]



切目
[12032-15]



岩代附近
[12032-16]



龍神温泉
[12032-17]



龍神峡
[12032-18]



南部
[12032-19]



千里濱観音境内
[12032-20]



鹿島ノ遠望
[12032-21]



立戸
[12032-22]



奇絶峡
[12032-23]



日暮之瀧
[12032-24]



奥畑
[12032-25]



2 冊目
(鷹尾山から椿温泉)



鷹尾山
[12032-26]



奥畑
[12032-27]



墓岩
[12032-28]



稻成谷
[12032-29]



岡峠
[12032-30]



動鳴溪
[12032-31]



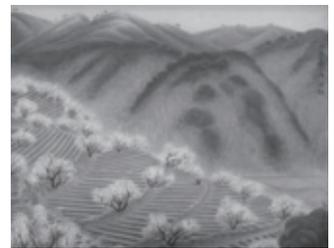
田邊 王子山
[12032-32]



扇ヶ濱
[12032-33]



鬼橋巖
[12032-34]



田鶴
[12032-35]



新庄峠
[12032-36]



田邊湾
[12032-37]



跡ノ浦
[12032-38]



番所ノ寄 塔島
[12032-39]



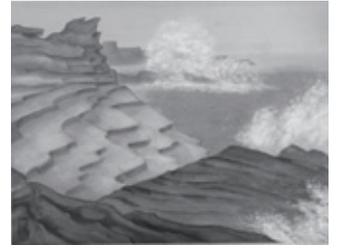
平草原 田邊湾ヲ望
[12032-40]



白濱温泉ヲ望
[12032-41]



湯寄温泉
[12032-42]



千畳敷附近
[12032-43]



文龍ノ瀧
[12032-44]



鮎川温泉
[12032-45]



西富田 才野
[12032-46]



富田川口
[12032-47]



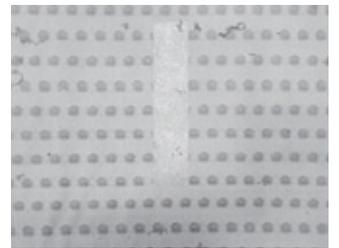
見草附近
[12032-48]



朝来帰
[12032-49]



椿温泉
[12032-50]



3 冊目
(日置川口から湯川温泉付近)



日置川口
[12032-51]



日置川
[12032-52]



周参見港
[12032-53]



串戸
[12032-54]



音見崎附近
[12032-55]



見老津
[12032-56]



江須崎
[12032-57]



江田
[12032-58]



有田
[12032-59]



串本之遠望
[12032-60]



潮岬 無線電信局
[12032-61]



潮岬燈臺
[12032-62]



大島 樫野燈臺附近
[12032-63]



大島 樫野燈臺
[12032-64]



橋杭
[12032-65]



西向 重疊山
[12032-66]



古座川 漆淵
[12032-67]



古座川 一枚岩
[12032-68]



古座川 滴翠峯
[12032-69]



津賀
[12032-70]



田原川口
[12032-71]



浦神湾
[12032-72]



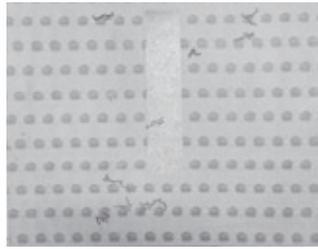
玉ノ浦
[12032-73]



下里
[12032-74]



湯川温泉附近
[12032-75]



4 冊目
(梶取から木ノ本鬼ヶ城)



梶取
[12032-76]



太地東明寺
[12032-77]



勝浦港
[12032-78]



勝浦港外
[12032-79]



舟隠
[12032-80]



辨天島
[12032-81]



勝浦港外 狼煙山
[12032-82]



那智 一之瀧
[12032-83]



那智山全景
[12032-84]



那智 陰陽之瀧
[12032-85]



那智
[12032-86]



妙法山
[12032-87]



濱之宮
[12032-88]



狗子立岩
[12032-89]



三輪岬
[12032-90]



浮嶋
[12032-91]



新宮城跡ヨリ熊野川ヲ望
[12032-92]



新宮川原ノ遠望
[12032-93]



瀨峡
[12032-94]



瀨峡 蓬萊山
[12032-95]



本宮
[12032-96]



湯峯温泉
[12032-97]



川湯温泉
[12032-98]



木ノ本鬼ヶ城附近
[12032-99]



木ノ本鬼ヶ城
[12032-100]



7. 丸岡比呂史 MARUOKA Hiroshi
[犬]
1925 (大正 14) 頃
顔料、絹 (二曲一隻屏風)
99.0 × 132.6
[12030]



8. [寄合書画帖]
1912 (明治 45)
顔料、紙 (画帖 1冊、20 図)
33.0 × 48.0 (見開き 1 面)
[12033 0-20]



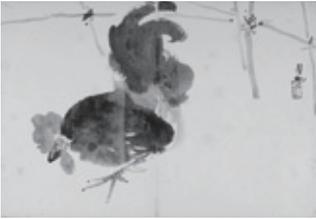
芦田秋窓 (秋双)
[12033-1]



松宮芳年
[12033-2]



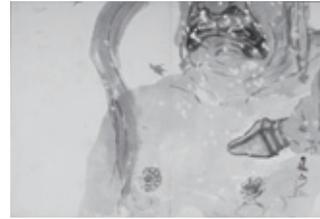
船川華洲
[12033-3]



久保井翠桐
[12033-4]



金森観陽
[12033-5]



上島鳳山
[12033-6]



小川芋銭
[12033-7]



西村青帰
[12033-8]



山内神斧
[12033-9]



水落露石
[12033-10]



大倉廣宝
[12033-11]



川井古蛙
[12033-12]



野長瀬晩花
[12033-13]



織田一磨
[12033-14]



樫野南陽
[12033-15]



松浦舞雪
[12033-16]



小早川秋聲か
[12033-17]



岡本大更
[12033-18]



菅楠彦
[12033-19]



星野空外
[12033-20]



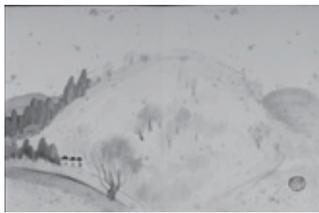
9. [寄合書画帖]
1913 (大正2)
顔料、紙(画帖1冊、17図)
30.3×45.6(見開き1面)
[12034-0-17]



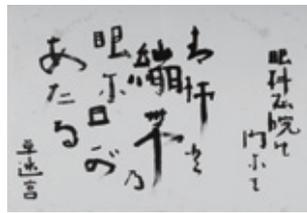
青木月斗、岡本大更
[12034-1]



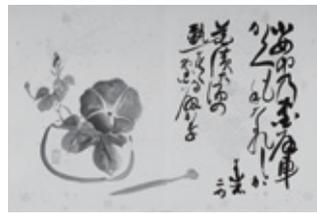
古城
[12034-2]



織田東馬 (明)
[12034-3]



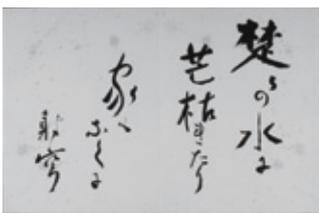
草迷宮
[12034-4]



島道素石、岡本大更
[12034-5]



松浦舞雪
[12034-6]



遠矢瀧丘 (射穹)
[12034-7]



小早川秋聲か
[12034-8]



松宮芳年
[12034-9]



近藤浩一路か
[12034-10]



星野空外

[12034-11]



阪田耕雪

[12034-12]



酔月

[12034-13]



岡本大更

[12034-14]



山内直枝、福田芳穂、生田花朝

[12034-15]



菅橋彦

[12034-16]



島成園、岡本更園

[12034-17]



10.

[京都市立美術工芸学校・京都市立
絵画専門学校同窓生画帖]

1912 (明治 45)

顔料、紙、(画帖 1 冊、14 図)

18.0 × 24.0 (見開き 1 面)

[12031 0-14]



川井古蛙

[12031-1]



榊原紫峰

[12031-2]



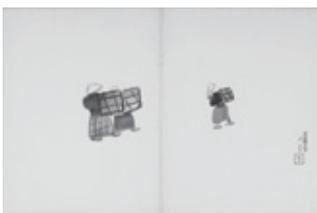
平井樗仙

[12031-3]



榊原雨村 (佳山)

[12031-4]



秦テルヲ

[12031-5]



松宮芳年

[12031-6]



山内信一 (臥雲)

[12031-7]



星野空外

[12031-8]



村上華岳

[12031-9]



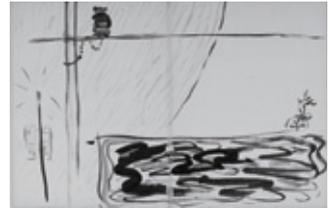
岡本蕉雨

[12031-10]



佐野五風 (有年)

[12031-11]



野長瀬晩花

[12031-12]



入江波光

[12031-13]



櫻野南陽

[12031-14]



11. エミール・オルリック Emil ORLIK
旧ブラハ

1897

木版、紙

18.1×13.8 イメージ/19.5×14.6 シート

[12038]



12. エミール・オルリック Emil ORLIK
エミール・オルリックの蔵書票

1985 (昭和 60)

ブロンズ、鉄に彩色

104.0×47.0×43.0

駒田哲男氏、駒田陽子氏寄贈

[11885]



13. エミール・オルリック Emil ORLIK
ブラハのオルリック宅近くの縫製工場

1898/1920 刊

木版、紙

12.1×18.3 イメージ/13.1×19.6 シート

[12040]



14. エミール・オルリック Emil ORLIK
日本のこどもたち

1900 頃

木版、紙

15.9×11.3 イメージ/18.0×12.6 シート

[12042]



15. エミール・オルリック Emil ORLIK
冬景色

1902 頃

木版、紙

14.2×11.7 イメージ/14.8×12.4 シート

[12041]

2017(平成29)年度 購入資料



16. 逸見享 HENMI Takashi

『詩情』第1輯

1924 (大正 13)

木版、活版、紙(冊子体)

20.2×15.5×0.2

[12037]



17. 木下義謙 KINOSHITA Yoshinori

《アルジェの女たち》(模写)

1931 (昭和 6)

油彩、キャンバス

183.3×232.2

2017(平成29)年度 受贈作品

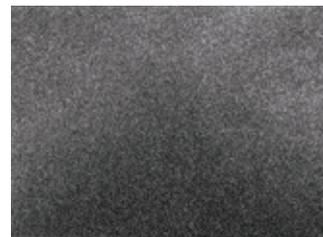
各作品について、作者名、作品名、制作年、技法材質、寸法(cm)、特記なき平面作品はイメージサイズ)、寄贈者名、台帳番号を順に記した。作者名(五十音順)、制作年(昇順)に従って配列している。



1. 玉村方久斗 TAMAMURA Hokuto
【梅】
1929～32(昭和4～7)頃
顔料、絹(軸装)
124.9×34.3
北川久氏寄贈
[12043]



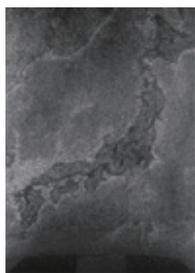
2. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi
題不詳
1980～81(昭和55～昭和56)頃
シルクスクリーン、紙
34.1×25.0 イメージ/50.0×35.2 シート
天野紋子氏寄贈
[12050]



3. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi
題不詳
1980～81(昭和55～昭和56)頃
シルクスクリーン、紙
25.3×34.4 イメージ/35.2×50.0 シート
天野紋子氏寄贈
[12051]



4. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi
題不詳
1980～81(昭和55～昭和56)頃
シルクスクリーン、紙
45.3×36.2 イメージ/68.0×54.3 シート
天野紋子氏寄贈
[12052]



5. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi
日本地図
1981(昭和56)
シルクスクリーン、印刷物
102.0×72.7
天野紋子氏寄贈
[12047]



6. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi
題不詳
1981(昭和56)
シルクスクリーン、新聞紙
182.2×81.1
天野紋子氏寄贈
[12049]



7. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi
数字(紫)
1984(昭和59)
ゴムスタンプ、紙
162.0×130.0
天野紋子氏寄贈
[12048]



8. 保田龍門 YASUDA Ryumon
乳
不詳
鉛筆、紙
22.6×31.5
西野裕介氏寄贈
[12044]

図書資料収集

2017（平成 29）年度購入

逐次刊行物 16 タイトル 270 冊

1	アサヒカメラ	12 冊
2	鳳梨 アナナス	1 冊
3	イラストレーション	4 冊
4	近代画説	1 冊
5	芸術新潮	13 冊
6	国画	25 冊
7	新建築	13 冊
8	審美	39 冊
9	大毎美術	29 冊
10	塔影	102 冊
11	版画芸術	3 冊
12	美術研究	3 冊
13	美術手帖	14 冊
14	美術フォーラム 21	2 冊
15	+81	4 冊
16	炎芸術	5 冊

単行本 135 タイトル 135 冊

- 1 大下藤次郎『水彩画階梯』内外出版協会 1904 年
- 2 小杉未醒『瀬戸内海写生一週』興文社 1911 年
- 3 『欧州芸術巡礼紀行（再版）』十字館 1923 年
- 4 『第 6 回国画創作協会展覧会目録』 1928 年
- 5 豊田豊、猪木卓爾『土田麦僊の芸術』美術往来社 1937 年
- 6 石川宰三郎『明治大正昭和日本絵画史』講談社 1944 年
- 7 『国画創作協会五人展（華岳・麦僊・波光・紫峰・竹喬）新世代を画した俊鋭画家の名作』京都府立総合資料館 1971 年
- 8 『旧国画創作協会展』万葉洞 1972 年
- 9 久我五千男『増補 坂本繁二郎作品全集』朝日新聞社 1981 年
- 10 中山樟雄『ニューヨークからかんスタジオと鈴木らかん』らかん 1987 年
- 11 佐渡博物館『土田麦僊素描集 佐渡博物館コレクション』郷土出版社 1994 年
- 12 東京国立博物館『明治デザインの誕生—調査研究報告書「温知図録」』国書刊行会 1997 年
- 13 青柳正規ほか『日本美術館』小学館 1997 年
- 14 西村彰、樋口昌樹『アウトサイダー・アート』求龍堂 2000 年
- 15 尾崎正明ほか『藤田嗣治画集 素晴らしき乳白色』講談社 2002 年
- 16 岩城見一『芸術・葛藤の現場—近代日本芸術思想のコンテクスト（シリーズ・近代日本の知）』晃洋書房 2002 年
- 17 加藤薫『21 世紀のアメリカ美術 チカーノ・アート—抹消された“魂”の復活』明石書店 2002 年
- 18 デビッド・ディーン、北里桂一（訳）『美術館・博物館の展示—理論から実践まで』丸善出版 2004 年
- 19 ダリオ・ガンボニー、藤原貞朗（訳）『潜在的イメージモダン・アートの曖昧性と不確定性』三元社 2007 年
- 20 水藤真『博物館学を学ぶ—入門からプロフェッショナルへ』山川出版社 2007 年
- 21 尾崎真人『池袋モンパルナスそぞろ歩き 彫刻篇』オクターブ 2007 年
- 22 竹村民郎、鈴木貞美『関西モダニズム再考』思文閣出版 2008 年
- 23 丸山宏ほか『みやこの近代』思文閣出版 2008 年
- 24 丸山宏ほか『近代京都研究』思文閣出版 2008 年
- 25 ピエール・カバンヌ、中村隆夫（訳）『ピカソの世紀—キュビズム誕生から変容の時代へ 1881-1937』西村書店 2008 年
- 26 谷川渥『シュルレアリスムのアメリカ』みすず書房 2009 年
- 27 森村泰昌『手の美術史』二玄社 2009 年
- 28 尾崎真人『池袋モンパルナス そぞろ歩き 読んで視る長谷川利行 視覚都市・東京の色』オクターブ 2009 年
- 29 尾崎真人『池袋モンパルナスそぞろ歩き 日本画篇』オクターブ 2010 年
- 30 日本展示学会『展示論—博物館の展示をつくる』雄山閣 2010 年
- 31 イヴ・アラン・ボワ、ロザリンド・E・クラウス『アンフォルム—無形なものの事典（芸術論叢書）』月曜社 2011 年
- 32 尾崎真人『池袋モンパルナスそぞろ歩き 熊谷守一篇』オクターブ 2011 年

- 33 デイヴィッド・マクラガン、松田和也（訳）『アウトサイダー・アート 芸術のはじまる場所』青土社 2011年
- 34 『アール・ブリュット・ジャポネ』現代企画室 2011年
- 35 倉数茂『私自身であろうとする衝動 関東大震災から大戦前夜における芸術運動とコミュニティ』以文社 2011年
- 36 ダイアナ・ニューオール、藤村奈緒美（訳）『アート・イン・ディテール 印象派』ゆまに書房 2011年
- 37 木村泰司『印象派という革命』集英社 2012年
- 38 全国大学博物館学講座協議会西日本部会『新時代の博物館学』芙蓉書房出版 2012年
- 39 加藤有希子『新印象派のプラグマティズム—労働・衛生・医療』三元社 2012年
- 40 ダリオ・ガンボニー、廣田治子（訳）『「画家」の誕生 ルドンと文学』藤原書店 2012年
- 41 保坂健二郎、中村政人『アール・ブリュット？アウトサイダー・アート？ポコラート！福祉×表現×美術×魂』3331 Arts Chiyoda 2013年
- 42 中村愿『狩野芳崖 受胎観音への軌跡』山川出版社 2013年
- 43 シルヴァン・バーネット、竹内順一（訳）『美術を書く』東京美術 2014年
- 44 黒沢浩『博物館展示論 学芸員の現場で役立つ基礎と実践』講談社 2014年
- 45 藤原工『学芸員のための展示照明ハンドブック 博物館と美術館の照明に役立つポイント』講談社 2014年
- 46 坂上桂子『ジョルジュ・スーラ 点描のモデルニテ』ブリュッケ 2014年
- 47 田中功起『必然的にばらばらなものが生まれてくる』武蔵野美術大学出版局 2014年
- 48 大森俊克『コンテンポラリー・ファインアート 同時代としての美術』美術出版社 2014年
- 49 加須屋明子『ポーランドの前衛美術 生き延びるための「応用ファンタジー」』創元社 2014年
- 50 馬定延『日本メディアアート史』アルテスパブリッシング 2014年
- 51 村田麻里子『思想としてのミュージアム ものと空間のメディア論』人文書院 2014年
- 52 岡田温司『イメージの根源へ 思考のイメージ論的転回』人文書院 2014年
- 53 矢内みどり『藤田嗣治とは誰か 作品と手紙から読み解く美の闘争史。』求龍堂 2015年
- 54 ジョン・リチャードソン、木下哲夫（訳）『ピカソⅠ：神童 1881-1906』白水社 2015年
- 55 松實輝彦『広告写真のモダニズム 写真家・中山岩太と一九三〇年代』青弓社 2015年
- 56 榎木野衣『後美術論』美術出版社 2015年
- 57 野呂田純一『幕末・明治の美意識と美術政策』宮帯出版社 2015年
- 58 東田雅博『シノワズリーか、ジャポニスムか 西洋世界に与えた衝撃』中央公論新社 2015年
- 59 角田拓朗『絵師五姓田芳柳義松親子の夢追い物語 幕末明治西洋画師サバイバル』三好企画 2015年
- 60 難波祐子『現代美術キュレーター・ハンドブック』青弓社 2015年
- 61 徐京植『越境画廊 私の朝鮮美術巡礼』論創社 2015年
- 62 ロバート・カミング、岡部昌幸（訳）『世界美術家大全』日東書院本社 2015年
- 63 御厨貴、橋本寿朗、鷺田清一『わが記憶、わが記録 堤清二×辻井喬オーラルヒストリー』中央公論新社 2015年
- 64 池上裕子『越境と覇権 ロバート・ラウシェンバークと戦後アメリカ美術の世界的台頭』三元社 2015年
- 65 栗本高行『墨痕 書芸におけるモダニズムの胎動』森話社 2016年
- 66 ジル・ドゥルーズ、宇野邦一（訳）『フランシス・ベーコン 感覚の論理学』河出書房新社 2016年
- 67 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・トルボット、青山勝（訳）『自然の鉛筆』赤々舎 2016年
- 68 菅野昭正『辻井喬=堤清二 文化を創造する文学者』平凡社 2016年
- 69 三浦雅士『ポストモダンを超えて 21世紀の芸術と社会を考える』平凡社 2016年
- 70 藤田直哉『地域アート 美学／制度／日本』堀之内出版 2016年
- 71 ハワード・S・ベッカー、後藤将之（訳）『アート・ワールド』慶應義塾大学出版会 2016年
- 72 ミカエル・リュケン、南明日香（訳）『増補改訂版 20世紀の日本美術（同化から越境への軌跡）』三好企画 2016年
- 73 片山正夫『セゾン文化財団の挑戦 誕生から堤清二の死まで』書籍工房早山 2016年
- 74 クレア・ビショップ、大森俊克（訳）『人工地獄 現代アートと観客の政治学』フィルムアート社 2016年
- 75 ジョン・リチャードソン、木下哲夫（訳）『ピカソⅡ：キュビストの叛乱 1907-1916』白水社 2016年
- 76 木下長宏『自画像の思想史』五柳書院 2016年
- 77 小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』東京大学出版会 2016年
- 78 平芳幸浩『マルセル・デュシャンとアメリカ 戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷』ナカニシヤ出版 2016年
- 79 鴻池朋子『どうぶつのことば—根源的暴力をこえて』羽鳥書店 2016年
- 80 彦坂尚嘉『反覆 新興芸術の位相』アルファベータブックス 2016年
- 81 粟生田弓『写真をアートにした男 石原悦郎とツァイト・フォト・サロン』小学館 2016年
- 82 谷川晃一『雑めく心—奇想的思考あふれるエッセイ集』せりか書房 2016年
- 83 西村智弘、金子遊『アメリカン・アヴァンギャルド・ムーヴィー』森話社 2016年
- 84 今井祐子『陶芸のジャポニスム』名古屋大学出版会 2016年
- 85 酒井忠康『芸術の海をゆく人 回想の土方定一』みすず書房 2016年

- 86 北田暁大、神野真吾、竹田恵子『社会の芸術／芸術という社会 社会とアートとの関係、その再創造に向けて』フィルムアート社 2016年
- 87 「日本における「美術」概念の再構築」記録集編集委員会『「美術」概念の再構築 「分類の時代」の終わりに』ブリュッケ 2017年
- 88 丸山雅子『日本近代建築家列伝』鹿島出版会 2017年
- 89 ジャックリーヌ・マンク、後藤新治（訳）『マティスとルオー 友情の手紙』みすず書房 2017年
- 90 ネルソン・グッドマン、戸澤義夫（訳）、松永伸司（訳）『芸術の言語』慶應義塾大学出版会 2017年
- 91 宇野邦一『土方巽 衰弱体の思想』みすず書房 2017年
- 92 アーサー・C・ダントー、山田忠彰（訳）『芸術の終焉のあと 現代芸術と歴史の境界』三元社 2017年
- 93 大橋毅彦『昭和文学の上海体験』勉強出版 2017年
- 94 ノルベルト・エリアス、大平章（訳）『シンボルの理論』法政大学出版局 2017年
- 95 田中正之『西洋近代の都市と芸術 7 ニューヨーク 錯乱する都市の夢と現実』竹林舎 2017年
- 96 野村悠里『書物と製本術 ルリキュール／綴じの文化史』みすず書房 2017年
- 97 野上秀雄『日本美術を愛した蝶 ホイッスラーとジャポニスム』文沢社 2017年
- 98 田中正之『現代アート 10 講』武蔵野美術大学出版局 2017年
- 99 宮島達男『芸術論』アートダイバー 2017年
- 100 『草間彌生全版画 1979-2017』阿部出版 2017年
- 101 『川瀬巴水木版画集』阿部出版 2017年
- 102 朝日智雄ほか『明治・大正口絵と本のはなし 朝日コレクション明治・大正口絵作品集』文生書院 2017年
- 103 寺本敬子『パリ万国博覧会とジャポニスムの誕生』思文閣出版 2017年
- 104 東田雅博『ジャポニスムと近代の日本』山川出版社 2017年
- 105 『横尾忠則全版画 HANGA JUNGLE』国書刊行会 2017年
- 106 ジョン・リチャードソン、木下哲夫（訳）『ピカソⅢ：意気揚々 1917-1932』白水社 2017年
- 107 塩谷純、恵美千鶴子、増野恵子『天皇の美術史 6 近代皇室イメージの創出』吉川弘文館 2017年
- 108 『新版 日本史モノ事典』平凡社 2017年
- 109 『新版 世界史モノ事典』平凡社 2017年
- 110 ベルトラン・ラヴェドリン、高橋剛英（訳）、白岩洋子（訳）『写真技法と保存の知識 デジタル以前の写真 その誕生からカラーフィルムまで』青幻舎 2017年
- 111 二見史郎『ファン・ゴッホの手紙 新装版』みすず書房 2017年
- 112 増田美子『図説 日本服飾史事典』東京堂出版 2017年
- 113 井口壽乃『生きている前衛 山口勝弘評論集』水声社 2017年
- 114 小林英樹『先駆者ゴッホ 印象派を超えて現代へ』みすず書房 2017年
- 115 谷川渥『芸術表層論 批評という物語』論創社 2017年
- 116 森登『江戸・明治の視覚 銅版・石版万華鏡』日本古書通信社 2017年
- 117 針貝綾『ユージェントシュティルからドイツ工作連盟へ 世紀転換期ドイツの美術工芸工房と教育』九州大学出版会 2017年
- 118 新村出『広辞苑 第七版（普及版）』岩波書店 2018年
- 119 『小村雪岱作品集』阿部出版 2018年
- 120 加藤哲弘『美術史学の系譜』中央公論美術出版 2018年
- 121 山形季央『日本のグラフィック 100年』パイインターナショナル 2018年
- 122 石井朗、田中正之『描かれる他者、攪乱される自己 アート・表象・アイデンティティ』ありな書房 2018年
- 123 田中修二『近代日本彫刻史』国書刊行会 2018年
- 124 荒木慎也『石膏デッサンの100年 石膏像から学ぶ美術教育史』アートダイバー 2018年
- 125 『新版 続日本史モノ事典』平凡社 2018年
- 126 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト、中野勉（訳）『キュレーションの方法』河出書房新社 2018年
- 127 三上豊『辰野登恵子アトリエ』せりか書房 2018年
- 128 茨城大学社会連携センター、五浦美術文化研究所『岡倉天心 五浦から世界へ 茨城大学国際岡倉天心シンポジウム 2016』思文閣出版 2018年
- 129 奥平俊六ほか『畫下遊楽』藝華書院 2018年
- 130 小崎哲也『現代アートとは何か』河出書房新社 2018年
- 131 西山純子『新版画作品集 なつかしい風景への旅』東京美術 2018年
- 132 北代美和子『イサム・ノグチ エッセイ』みすず書房 2018年
- 133 人間文化研究機構国文学研究資料館『木口木版のメディア史 近代日本のヴィジュアルコミュニケーション』勉強出版 2018年
- 134 中谷伸生『日本の近世近代絵画と文化交渉』関西大学出版部 2018年
- 135 東京都写真美術館『「光画」と新興写真 モダニズムの日本』国書刊行会 2018年

保存事業

作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

1 作品・資料の状態調査

- ・展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額裏板の改良・交換を中心に処置を進めた。

2 作品・資料の保存環境

- ・展示室、収蔵庫等作品保管区画の温湿度観察
- ・収蔵庫、展示資材倉庫等の清掃
- ・総合虫害管理システム（IPM）により、外部の専門家に委託してモニタリングを館内 98 箇所 で 4 回実施（5 月、8 月、11 月、2 月）。重点的に調査すべき 18 箇所 で 8 回実施（4 月、6 月、7 月、9 月、10 月、12 月、1 月、3 月）
- ・空気環境測定（収蔵庫・展示室・展示ケース内のホルムアルデヒド・酢酸・蟻酸を測定。6 月、12 月の 2 回）
- ・展示室等のブンガンによる燻蒸を実施（2 階・地下：10 月、1 階：12 月）
- ・空中浮遊菌調査（収蔵庫・展示室など 21 箇所をエアースンプラーにより採取、培養検査。12 月）
- ・新収蔵作品・資料の殺菌・殺虫のため、エキヒューム S による燻蒸を実施（6 月）

3 作品・資料の保存修復

- ・館外の保存修復専門家による状態調査を実施・記録し、修復が必要と判断された作品のうち、優先順位の高いものについて処置を実施した。

- 1 吹田草牧 《紀南夏景》 1935 年 顔料、紙
- 2 杉田勇次郎 《麓庵》 1927 年 顔料、絹
- 3 ヘンリー杉本 《パン配達娘》 1963 年 油彩、キャンバス
- 4 高井貞二 《故郷の風景》 1956 年 油彩、キャンバス
- 5 村井正誠 《URBAIN No.1》 1936 年 油彩、キャンバス
- 6 大亦新治郎 《習作 雑賀崎》 1913 年 水彩、紙
- 7 大亦新治郎 《習作 大橋にて》 1913 年 水彩、紙
- 8 大亦新治郎 《習作 製材所裏》 1913 年 水彩、紙
- 9 大亦新治郎 《習作 [風景]》 1914 年 水彩、紙
- 10 藤森静雄 《けし》 1914 年 木版、紙
- 11 藤森静雄 《Der Tod》 1915 年頃 木版、紙

（主な処置内容）

剥落止め、表面の汚れ除去、補修、補彩

4 作品・資料の管理

- ・作品の状態調査、展示、貸出記録、台帳・データベースの管理を日常的に実施、更新処理を行っている。

5 作品・資料のデータ公開

- ・展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載。

管理運営

組織



機構及び職員配置

館長：山野 英嗣
副館長：苗代 吉登
総務課 総務課長：宮本 明英
主査：北村 利恵（和歌山県立博物館主査兼務）
主査：福原 沙織（和歌山県立博物館主査兼務）
主査：松山 公一（和歌山県立博物館主査兼務）
副主査：湊 泰希（和歌山県立博物館副主査兼務）
技術専門員：佐々木 利純（非常勤嘱託）
教育普及課 教育普及課長：奥村 泰彦
主査学芸員：奥村 一郎
学芸員：青木 加苗
学芸課 学芸課長：井上 芳子
主任学芸員：植野 比佐見
主査学芸員：宮本 久宣
学芸員：藤本 真名美
非常勤嘱託：5名、報酬職員（事務補助）：1名、賃金職員（監視）：13名

和歌山県立近代美術館協議会委員

任期2年：2014（平成26）年11月3日～2016（平成28）年11月2日、2016（平成28）年11月3日～2018（平成30）年11月2日（全員再任）

	氏名（◎会長、○副会長）	役職〔備考〕
◎	榎本 長治	会社社長
	川瀬 和男	会社社長
○	酒井 哲朗**	福島県立美術館 名誉館長
	清水 達三*	日本画家、和歌山県美術家協会 会長
	建 嶋 哲*	多摩美術大学 学長／埼玉県立近代美術館 館長
	谷 奈々	（一般財団法人）和歌山社会経済研究所 研究委員
	廣本 直子	紀の国トレイナート 主宰
	真砂 美香	紀の川市社会教育委員／わかやまメディアリテラシー研究会 代表
	宮本 信吾	和歌山市立雑賀崎小学校 校長／和歌山県美育連盟 副会長
	山脇 佐江子*	前 姫路市立美術館 館長／独立行政法人国立美術館 監事
	雪山 行二*	富山県美術館 館長
	渡部 幹雄	和歌山大学附属図書館 館長

氏名五十音順、現在 委員 12名

* は、和歌山県立近代美術館評価部会委員。** は部会長。現在委員 5名

第 62 回和歌山県立近代美術館協議会

2017（平成29）年6月8日午後1時30分より開催。2016（平成28）年度事業報告、2017（平成29）年度事業説明を受けて、当館の運営について協議が行われた。

第 63 回和歌山県立近代美術館協議会

2017（平成29）年10月18日午後2時より開催。2018（平成30）年度事業案、2016（平成28）年度運営状況に対する評価についてなど、当館の運営について協議が行われた。

第5回和歌山県立近代美術館評価部会

2017(平成29)年6月8日午後3時10分より開催。2016(平成28)年度美術館評価、及び2017(平成29)年度美術館評価(目標設定の報告)、各学芸員の実績報告などについて、評価が行われた。

安全と快適性

1 施設・設備の維持管理

1. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保
 - ・施設・設備の定期的な保守管理、日常的メンテナンスを行うと共に、経年劣化による修繕箇所を把握し、雨水配管、階段石貼替、空調設備等の修繕を予算の範囲内で実施することにより安全確保を行った。
2. 施設・設備の改修や新たな整備
 - ・空調設備改修設計を実施した。
 - ・照明器具の改修に向け財政当局と協議を行った。
3. 日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持・衛生管理
 - ・日々メンテナンスを行い設備の保持、施設的美観等衛生管理を行った。
4. 長期修繕計画
 - ・長期修繕計画に基づき、修繕計画を行った。

2 快適性の向上

1. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応
 - ・点字ブロックの改修を行った。
2. 利用者に対する接遇
 - ・職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。
3. 快適性向上のための上記以外の取り組み
 - ・館内の美化および設備のメンテナンスなどに取り組んだ。

3 危機管理

1. 危機管理・防災体制
 - ・地震及び火災時の避難訓練を実施した。
2. 個人情報の保護・データ管理
 - ・講演会等の展覧会関連事業開催に伴う参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

4 職員研修

- ・研修への参加には、できる限り対応したが、各職員2回以上は達成できなかった。

5 情報公開・利用者のニーズなどの把握

1. 使命、目標、計画などの方針の公開
 - ・和歌山県立近代美術館の使命を平成28年3月4日よりホームページで公開している。
2. 実績や評価結果の公開
 - ・平成28年度実績評価について平成29年10月30日にホームページで公開した。
 - ・平成29年度実績評価について、ホームページで公開を予定している。
3. 入館者情報(年齢層・地域・情報入手手段等)の把握
 - ・アンケートにより入館者情報の把握を行った。
4. 利用者の満足度・ニーズなどの把握
 - ・アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。
5. 調査結果等を反映した運営
 - ・階段や床の汚れを清掃した。

2017（平成29）年度 展覧会入館者数

展覧会名	特別展・企画展					常設展						第71回県展	第3回ジュニア県展
	現代版画の展開	すききらい、すき？きらい？ なつやすみの美術館7	国吉康雄と石垣栄太郎 アメリカへ渡った二人	水彩画家・大下藤次郎展 明治150年記念	合計	特集「群像 — 交錯する声」 コレクション展 2017春	特集「おはなしのなかへ」 コレクション展 2017夏	特集「NANCA 俗を去り自ら娛しむ」 コレクション展 2017秋	特集「はじまりの景色」 コレクション展 2018冬春	合計	合計		
会期	4月8日～6月25日	7月8日～9月18日	10月7日～12月24日	2月10日～3月25日		1月27日～3月31日（参考）	4月1日～5月7日	5月30日～9月10日	9月20日～12月17日	1月4日～3月31日		1月10日～14日、17日～21日	1月24日～28日
日数	68	63	68	38	237	55	32	90	77	75	274	10	5

有料

個人	一般	966	2,323	759	916	4964	694	496	2232	883	1158	4769		
	団体	24	0	0	0	24	0	0	44	20	0	64		
紀陽	0	159	54	212	425	0	0	126	39	162	327			
友の会	39	32	27	38	136	49	20	41	26	38	125			
割引	198	535	179	132	1044	158	99	528	211	234	1072			
大学生	63	178	66	45	352	77	35	163	63	78	339			
団体	24	102	0	0	126	0	0	14	0	1	15			
紀陽	14	5	15	6	40	2	2	13	15	7	37			
割引	17	48	6	12	83	5	13	35	8	17	73			
小計	1345	3382	1106	1361	7194	985	665	3196	1265	1695	6821			

無料

高齢者	799	709	1005	1423	3936	470	374	925	996	1334	3629		
障害者	227	230	152	146	755	132	96	245	149	170	660		
その他	522	951	1249	464	3186	431	190	796	905	424	2315		
県内留学生	3	26	6	6	41	5	3	24	8	4	39		
高校生	63	324	95	50	532	44	36	198	72	148	454		
中学生	63	4516	97	21	4697	27	18	4504	113	48	4683		
小学生	93	964	95	56	1208	60	45	709	88	102	944		
幼児	38	353	62	37	490	41	21	287	51	50	409		
団体	409	675	412	240	1736	799	0	859	593	437	1889		
小計	2217	8748	3173	2443	16581	2009	783	8547	2975	2717	15022	3002	1883
合計	3562	12130	4279	3804	23775	2994	1448	11743	4240	4412	21843	3002	1883

有 料										合 計
個 人					大 学 生					
一 般	団 体	紀 陽	友 の 会	割 引	大 学 生	団 体	紀 陽	割 引		
9733	88	752	261	2116	691	141	77	156	14015	

無 料										合 計
高 齢 者	障 害 者	そ の 他	県 内 留 学 生	高 校 生	中 学 生	小 学 生	幼 児	団 体		
7565	1415	5501	80	986	9380	2152	899	3625	31603	

入館者数合計	45618
--------	-------

紀陽：紀陽文化財団の助成による入館者 その他：招待券、招待状、優待券による入館者 割引：メールマガジンなどの持参による入館者

関係法規・規則・規定等

○和歌山県立近代美術館設置及び管理条例

昭和 45 年 10 月 6 日
和歌山県条例第 64 号
改正 平成 6 年 3 月 30 日条例第 18 号

和歌山県立近代美術館設置および管理条例をここに公布する。

和歌山県立近代美術館設置及び管理条例 (平 6 条例 18・改称)

(設置)

第 1 条 近代美術に関する資料を収集し、保管し、又は展示して一般公衆の観覧に供するとともに、美術に関する資料の調査、研究等を行い、もって美術文化の向上に資するため、和歌山県立近代美術館(以下「近代美術館」という。)を設置する。

(平 6 条例 18・一部改正)

(位置)

第 2 条 近代美術館は、和歌山市吹上一丁目 4 番 14 号に置く。

(平 6 条例 18・一部改正)

(事業)

第 3 条 近代美術館は、第 1 条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 近代美術に関する作品その他の近代美術に関する資料を収集し、保管し、又は展示して一般公衆の利用に供すること。
- (2) 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、研究会、講習会等の開催及び資料の刊行

(平 6 条例 18・一部改正)

(使用料)

第 4 条 近代美術館を使用する者は、和歌山県使用料及び手数料条例(昭和 22 年和歌山県条例第 28 号)の定めるところにより、使用料を納めなければならない。

(委任)

第 5 条 近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

付 則

この条例は、昭和 45 年 11 月 2 日から施行する。

附 則 (平成 6 年 3 月 30 日条例第 18 号)

この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

○和歌山県立近代美術館管理規則

昭和 45 年 10 月 22 日
和歌山県教育委員会規則第 20 号

改正 昭和 53 年 4 月 1 日教育委員会規則第 12 号
昭和 56 年 5 月 28 日教育委員会規則第 7 号
昭和 63 年 3 月 31 日教育委員会規則第 13 号
平成 元 年 3 月 31 日教育委員会規則第 7 号
平成 6 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号
平成 13 年 3 月 30 日教育委員会規則第 11 号
平成 17 年 2 月 25 日教育委員会規則第 2 号
平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 15 号

和歌山県立近代美術館管理規則を次のように定める。

和歌山県立近代美術館管理規則

(目的)

第 1 条 この規則は、和歌山県立近代美術館設置及び管理条例(昭和 45 年和歌山県条例第 64 号。以下「条例」という。)第 5 条の規定に基づき、和歌山県立近代美術館(以下「近代美術館」という。)の管理に関し法令、条例及び他の規則に定めのあるものを除くほか、必要な事項を定めることを目的とする。

(開館時間)

第 2 条 近代美術館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

- 2 館長は、特別の事情がある場合においては、前項の開館時間を変更することができる。この場合においては、館長は、その旨を教育長に報告するものとする。

(休館日)

第 3 条 近代美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎週月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その日後においてその日に最も近い土曜日、日曜日又は休日でない日)
 - (2) 年始(1 月 1 日から同月 3 日まで)
 - (3) 年末(12 月 29 日から同月 31 日まで)
 - (4) 前 3 号に定めるもののほか、特別の事情により館長が臨時に休館を必要と認め、教育長の承認を得た日
- 2 館長は、必要があると認めるとき、その他特別の事情があるときは、前項第 1 号から第 3 号までに掲げる休館日を変更することができる。この場合においては、館長は、その旨を教育長に報告するものとする。
 - 3 非常変災その他急迫の事情があるときは、館長は、臨時に休館することができる。この場合においては、館長は、次に掲げる事項を直ちに教育長に報告するものとする。
 - (1) 休館の期間
 - (2) 非常変災その他急迫の事情の概要
 - (3) その他必要と認める事項

(職員)

第 4 条 近代美術館に、館長のほか必要な職員を置く。

(課の設置及び所掌事務)

第 5 条 近代美術館に、次の課を置く。

総務課
教育普及課
学芸課

- 2 総務課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 館長印、館印その他公印の管守に関する事。
 - (2) 職員の身分、服務その他人事に関する事。
 - (3) 文書の收受、発送、編さん及び保存に関する事。
 - (4) 予算、決算及び会計に関する事。
 - (5) 近代美術館の施設、設備及び物品の管理に関する事。
 - (6) その他学芸課の主管に属しない事。
- 3 教育普及課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 美術に関する知識の向上及び普及並びに美術の振興に関する事。
 - (2) 学校等の教育、学術又は文化に関する諸施設に対する助言及び支援並びに当該施設との協力に関する事。
 - (3) 国内外の美術館等関係諸団体との連絡及び協力に関する事。
 - (4) 近代美術に関する展覧会、講演会及び研究会等の立案、調整及び実施に関する事。
 - (5) 美術館活動(美術品等の展示及び収集並びに美術の普及活動等をはじめとして広く美術館において行う諸活動をいう。)に係る調査研究に関する事。
- 4 学芸課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、管理及び保存に関する事。
 - (2) 近代美術に関する展覧会の立案、調整及び実施に関する事。
 - (3) 近代美術に関する調査研究及び資料の刊行に関する事。
 - (4) 近代美術館協議会に関する事。

(入館の拒絶、制限及び退館命令)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 伝染性疾患のある者
 - (2) 陳列品を汚損し、又は近代美術館の施設及び設備をき損するおそれのある物品を所持している者
 - (3) 館内の秩序を乱すと認められる者
 - (4) その他館長において近代美術館の管理上入館を不適当と認めたる者
- 2 館長は、近代美術館の管理上必要があると認めるときは、入館に制限を加えることができる。

(損害賠償の義務)

第7条 入館者は、その責めに帰すべき事由により陳列品を汚損し、近代美術館の施設及び設備をき損し、又は滅失したときは、その損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか、近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

付 則

この規則は、昭和45年11月2日から施行する。

附 則(昭和53年4月1日教育委員会規則第12号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭和56年5月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭和63年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月31日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月30日教育委員会規則第11号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年2月25日教育委員会規則第2号)

この規則は平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日教育委員会規則第15号)

この規則は平成19年4月1日から施行する。

○和歌山県博物館協議会条例

昭和 57 年 3 月 29 日
和歌山県条例第 11 号
改正 平成 24 年和歌山県条例 28 号

和歌山県博物館協議会条例をここに公布する。

和歌山県博物館協議会条例

(設置)

第 1 条 博物館法(昭和26年法律第 285 号)第20条の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館にそれぞれ当該右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

博物館の名称	協議会の名称
和歌山県立近代美術館	和歌山県立近代美術館協議会
和歌山県立博物館	和歌山県立博物館協議会
和歌山県立紀伊風土記の丘	和歌山県立紀伊風土記の丘協議会
和歌山県立自然博物館	和歌山県立自然博物館協議会

(委員の任命の基準)

第 2 条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第 3 条 委員の定数は、15 人以内とする。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
2 委員は、再任されることができる。

(会長等)

第 5 条 協議会に、会長及び副会長 1 人を置く。
2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。
2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(小委員会及び部会)

第 7 条 協議会は、小委員会又は部会を置くことができる。
2 小委員会に委員長を、部会に部会長を置く。
3 委員長及び部会長は、委員のうちから会長が指名する。
4 小委員会又は部会に属する委員は、会長が指名する。

(庶務)

第 8 条 協議会の庶務は、当該博物館において処理する。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 24 年 3 月 23 日条例第 28 号)

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

○和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会設置要綱

(平成元年8月1日教育長決定)

改正 平成14年3月1日

和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会設置要綱を次のように定める
和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会設置要綱

(目的)

第1条 和歌山県博物館協議会条例(昭和57年和歌山県条例第11号)第7条の規定に基づき、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)において収集する美術作品の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うことを目的として、和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(業務)

第2条 委員会は、美術館において収集する美術作品の選定に関する事項を審議する。

(構成)

第3条 委員会は、委員5名以内をもって構成する。
2 委員は、和歌山県立近代美術館協議会会長(以下「協議会会長」という。)が和歌山県立近代美術館協議会委員のうちから指名する。
3 委員の任期は、2年とし、再任することができる。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置く。
2 委員長は、委員のうちから協議会会長が指名する。
3 委員長は、会務を総理する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ協議会会長が指定する委員が会務を総理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、和歌山県立近代美術館長(以下「館長」という。)が招集する。
2 委員会の会議には、館長が、必要に応じて、委員でない者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し、必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成元年8月1日から施行する。

改正文(平成14年教育長決定)抄

この要綱は、平成14年3月1日から施行する。

○和歌山県立近代美術館評価部会設置要綱

平成26年4月1日施行

(目的)

第1条 和歌山県博物館協議会条例(昭和57年和歌山県条例第11号)第7条の規定に基づき、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)の運営の状況等を評価することを目的として、和歌山県立近代美術館評価部会(以下「部会」という。)を設置する。

(業務)

第2条 部会の業務は、次に掲げるとおりとする。
(1) 美術館の運営について評価する項目を定め、各項目について評価を行う。
(2) 館長が行った新規採用学芸員に係る条件付き採用期間中の評価及び既存の学芸員に係る3年に1度の評価に関し、意見を述べる。

(委員)

第3条 委員の定数は、5人以内とする。
2 委員は、和歌山県立近代美術館協議会会長(以下「協議会会長」という。)が和歌山県立近代美術館協議会委員のうちから指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、再任することができる。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第5条 部会に、部会長を置く。
2 部会長は、委員のうちから協議会会長が指名する。
3 部会長は、会務を総理する。ただし、部会長に事故があるときは、あらかじめ協議会会長が指定する委員が会務を総理する。

(会議)

第6条 部会の会議は、美術館長(以下「館長」という。)が招集する。
2 部会の会議には、館長が、必要に応じて、委員ではない者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、館長が定める。

○和歌山県立近代美術館美術品貸付規則

昭和 46 年 10 月 12 日
和歌山県教育委員会規則第 26 号
改正 昭和 56 年 8 月 29 日教委規則第 15 号
平成元年 3 月 31 日教委規則第 8 号

和歌山県立近代美術館美術品貸付規則を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術品貸付規則

(目的)

第 1 条 この規則は、和歌山県立近代美術館が所蔵する美術品（以下「美術品」という。）の貸付けに関し必要な事項を定めることを目的とする。

(貸付)

第 2 条 和歌山県立近代美術館長（以下「館長」という。）は、その目的が公の性質をもち、かつ、美術文化の普及上適当と認められた場合に、次項に規定する者に対して美術品を貸し付けることができるものとする。

- 2 美術品の貸付けを受けることのできる者は、国並びに地方公共団体及び公益法人その他これらに準ずる団体とする。

(申請手続)

第 3 条 美術品の貸付けを受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した借受申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名又は名称及び住所
- (2) 借り受けようとする美術品の名称及び数量
- (3) 使用目的
- (4) 陳列等のための施設の名称及びその場所並びに施設の概要
- (5) 借受期間
- (6) 借受期間中における保管及び管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸付承認)

第 4 条 館長は、美術品の貸付けを承認したときは、美術品貸付承認通知書（別記様式）を申請者に交付する。

(貸付期間)

第 5 条 美術品の貸付期間は、通常 2 月以内（以下「1 期間」という。）とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸付期間を更新し、又は延長することができる。

(借受書等)

第 6 条 美術品の貸付承認を受けた者は、次に掲げる事項を記載した借受書を館長に提出しなければならない。

- (1) 借り受ける美術品の名称及び数量
- (2) 借受期間
- (3) 返納期日
- (4) 返納場所
- (5) 貸付条件に従う旨
- 2 貸付承認をした美術品の引渡しは、前項の借受書の提出があったとき、これを行う。
- 3 館長は、美術品が返還されたときは、これと引換えに返還を受けた旨の受領書を交付するものとする。

(遵守事項等)

第 7 条 貸付承認をした美術品の荷造り及び輸送並びに保管、返納等に要する費用は、借受人の負担とする。

- 2 貸付期間中の美術品の保管及び管理は、借受人の責任とし、亡失、汚損又は損傷のあったときは、賠償の責めを負うものとする。

- 3 美術品の借受人は、当該美術品を借り受けた目的以外に使用してはならない。

(貸付料)

第 8 条 美術品の貸付料は、1 点につき 1 期間 3,090 円とし、第 5 条ただし書の貸付期間の延長の場合にあつては、1 月以内の延長期間については 1,540 円とし、1 月を超える延長期間については 3,090 円とする。

- 2 特別の事情がある場合においては、貸付料を増減し、又は免除することがある。

- 3 既納の貸付料は、これを返還しない。

(貸付けの取消し)

第 9 条 館長は、美術品の貸付けを受けた者が、この規則及び貸付条件を守らないときは、その承認を取り消し、当該美術品の返還を求めることができる。

(補則)

第 10 条 この規則に定めるもののほか、美術品の貸付けに関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

付 則

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 和歌山県立近代美術館美術品貸付規則（昭和 42 年和歌山県教育委員会規則第 22 号）は、廃止する。

附 則（昭和 56 年 8 月 29 日教育委員会規則第 15 号）

この規則は、昭和 56 年 9 月 1 日から施行する。

附 則（平成元年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号）

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

別記様式（第 4 条関係）

番号 年 月 日
美術品貸付承認書
殿
和歌山県立近代美術館長 印
年 月 日付けで承認申請のあった当館所蔵の美術品の貸付けについては、下記によって承認する。
記
1 貸付品 種別 作者名 題名 材質 形状 製作年
2 貸付期間 年 月 日から 年 月 日まで
3 貸付料 金 円
上記貸付料は、美術品借り受けのとき、又はその日までに県指定金融機関へ払い込むこと。
4 美術品の輸送の際の取扱い及び保管管理については、館長の指示に従い、十分注意するとともに、貸付中のいっさいの責任を借受人において負うものとする。
5 美術品は、当館係員立合いのうえ借受書と引換えに引き渡すものとする。
6 その他和歌山県立近代美術館美術品貸付規則の各条項を遵守するとともに館長の指示に従うこと。

備考 この承認書には、和歌山県立近代美術館美術品貸付規則を添付すること。

○和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程

昭和 46 年 10 月 12 日
和歌山県教育委員会告示第 12 号
改正 平成 6 年 3 月 31 日教委告示第 1 号

和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)における美術作品の寄託に関し必要な事項を定めるものとする。

(受託)

第 2 条 美術作品の所有者(以下「所有者」という。)が展示保存又は調査研究の目的をもって、美術作品の保管の寄託の申入れがあったときは、この規程の定めるところにより、美術館はこれを受託するものとする。

(寄託)

第 3 条 所有者が、美術作品を寄託しようとするときは、別記第 1 号様式による保管依頼書を提出し、館長の承認を受けなければならない。

(受入れ及び返還)

第 4 条 館長は、美術作品を受領したときは、所有者に、別記第 2 号様式による受託証書を交付するものとする。

- 2 寄託品の返還を受けようとする者は、原則として返還を受けようとする日の 1 月前に別記第 3 号様式による返還請求書を館長に提出しなければならない。
- 3 寄託品は、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。
- 4 寄託品の返還を受けようとする者が、所有者の代理人であるときは、受託証書に、委任状その他代理人であることを証する書類を添えなければならない。

(寄託期間及び期間の更新)

第 5 条 寄託期間は、3 年とする。ただし、館長が必要と認めるときは、所有者の承諾を得てこの期間を短縮又は更新することがある。寄託期間を経過後寄託者から返還の請求がない場合は寄託期間の更新をしたものとみなす。

- 2 寄託期間の更新をするときは、受託証書の書換えを行うものとする。

(所有者の変更等)

第 6 条 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、又は所有者の氏名、名称若しくは住所等に変更があったときは、その所有者(所有者変更の場合は、新所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等の変更を証する書類を受託証書に添えて、館長に届け出て、受託証書の書換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

第 7 条 受託証書を忘失し、又は著しく破損したときは、所有者は、これらを証明するに足る書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

(作品輸送経費の負担)

第 8 条 所有者は、寄託品の搬入又は返還に要する荷造り及び運搬の経費を負担しなければならない。ただし、館長において特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

(補則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか美術品の寄託に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

付 則

この規程は、告示の日から施行する。

附 則(平成 6 年 3 月 31 日教育委員会告示第 1 号)

この規程は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

別記第 1 号様式(第 3 条関係)

美術作品保管依頼書

種 別	
作 品 名	
作 者 名	
製 作 年 月 日	
附 属 品	
作品の所在地	
寄 託 期 間	年 月 日から 年 月 日まで

上記作品について下記事項承諾のうえ、寄託を申し入れます。

年 月 日

和歌山県立近代美術館長 殿

住所

氏名

Ⓔ

記

- 1 寄託期間経過後、私から返還請求をしない場合は、この期間の更新に同意したものとします。
- 2 寄託した美術作品が天災その他の避けられない事故によって汚損又は亡失した場合における補償の請求はいたしません。
- 3 展示保存又は調査研究に資するため写真撮影することに同意します。

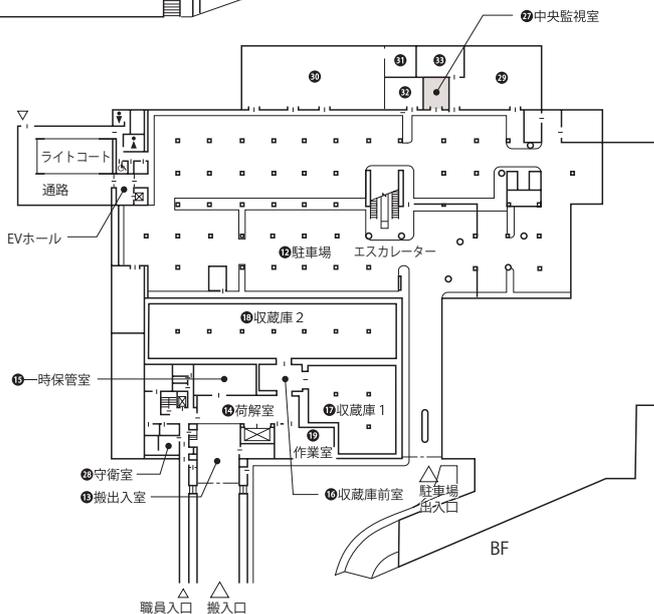
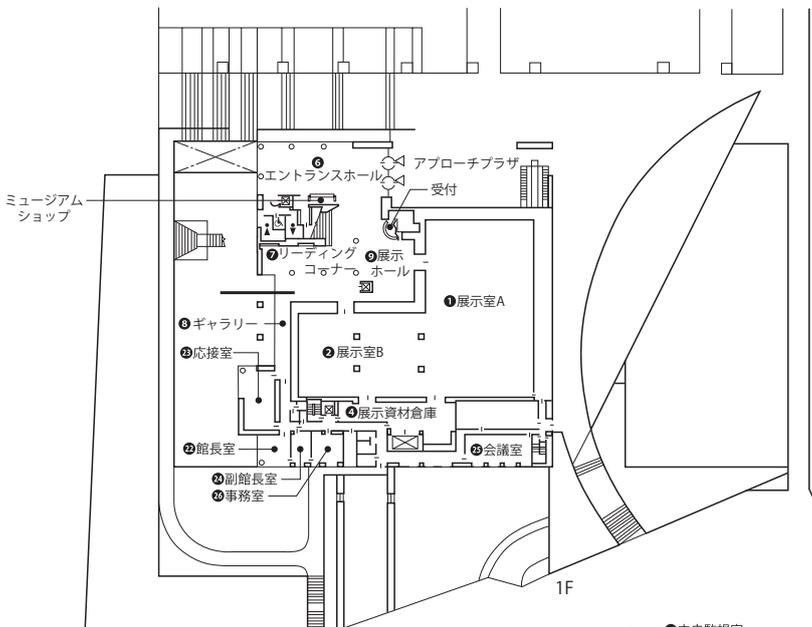
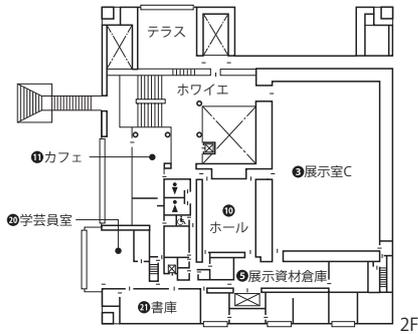
		文書番号
		年 月 日
受託証書		
作品名		
附属品		
寄託期間		
	年 月 日から	
	年 月 日まで	
上記作品の保管を和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程(昭和46年和歌山県教育委員会告示第12号)により受託しました。		
年 月 日		
住所		
氏名	様	
		和歌山県立近代美術館長 印

返還請求書		
作品名		
附属品		
寄託期間		
	年 月 日から	
	年 月 日まで	
上記の作品の返還を和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程(昭和46年和歌山県教育委員会告示第12号)により請求します。		
年 月 日		
和歌山県立近代美術館長 殿		
	住所	
	氏名	印

建築概要

部門別面積表

部門	室名	面積 (m ²)
展示部門		
①	展示室 A	1,057.0
②	展示室 B	486.1
③	展示室 C	1,038.6
④	展示資材倉庫 (1F)	136.2
⑤	展示資材倉庫 (2F)	121.5
	(小計)	2,839.4
サービス部門		
⑥	エントランスホール	402.2
⑦	リーディングコーナー	217.8
⑧	ギャラリー	46.9
⑨	展示ホール	134.0
⑩	ホール	181.5
	ホール前室、映写室、控室 A、倉庫	74.6
⑪	カフェ	105.1
	厨房	62.0
	テラス	217.9
	化粧室	181.9
⑫	駐車場	2,480.1
	EVホール、廊下、階段、その他	1,670.7
	(小計)	5,774.7
収蔵部門		
⑬	搬出入室	108.4
⑭	荷解室	130.0
⑮	一時保管室	81.0
⑯	収蔵庫前室	61.4
⑰	収蔵庫 1	342.5
⑱	収蔵庫 2	685.6
⑲	作業室	82.0
	(小計)	1,490.9
調査部門		
⑳	学芸員室、倉庫	123.2
㉑	書庫	113.1
	(小計)	236.3
管理部門		
㉒	館長室	
㉓	応接室	
㉔	副館長室	
㉕	会議室	
㉖	事務室	
㉗	中央監視室	
㉘	守衛室	444.7
	控室 B	
	控室 C	
	控室 D	
	更衣室	
	救護室	
㉙	電気室	212.4
㉚	マシンルーム	364.9
㉛	消火ポンプ室	38.7
㉜	ハロンポンプ室	51.2
㉝	発電機室	58.1
	空調機械室	295.5
	倉庫、その他	31.1
	(小計)	1,496.6
	合計	11,837.9
階数別面積		
階数		各階面積
2F		2,916.8
1F		3,436.8
BF		5,484.3
合計 (延床面積)		11,837.9



近代美術館・博物館 建築概要

所在地	和歌山市吹上一丁目4番14号
敷地面積	23,356.78㎡
監理	和歌山県土木部宮繕課
設計監理	(株)黒川紀章建築都市設計事務所
施工	竹中・清水・戸田特定建築工事共同企業体 きんでん・伊藤電気特定電気設備工事共同企業体 日立プラント・長谷川冷機特定機械設備工事共同企業体
総工費	137億8086万円 〔総事業費 192億633万1千円(用地費含む)〕
工事期間	1991年10月～1994年3月

建物概要

構造	RC造(鉄筋コンクリート構造) 地上2階地下1階建
建築面積	7,087.17㎡ (美術館部分4,500.62㎡ 博物館部分2,586.55㎡)
延床面積	18,704.50㎡(駐車場3,460.40㎡を含む) (美術館部分11,837.90㎡ 博物館部分6,866.60㎡)
仕上	外装 外壁 磁器質タイル、アルミパネルアルマイト仕上、アルミカーテンウォール 屋上 アスファルト防水の上コンクリート押え 庇 フッ素ステンレス鋼板、アルミパネル アルマイト仕上

設備概要

電気設備	
受変電設備	3φ3W6600V 60Hz 変圧器 1φ600KVA(うち美術館300KVA 博物館300KVA) 3φ1550KVA(うち美術館900KVA 博物館650KVA)
自家発電設備	ディーゼル機関 4サイクル 440PS 1800rpm 3φ3W6600V 375KVA
蓄電池設備	キュービクル式直流電源装置 容量 300AH
空調設備	
熱源設備	空気熱源熱回収型スクリュウ式ヒートポンプ冷凍機 165RT+110RT 蓄熱槽 1560㎡
排煙設備	自然排煙+機械排煙6系統(うち美術館4系統 博物館2系統)
衛生設備	
給水設備	受水槽 上水10㎡、雑用水29㎡ 受水方式 加圧給水ポンプ方式
排水設備	汚水・雨水分流式(公共下水道へ放流)
消火設備	ハロンガス消火(収蔵部門各室・展示部門各室・書庫) /屋内消火栓/スプリンクラー/消火器/泡消火(駐車場)
自動火災報知設備	(館内守衛室にて集中管理) 煙感知器 光電スポット型 美術館239台 博物館139台 熱感知機 差動スポット型 美術館91台 博物館52台 定温スポット型 美術館17台 博物館13台
防災・防犯設備	(館内守衛室にて集中管理) 受信盤 複合GR型 1020回線 ITV監視装置、防災アンプ(720W) 監視カメラ 美術館29台(うち展示室9台) 博物館15台(うち展示室6台) 防犯センサー

展示・保存環境

		面積	床材	天上高
展示部門	展示室 A	1,057.0㎡	ナラフローリング	5m
	ケース	L13,706 × D1,200 × H3,372 + L31,070 × D1,200 × H3,372 (mm)		
	展示室 B	486.1㎡	同上	4m
	展示室 C	1,038.6㎡	同上	5m
	ケース	L25,211 × D1,200 × H3,372 (mm)		
	1F 展示資材倉庫	136.2㎡	ビニアスタイル	4m
	2F 展示資材倉庫	121.5㎡	同上	4m
収蔵部門	収蔵庫 1 (立体)	342.5㎡	耐水合板下地 ブナフローリング	4m
	収蔵庫 2 (平面)	685.6㎡	同上	4m
	前室	61.4㎡	同上	4m
	一時保管室	81.0㎡	モザイクパーケット	4m
	作業室	82.0㎡	ビニアスタイル	5.8m
	荷解室	130.0㎡	同上	5.8m
	搬出入口	108.4㎡	モルタル金ゴテ／エポキシ系塗床	4.8m
	展示照明	ハロゲンダウンライト／蛍光灯（着脱式）／スポットライト（着脱式） すべて紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能		
空調	展示室	2系統		
	収蔵庫	2系統		
	展示室	設定温度	通年 22℃	
		設定湿度	通年 55%	
	収蔵庫	設定温度	通年 22℃	
	設定湿度	通年 55%		
作品専用昇降機	油圧式・30m/min・最大積載量 3.0 トン H3,000 × W5,000 × D2,500 (mm)			

案内

利用案内

開館時間 9:30～17:00（入場は 16:30 まで）
 休館日 毎週月曜日（祝日のときはその翌平日）
 年末年始（12月29日～1月3日）
 展示替え期間
 駐車場 有料（90台収容）

交通案内

JR 和歌山駅又は南海電鉄和歌山市駅からバスで約 10 分、
 「県庁前」下車、徒歩 2 分
 （和歌山城の南、県庁前交差点すぐ）



